

「北区教育ビジョン 2024」策定に係る  
アンケート調査報告書

概要版

令和5年2月  
北区教育委員会



# 目 次

第 1 部	調査の概要 .....	1
第 2 部	調査の結果 .....	2
1	保護者及び保護者の子どもについて .....	2
2	北区の区立小・中学校の教育について .....	4
3	北区の教育行政（全般）について .....	10
4	子どもたちが自ら未来を切り拓く力を育む取り組みについて .....	16
5	就学前教育について .....	24
6	義務教育について .....	26
7	家庭・地域の教育力について .....	34
8	教育全般について .....	38
9	北区の教育行政について .....	44
10	生涯学習について .....	47
11	自由意見について .....	55



## 第 1 部 調査の概要

### 1 調査の目的

本調査は、北区在住で 0 歳から中学校 3 年生までのお子さんがある保護者の方を対象として、北区の教育についてどのように感じているかをおうかがいし、「北区教育ビジョン 2024」策定にあたっての基礎資料とすることを目的としています。

### 2 調査の対象

住民基本台帳から無作為抽出した 0 歳から中学 3 年生までの子どもを持つ保護者 2,000 人

### 3 調査の方法

調査票を対象者に郵送で配布し、郵送で回収する無記名郵送方式  
(ハガキによるお礼を兼ねた督促状：1 回送付)

### 4 調査期間

令和 4 年 10 月 19 日～11 月 15 日

### 5 配布・回収状況

調査票の 種類	配布 対象数	転居等で 配布不能	有効 配布数 (A)	回収数	白票・ 無効票	有効 回収数 (B)	有効 回収率 (B)／(A)
保護者	2,000	1	1,999	917	0	917	45.9%

### 6 報告書の表記

- ① 表、グラフに使われる「n」は、各設問に対する回答者数となります。比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示します。
- ② 集計した数値(%)は小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位まで表示しています。そのため、質問に対する回答の選択肢が 1 つだけの場合、選択肢の数値(%)をすべて合計しても、100.0%にならない場合があります。
- ③ 回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると 100.0%を超えます。
- ④ 表、グラフの中で、アンケート調査票の選択肢の文章が長い場合、一部省略して表現している場合があります。

※ 回答が少数である場合の比率については、特定の意向が強く反映される場合があることにご留意ください。

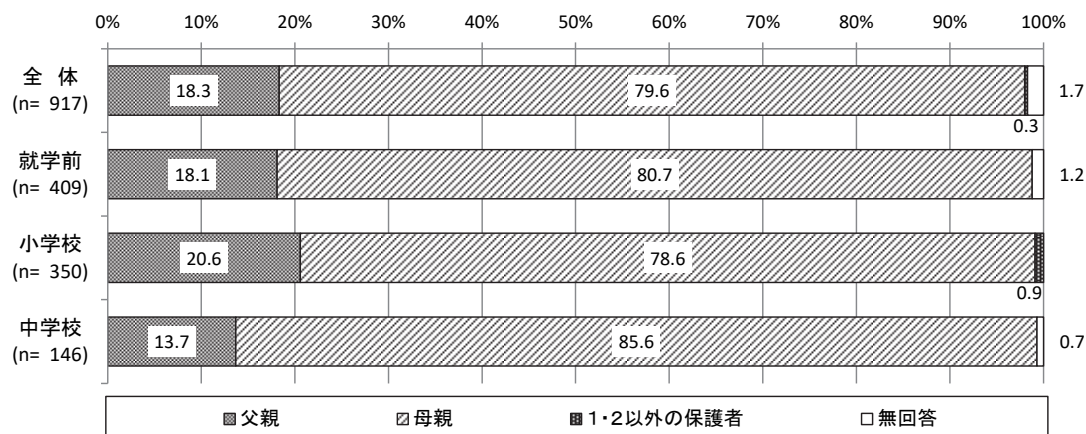
## 第2部 調査の結果

### 1 保護者及び保護者の子どもについて

#### (1) 子どもとの関係

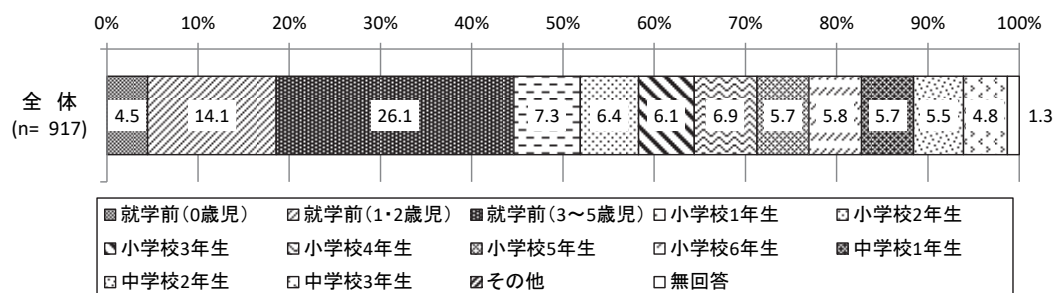
全体では、「父親」が18.3%、「母親」が79.6%となっています。

子どもの就学状況別に見ると、「母親」が就学前、小学校で8割前後、中学校で8割台半ばとなっています。



#### (2) 子どもの学年

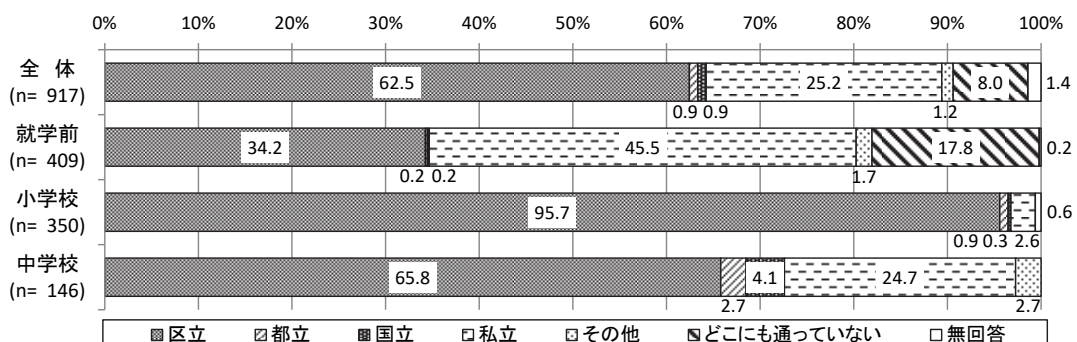
「就学前（3～5歳児）」が26.1%と最も高く、次いで「就学前（1・2歳児）」が14.1%、「小学校1年生」が7.3%となっています。



#### (3) 通園・通学先の種類

全体では、「区立」が62.5%と最も高く、次いで「私立」が25.2%、「どこにも通っていない」が8.0%となっています。

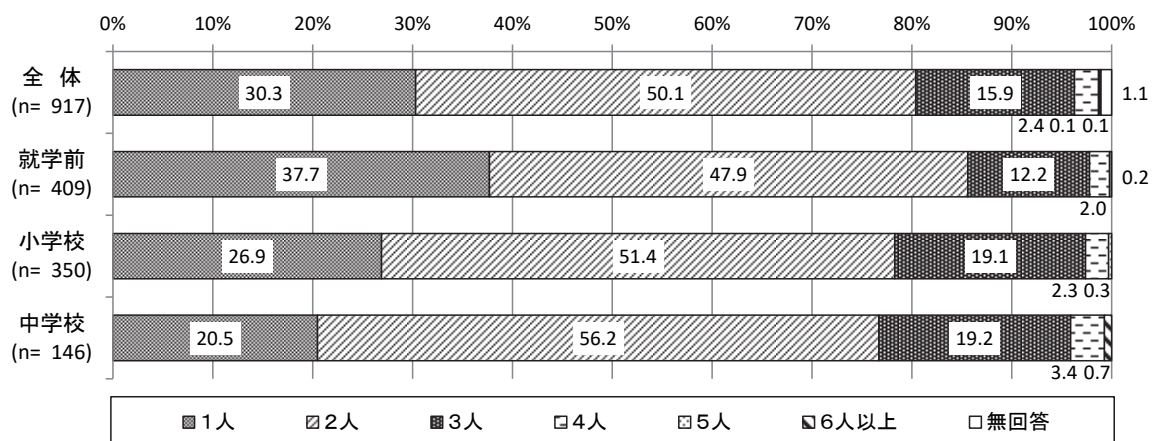
子どもの就学状況別に見ると、就学前では「私立」が45.5%と最も高く、次いで「区立」が34.2%、「どこにも通っていない」が17.8%となっています。小学校では「区立」が95.7%を占めています。中学校では「区立」が65.8%と最も高く、次いで「私立」が24.7%となっています。



#### (4) きょうだいの人数

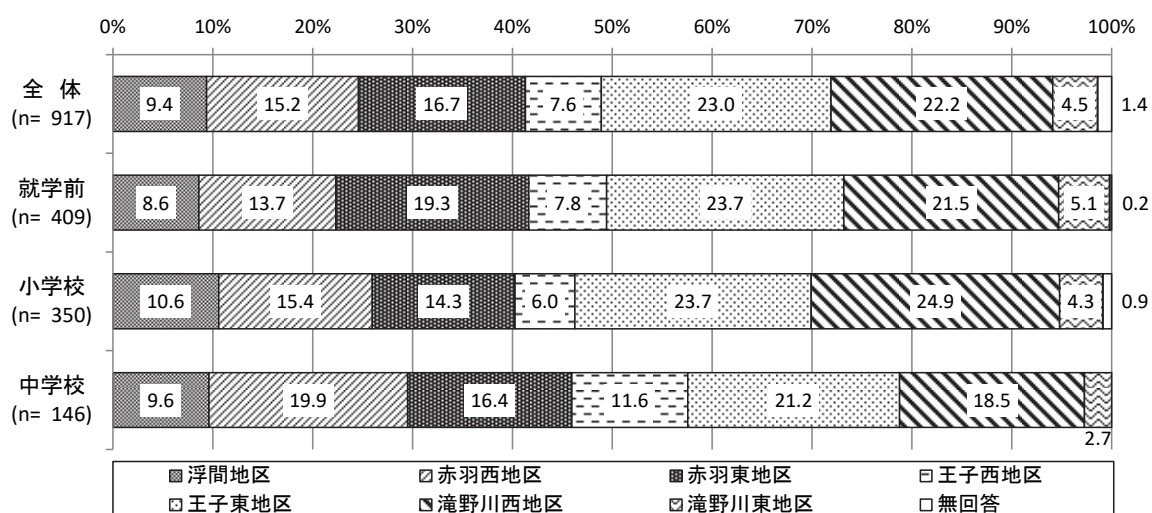
全体では、「2人」が50.1%と最も高く、次いで「1人」が30.3%、「3人」が15.9%となっています。

子どもの就学状況別に見ると、就学先が上がるにつれて「1人」の割合は低くなり、逆に「2人」「3人」の割合が高くなっています。



#### (5) 居住地区

全体では、「浮間地区」が9.4%、「赤羽西地区」が15.2%、「赤羽東地区」が16.7%、「王子西地区」が7.6%、「王子東地区」が23.0%、「滝野川西地区」が22.2%、「滝野川東地区」が4.5%となっています。



※前回調査で「滝野川東地区」に含まれた「堀船1～4丁目」の地域は、今回調査では「王子東地区」に含まれている。

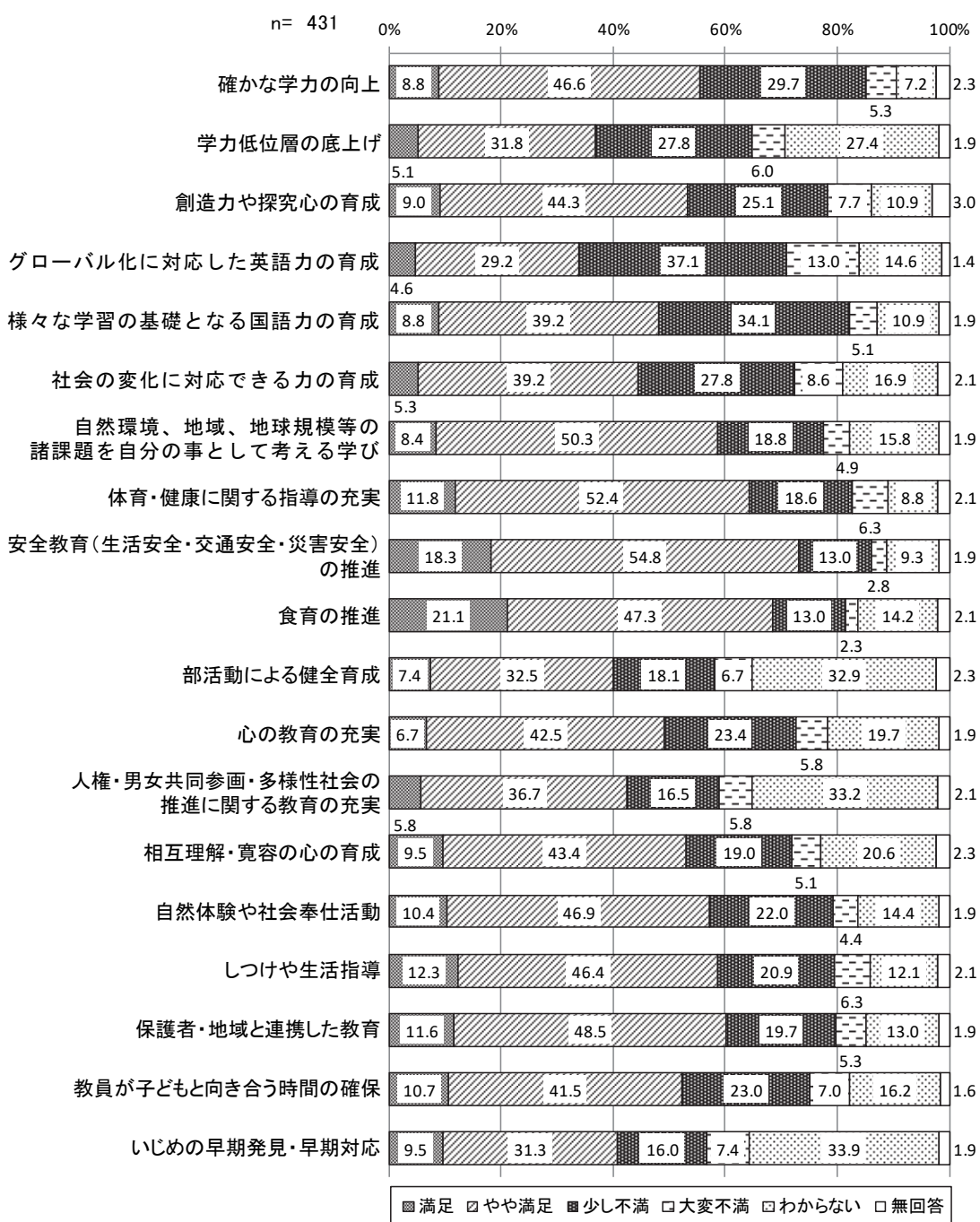
## 2 北区の区立小・中学校の教育について

### (1) 北区の区立小・中学校の現状の満足度と今後の重要度

#### ①現状の満足度（区立の小・中学校）

『満足』（「満足」＋「やや満足」）という回答は、「安全教育（生活安全・交通安全・災害安全）の推進」が73.1%と最も高く、次いで「食育の推進」が68.4%、「体育・健康に関する指導の充実」が64.2%となっています。

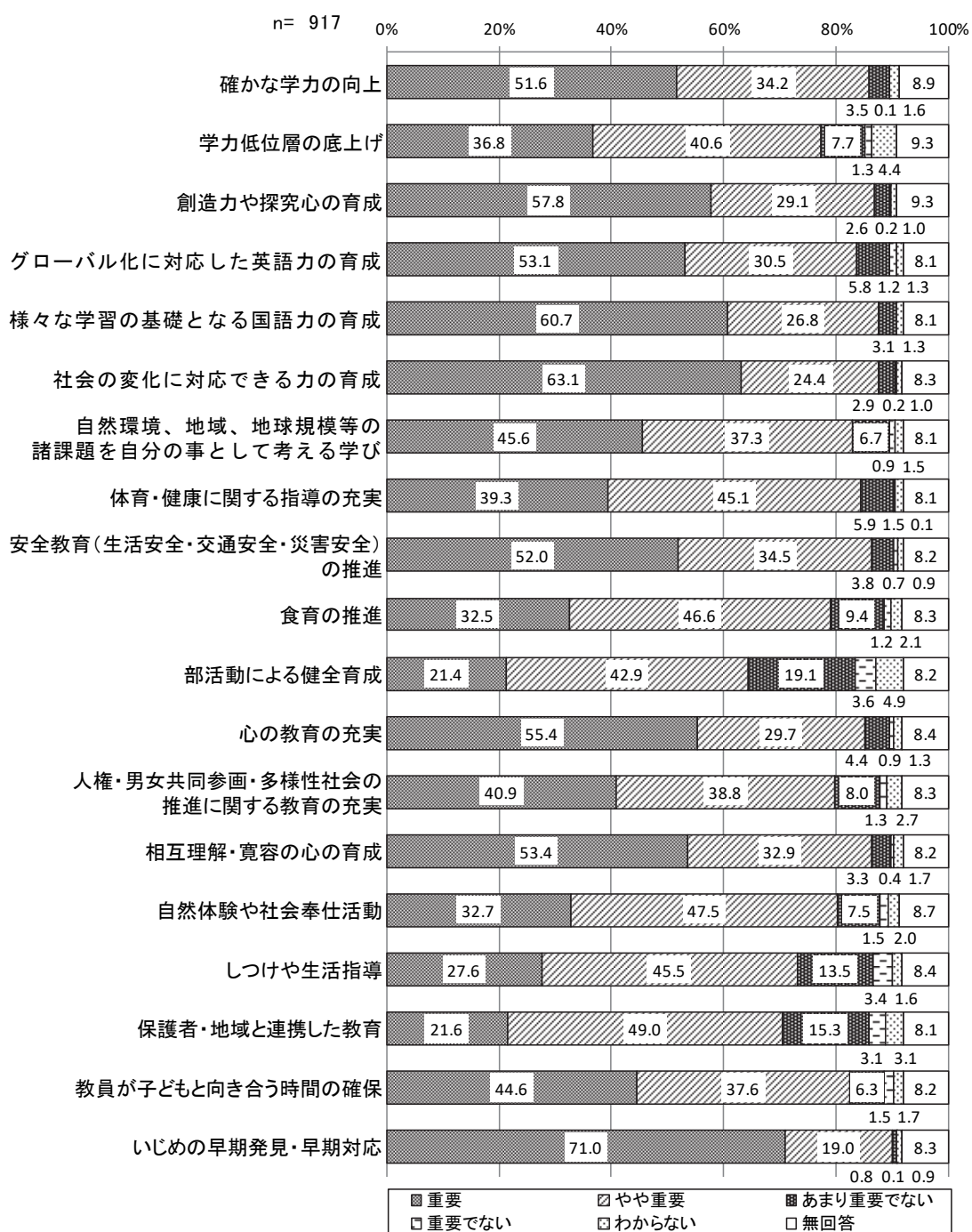
一方、『不満』（「少し不満」＋「大変不満」）という回答は、「グローバル化に対応した英語力の育成」が50.1%と最も高く、次いで、「様々な学習の基礎となる国語力の育成」が39.2%、「社会の変化に対応できる力の育成」が36.4%となっています。



## ②今後の重要度（全体）

『重要』（「重要」＋「やや重要」）という回答は、「いじめの早期発見・早期対応」が90.0%と最も高く、次いで「様々な学習の基礎となる国語力の育成」と「社会の変化に対応できる力の育成」が87.5%となっています。

一方、『重要でない』（「あまり重要でない」＋「重要でない」）という回答は、「部活動による健全育成」が22.7%と最も高く、次いで、「保護者・地域と連携した教育」が18.4%、「しつけや生活指導」が16.9%となっています。



### ③現状の満足度及び今後の重要度の点数化

各回答者の項目ごとの満足度及び重要度を以下に示す方法で点数化したうえで、各項目において回答者全体の平均点を算出した結果が下図になります。

#### （点数化の方法）

##### 「現状の満足度」の評価点

「満足」 2点、「やや満足」 1点、「やや不満」 - 1点、「不満」 - 2点、「わからない」 0点

##### 「現状の満足度」の平均評価点

= (「満足」と答えた人数×2点+「やや満足」と答えた人数×1点+「やや不満」と答えた人数×-1点+「不満」と答えた人数×-2点+「わからない」と答えた人数×0点) ÷ 無回答を除く全回答者数

##### 「今後の重要度」の評価点

「重要」 2点、「やや重要」 1点、「あまり重要でない」 - 1点、「重要でない」 - 2点、「わからない」 0点

##### 「今後の重要度」の平均評価点

= (「重要」と答えた人数×2点+「やや重要」と答えた人数×1点+「あまり重要でない」と答えた人数×-1点+「重要でない」と答えた人数×-2点+「わからない」と答えた人数×0点) ÷ 無回答を除く全回答者数

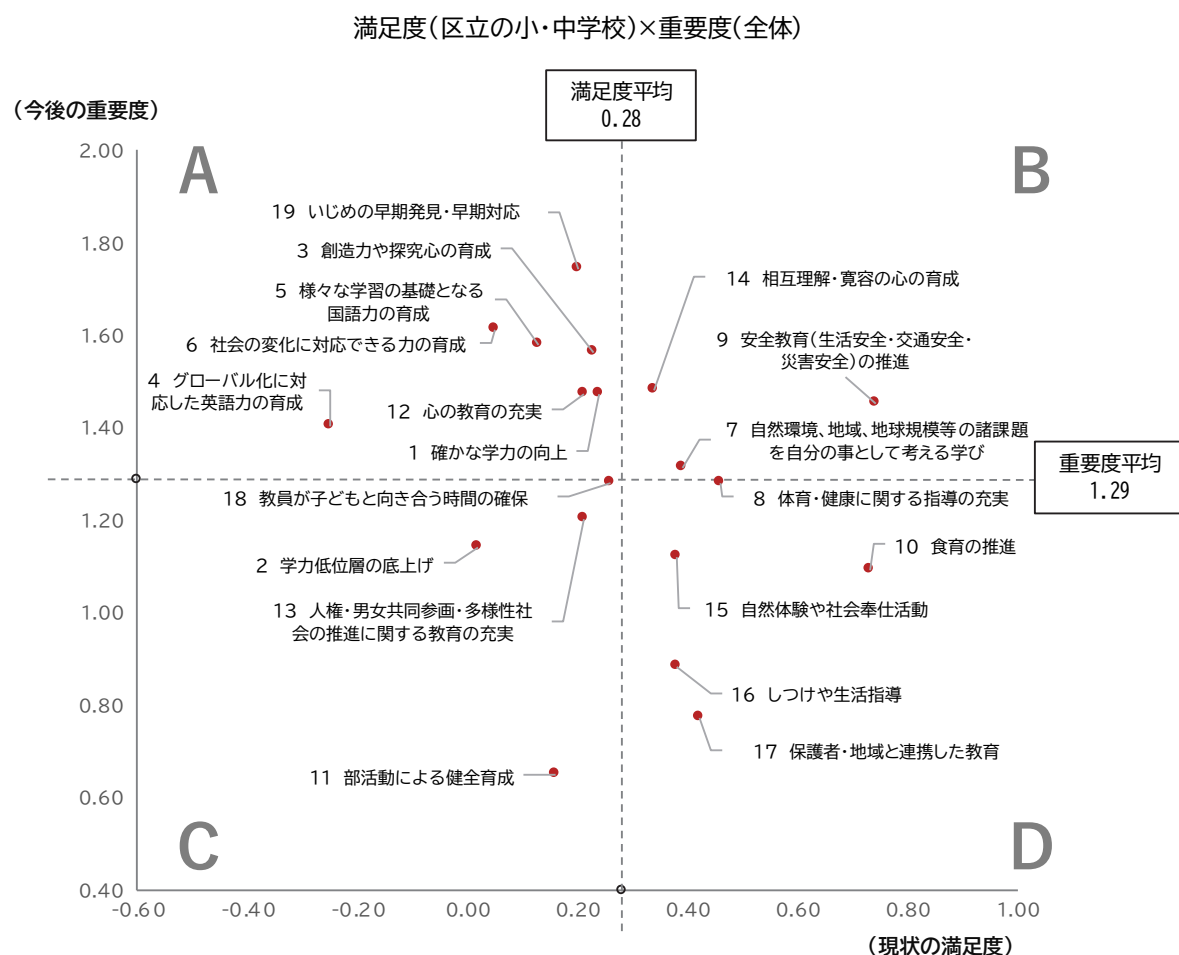
		現状の満足度	今後の重要度
		区立の 小・中学校	全体
1	確かな学力の向上	0.24	1.47
2	学力低位層の底上げ	0.02	1.14
3	創造力や探究心の育成	0.23	1.56
4	グローバル化に対応した英語力の育成	-0.25	1.40
5	様々な学習の基礎となる国語力の育成	0.13	1.58
6	社会の変化に対応できる力の育成	0.05	1.61
7	自然環境、地域、地球規模等の諸課題を自分の事として考える学び	0.39	1.31
8	体育・健康に関する指導の充実	0.46	1.28
9	安全教育(生活安全・交通安全・災害安全)の推進	0.74	1.45
10	食育の推進	0.73	1.09
11	部活動による健全育成	0.16	0.65
12	心の教育の充実	0.21	1.47
13	人権・男女共同参画・多様性社会の推進に関する教育の充実	0.21	1.20
14	相互理解・寛容の心の育成	0.34	1.48
15	自然体験や社会奉仕活動	0.38	1.12
16	しつけや生活指導	0.38	0.88
17	保護者・地域と連携した教育	0.42	0.77
18	教員が子どもと向き合う時間の確保	0.26	1.28
19	いじめの早期発見・早期対応	0.20	1.74
平 均		0.28	1.29

#### ④現状の満足度と今後の重要度の相関

施策の満足度と重要度について、それぞれの平均値（満足度 0.28、重要度 1.29）を基準として、「A：満足度は低いが、重要度は高い」「B：満足度・重要度がともに高い」「C：満足度・重要度がともに低い」「D：満足度は高いが、重要度は低い」の4つの領域に分けています。

満足度は低いが、重要度は高いA領域には、「1 確かな学力の向上」「3 創造力や探究心の育成」「4 グローバル化に対応した英語力の育成」「5 様々な学習の基礎となる国語力の育成」「6 社会の変化に対応できる力の育成」「12 心の教育の充実」「19 いじめの早期発見・早期対応」が位置付けられます。満足度・重要度がともに高いB領域には「7 自然環境、地域、地球規模等の諸課題を自分の事として考える学び」「9 安全教育（生活安全・交通安全・災害安全）の推進」「14 相互理解・寛容の心の育成」が位置付けられます。

満足度・重要度がともに低いC領域には「2 学力低位層の底上げ」「11 部活動による健全育成」「13 人権・男女共同参画・多様性社会の推進に関する教育の充実」「18 教員が子どもと向き合う時間の確保」が位置付けられます。満足度は高いが、重要度は低いD領域には「8 体育・健康に関する指導の充実」「10 食育の推進」「15 自然体験や社会奉仕活動」「16 しつけや生活指導」「17 保護者・地域と連携した教育」が位置づけられます。



A：満足度は低いが、重要度は高い

B：満足度・重要度ともに高い

C：満足度・重要度ともに低い

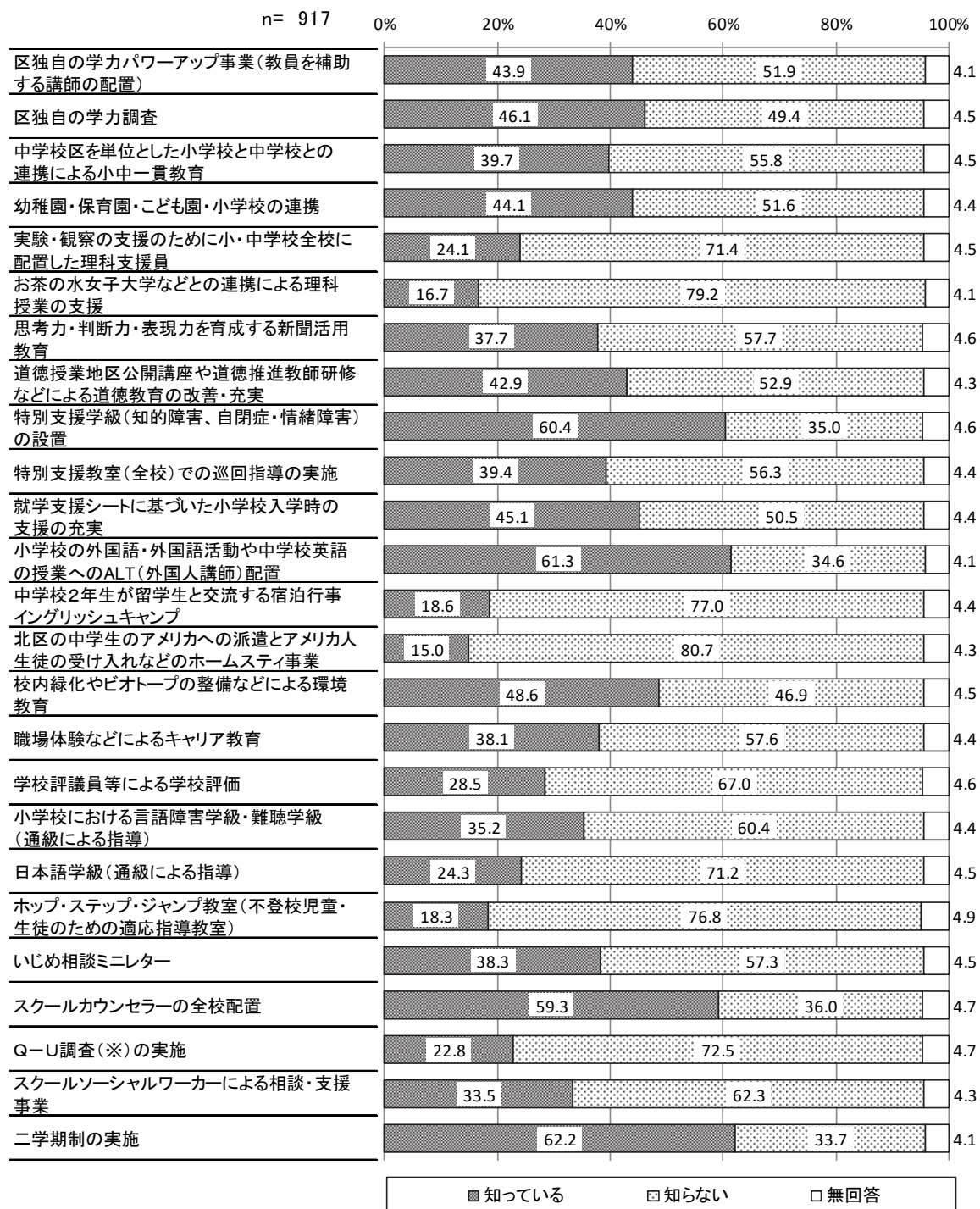
D：満足度は高いが、重要度は低い

## (2) 北区の区立小・中学校の取り組みの認知度・満足度

### ①認知度（全体）

「知っている」という回答は、「二学期制の実施」が 62.2%と最も高く、次いで「小学校の外国語・外国語活動や中学校英語の授業への ALT（外国人講師）配置」が 61.3%、「特別支援学級（知的障害、自閉症・情緒障害）の設置」が 60.4%となっています。

一方、「知らない」という回答は、「北区の中学生のアメリカへの派遣とアメリカ人生徒の受け入れなどのホームステイ事業」が 80.7%と最も高く、次いで、「お茶の水女子大学などとの連携による理科授業の支援」が 79.2%、「中学校 2 年生が留学生と交流する宿泊行事イングリッシュキャンプ」が 77.0%となっています。

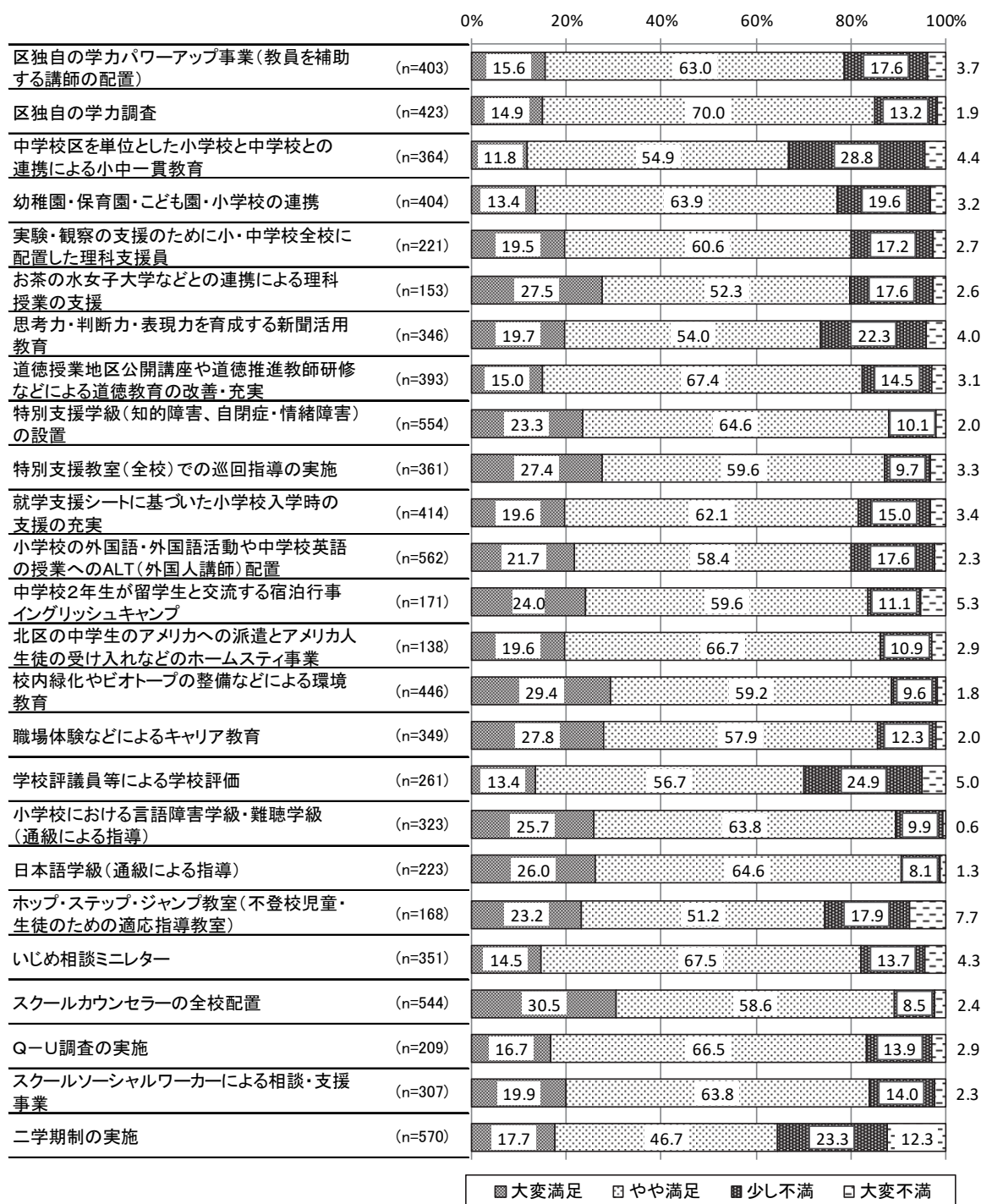


※Q-U調査：「児童も教師も心から笑える学級を育てたい」との理念をもとに作成されたクラスの問題点を表や図に表わして分析するためのアンケート調査

## ②満足度（全体）

『満足』（「大変満足」＋「やや満足」）という回答は、「日本語学級（通級による指導）」が90.6%と最も高く、次いで「小学校における言語障害学級・難聴学級（通級による指導）」が89.5%、「スクールカウンセラーの全校配置」が89.1%となっています。

一方、『不満』（「少し不満」＋「大変不満」）という回答は、「二学期制の実施」が35.6%と最も高く、次いで、「中学校区を単位とした小学校と中学校との連携による小中一貫教育」が33.2%、「学校評議員等による学校評価」が29.9%となっています。



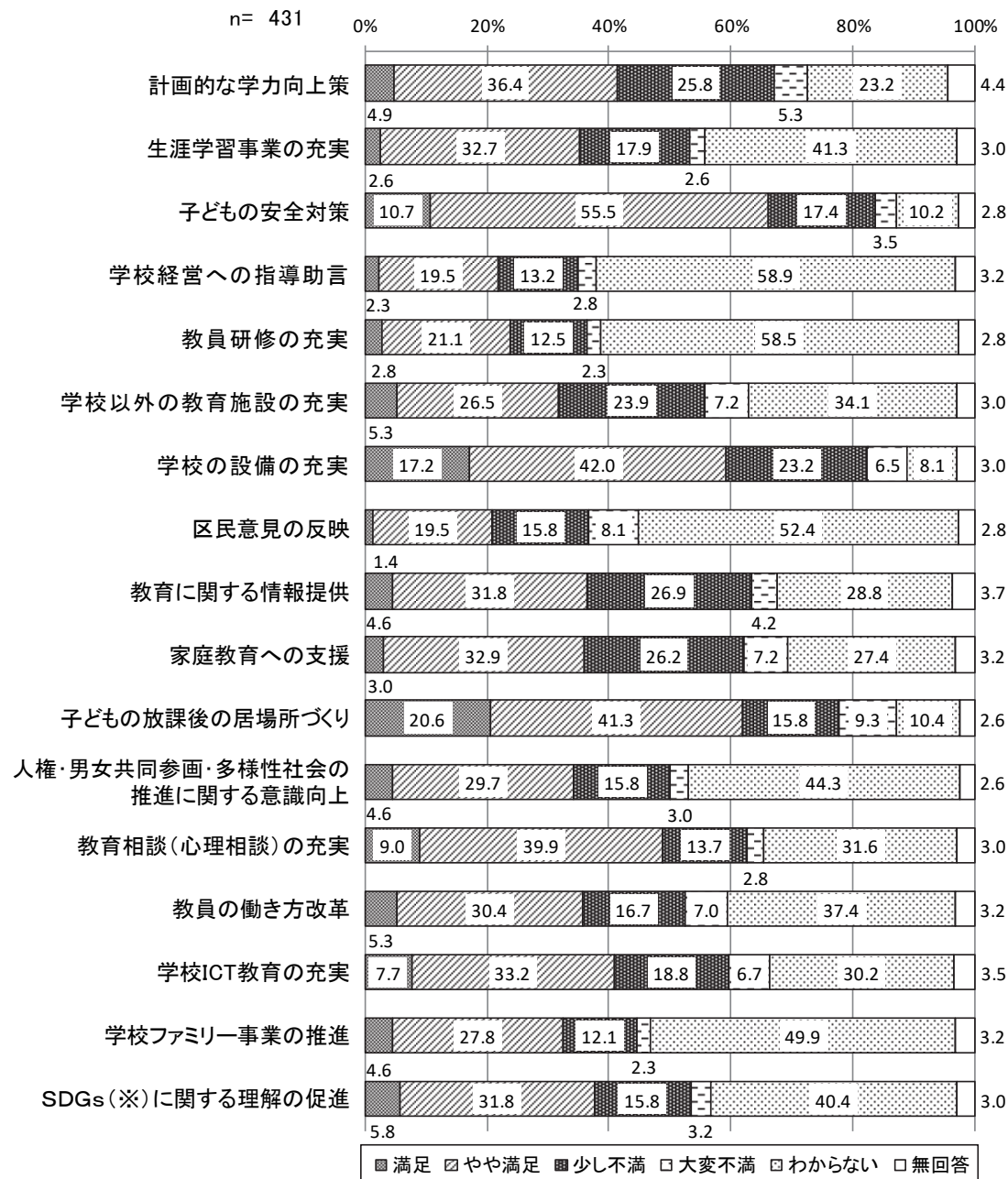
### 3 北区の教育行政（全般）について

#### （１）北区の教育行政（全般）の現状の満足度と今後の重要度

##### ①現状の満足度（区立の小・中学校）

『満足』（「満足」＋「やや満足」）という回答は、「子どもの安全対策」が 66.2%と最も高く、次いで「子どもの放課後の居場所づくり」が 61.9%、「学校の設備の充実」が 59.2%となっています。

一方、『不満』（「少し不満」＋「大変不満」）という回答は、「家庭教育への支援」が 33.4%と最も高く、次いで、「計画的な学力向上策」、「学校以外の教育施設の充実」、「教育に関する情報提供」が 31.1%となっています。

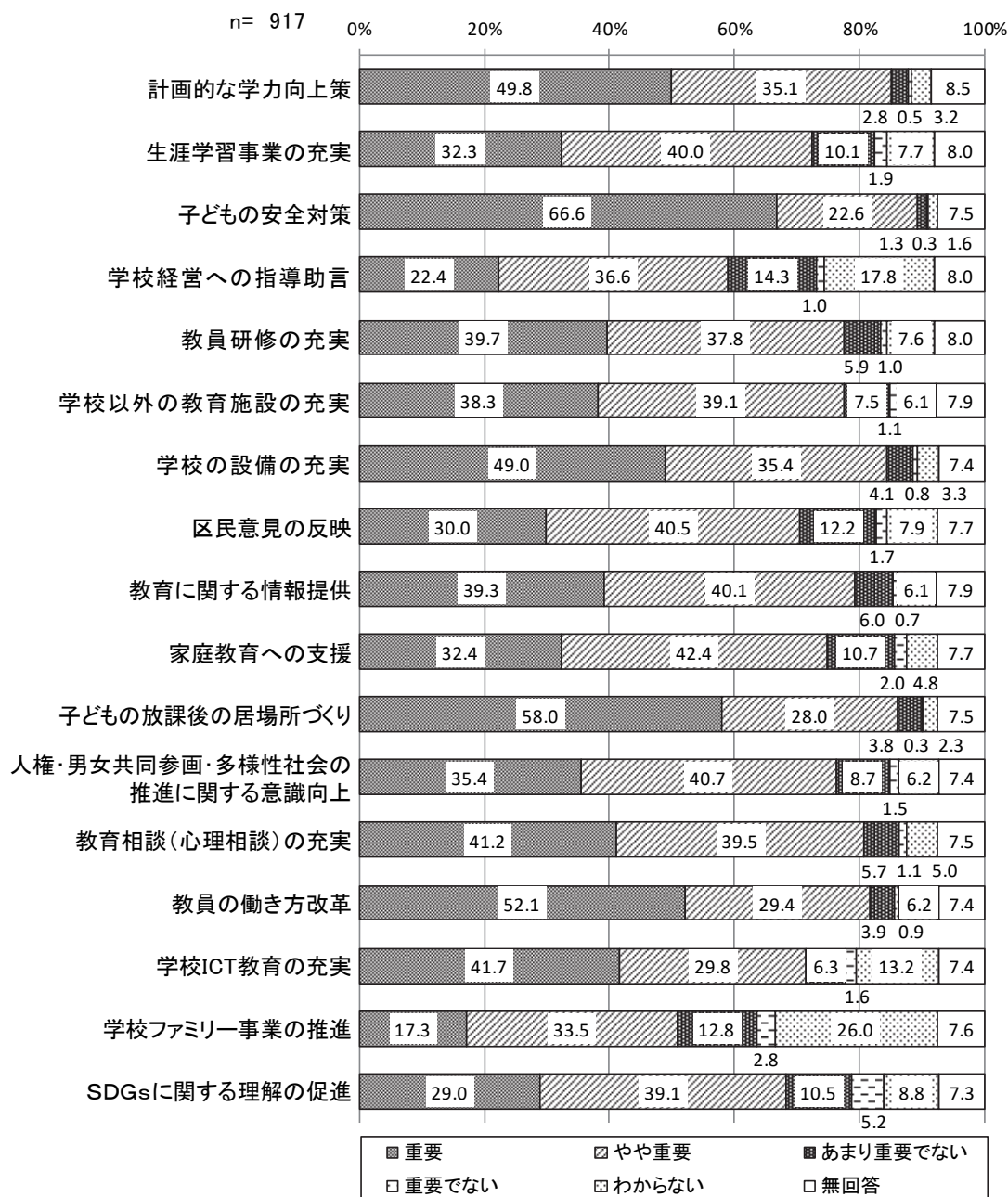


※SDGs:SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015 年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中で掲げられました。2030 年を達成年限とし、17 のゴールと 169 のターゲットから構成されています。

## ②今後の重要度（全体）

『重要』（「重要」＋「やや重要」）という回答は、「子どもの安全対策」が89.2%と最も高く、次いで「子どもの放課後の居場所づくり」が86.0%、「計画的な学力向上策」が84.9%となっています。

一方、『重要でない』（「あまり重要でない」＋「重要でない」）という回答は、「SDGsに関する理解の促進」が15.7%と最も高く、次いで、「学校ファミリー事業の推進」が15.6%、「学校経営への指導助言」が15.3%となっています。



### ③現状の満足度及び今後の重要度の点数化

各回答者の項目ごとの満足度及び重要度を以下に示す方法で点数化したうえで、各項目において回答者全体の平均点を算出した結果が下図になります。

#### (点数化の方法)

##### 「現状の満足度」の評価点

「満足」 2点、「やや満足」 1点、「やや不満」 - 1点、「不満」 - 2点、「わからない」 0点

##### 「現状の満足度」の平均評価点

= (「満足」と答えた人数×2点+「やや満足」と答えた人数×1点+「やや不満」と答えた人数×-1点+「不満」と答えた人数×-2点+「わからない」と答えた人数×0点) ÷ 無回答を除く全回答者数

##### 「今後の重要度」の評価点

「重要」 2点、「やや重要」 1点、「あまり重要でない」 - 1点、「重要でない」 - 2点、「わからない」 0点

##### 「今後の重要度」の平均評価点

= (「重要」と答えた人数×2点+「やや重要」と答えた人数×1点+「あまり重要でない」と答えた人数×-1点+「重要でない」と答えた人数×-2点+「わからない」と答えた人数×0点) ÷ 無回答を除く全回答者数

		現状の満足度	今後の重要度
		区立の 小・中学校	全 体
1	計画的な学力向上策	0.10	1.43
2	生涯学習事業の充実	0.15	0.99
3	子どもの安全対策	0.54	1.66
4	学校経営への指導助言	0.06	0.71
5	教員研修の充実	0.10	1.19
6	学校以外の教育施設の充実	-0.01	1.15
7	学校の設備の充実	0.41	1.38
8	区民意見の反映	-0.10	0.92
9	教育に関する情報提供	0.06	1.21
10	家庭教育への支援	-0.02	1.00
11	子どもの放課後の居場所づくり	0.50	1.51
12	人権・男女共同参画・多様性社会の推進に関する意識向上	0.18	1.08
13	教育相談(心理相談)の充実	0.40	1.23
14	教員の働き方改革	0.11	1.38
15	学校ICT教育の充実	0.17	1.12
16	学校ファミリー事業の推進	0.21	0.54
17	SDGsに関する理解の促進	0.22	0.82
平 均		0.18	1.14

#### ④現状の満足度と今後の重要度の相関

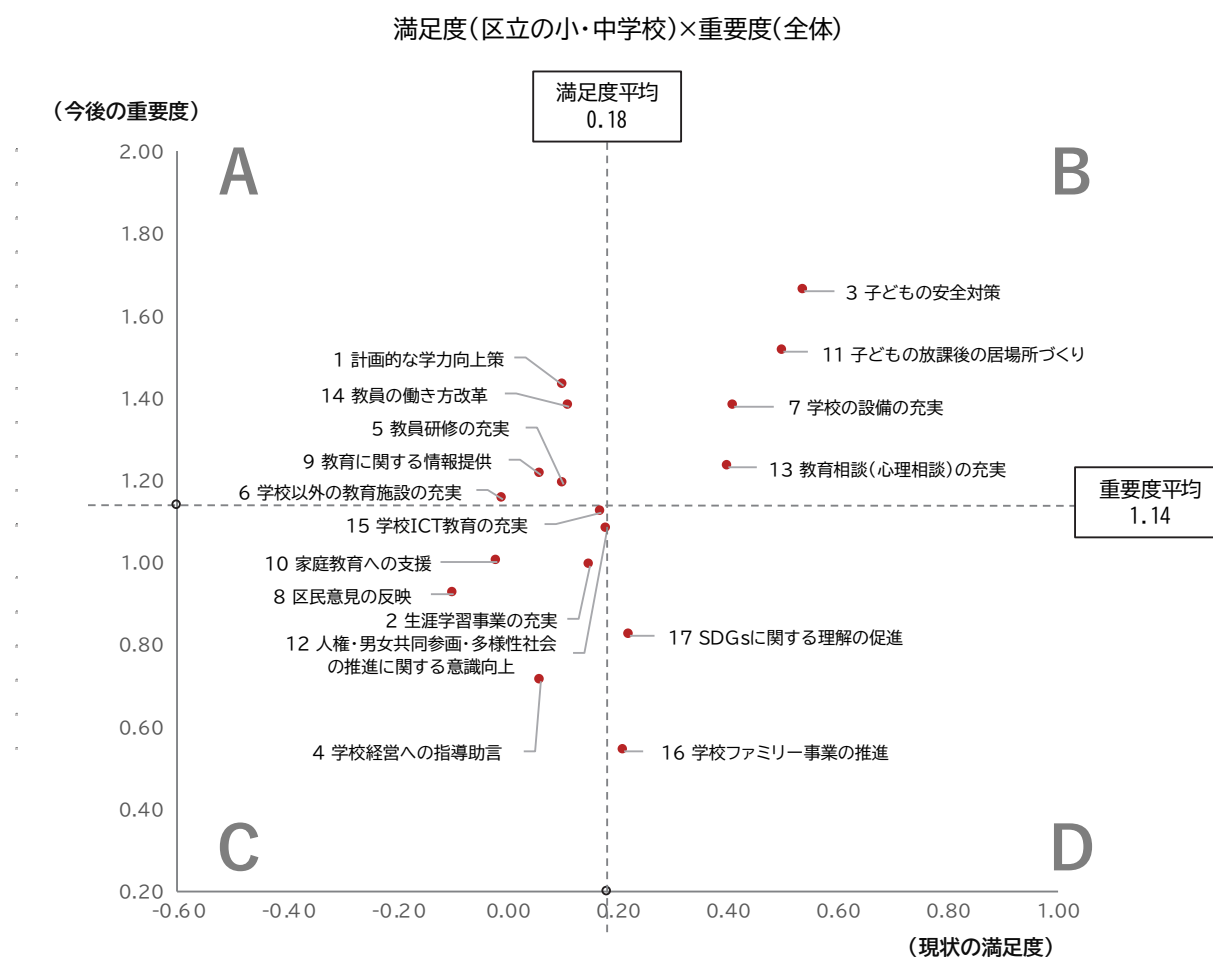
施策の満足度と重要度について、それぞれの平均値（満足度 0.18、重要度 1.14）を基準として、「A：満足度は低いが、重要度は高い」「B：満足度・重要度がともに高い」「C：満足度・重要度がともに低い」「D：満足度は高いが、重要度は低い」の4つの領域に分けています。

満足度は低いが、重要度は高いA領域には、「1 計画的な学力向上策」「5 教員研修の充実」「6 学校以外の教育施設の充実」「9 教育に関する情報提供」「14 教員の働き方改革」が位置付けられます。

満足度・重要度がともに高いB領域には「3 子どもの安全対策」「7 学校の設備の充実」「11 子どもの放課後の居場所づくり」「13 教育相談（心理相談）の充実」が位置付けられます。

満足度・重要度がともに低いC領域には「2 生涯学習事業の充実」「4 学校経営への指導助言」「8 区民意見の反映」「10 家庭教育への支援」「12 人権・男女共同参画・多様性社会の推進に関する意識向上」「15 学校ICT教育の充実」が位置付けられます。

満足度は高いが、重要度は低いD領域には「16 学校ファミリー事業の推進」「17 SDGsに関する理解の促進」が位置付けられます。



A：満足度は低いが、重要度は高い

B：満足度・重要度ともに高い

C：満足度・重要度ともに低い

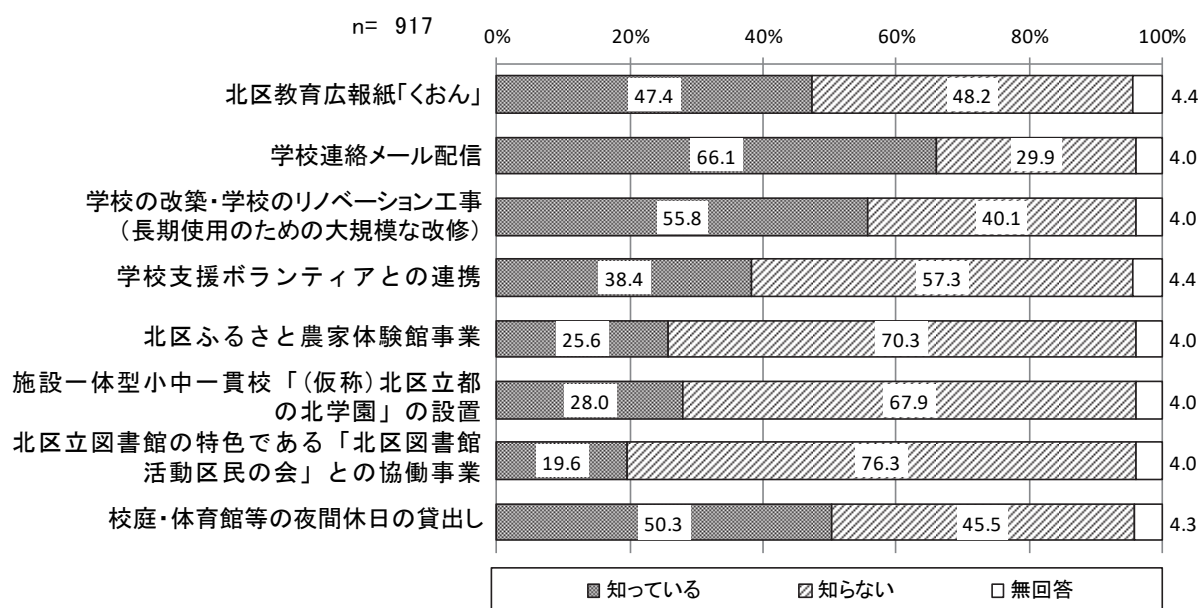
D：満足度は高いが、重要度は低い

## （２）北区教育委員会の取り組みの認知度・満足度

### ①認知度（全体）

「知っている」という回答は、「学校連絡メール配信」が 66.1%と最も高く、次いで「学校の改築・学校のリノベーション工事（長期使用のための大規模な改修）」が 55.8%、「校庭・体育館等の夜間休日の貸出し」が 50.3%となっています。

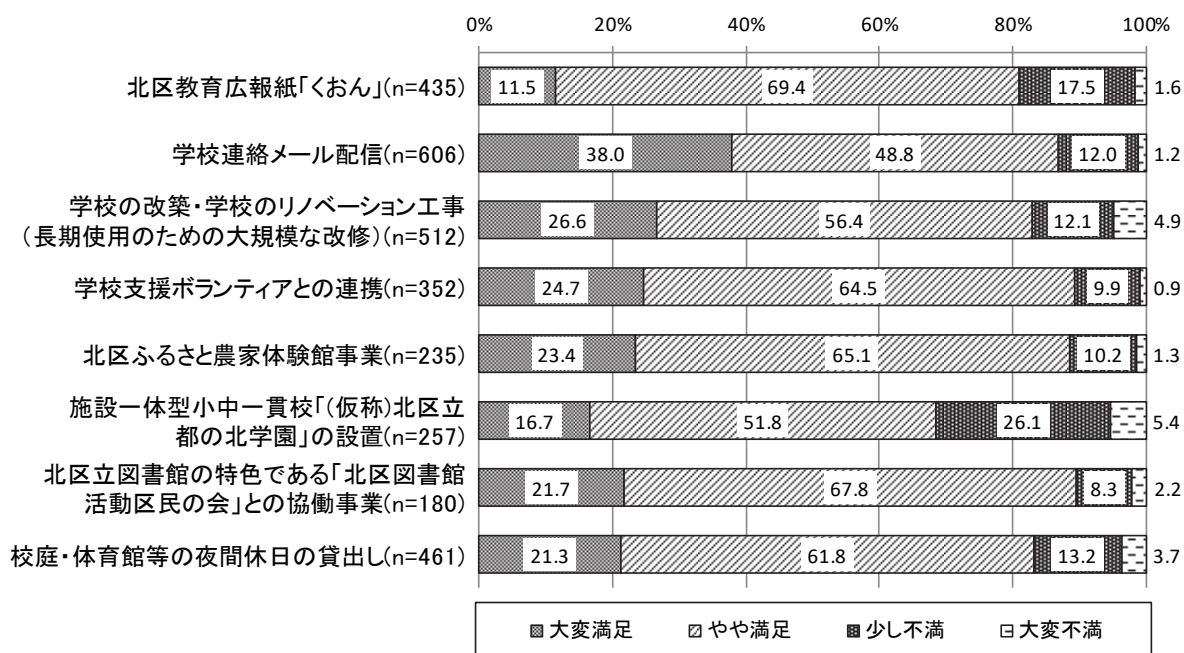
一方、「知らない」という回答は、「北区立図書館の特色である『北区図書館活動区民の会』との協働事業」が 76.3%と最も高く、次いで、「北区ふるさと農家体験館事業」が 70.3%、「施設一体型小中一貫校『（仮称）北区立都の北学園』の設置」が 67.9%となっています。



## ②満足度（全体）

『満足』（「大変満足」＋「やや満足」）という回答は、「北区立図書館の特色である『北区図書館活動区民の会』との協働事業」が89.5%と最も高く、次いで「学校支援ボランティアとの連携」が89.2%、「北区ふるさと農家体験館事業」が88.5%となっています。

一方、『不満』（「少し不満」＋「大変不満」）という回答は、「施設一体型小中一貫校『（仮称）北区立都の北学園』の設置」が31.5%と最も高く、次いで、「北区教育広報紙『くおん』」が19.1%、「学校の改築・学校のリノベーション工事（長期使用のための大規模な改修）」が17.0%となっています。



## 4 子どもたちが自ら未来を切り拓く力を育む取り組みについて

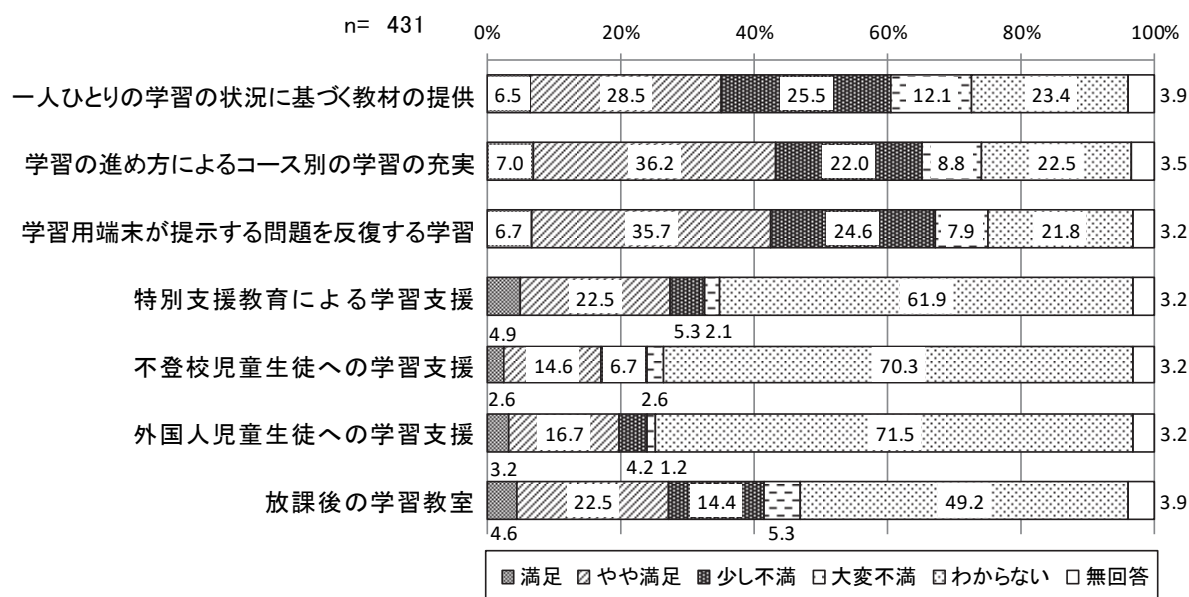
### (1)「個別最適な学びの充実」の取り組みの現状の満足度と今後の重要度

#### ①現状の満足度（区立の小・中学校）

『満足』（「満足」＋「やや満足」）という回答は、「学習の進め方によるコース別の学習の充実」が43.2%と最も高く、次いで「学習用端末が提示する問題を反復する学習」が42.4%となっています。

一方、『不満』（「少し不満」＋「大変不満」）という回答は、「一人ひとりの学習の状況に基づく教材の提供」が37.6%と最も高く、次いで、「学習用端末が提示する問題を反復する学習」が32.5%となっています。

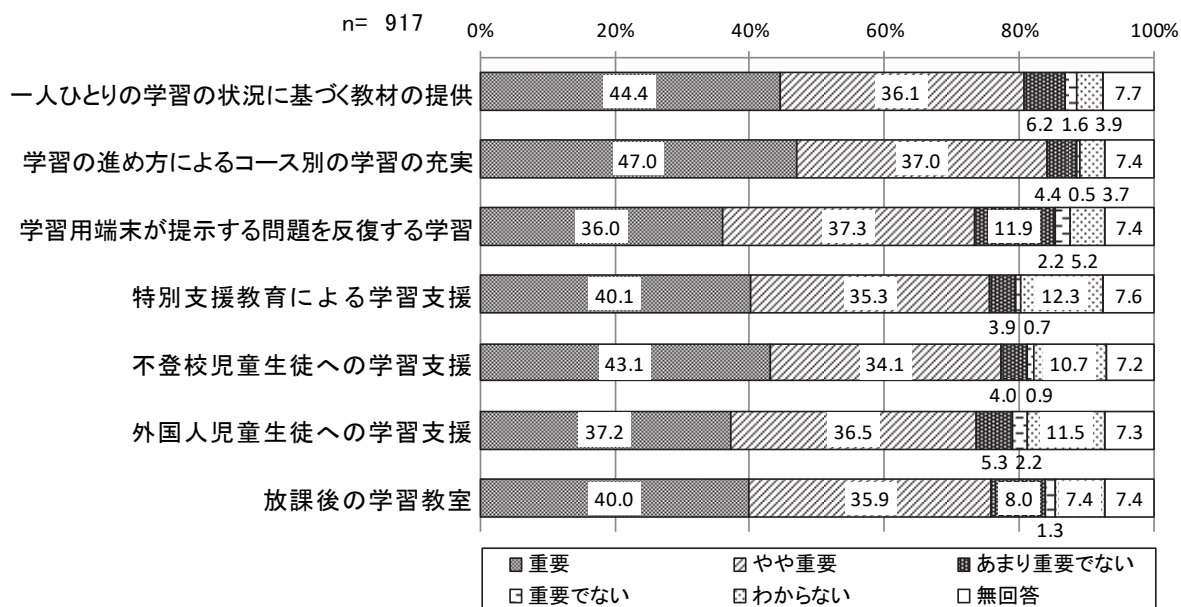
また、「わからない」という回答は、「外国人児童生徒への学習支援」が71.5%と最も高く、次いで、「不登校児童生徒への学習支援」が70.3%、「特別支援教育による学習支援」が61.9%となっています。



## ②今後の重要度（全体）

『重要』（「重要」＋「やや重要」）という回答は、「学習の進め方によるコース別の学習の充実」が 84.0%と最も高く、次いで「一人ひとりの学習の状況に基づく教材の提供」が 80.5%となっています。

一方、『重要でない』（「あまり重要でない」＋「重要でない」）という回答は、「学習用端末が提示する問題を反復する学習」が 14.1%と最も高く、次いで、「放課後の学習教室」が 9.3%となっています。



### ③現状の満足度及び今後の重要度の点数化

各回答者の項目ごとの満足度及び重要度を以下に示す方法で点数化したうえで、各項目において回答者全体の平均点を算出した結果が下図になります。

#### (点数化の方法)

##### 「現状の満足度」の評価点

「満足」 2点、「やや満足」 1点、「やや不満」 - 1点、「不満」 - 2点、「わからない」 0点

##### 「現状の満足度」の平均評価点

= (「満足」と答えた人数×2点+「やや満足」と答えた人数×1点+「やや不満」と答えた人数×-1点+「不満」と答えた人数×-2点+「わからない」と答えた人数×0点) ÷ 無回答を除く全回答者数

##### 「今後の重要度」の評価点

「重要」 2点、「やや重要」 1点、「あまり重要でない」 - 1点、「重要でない」 - 2点、「わからない」 0点

##### 「今後の重要度」の平均評価点

= (「重要」と答えた人数×2点+「やや重要」と答えた人数×1点+「あまり重要でない」と答えた人数×-1点+「重要でない」と答えた人数×-2点+「わからない」と答えた人数×0点) ÷ 無回答を除く全回答者数

		現状の満足度	今後の重要度
		区立の 小・中学校	全体
1	一人ひとりの学習の状況に基づく教材の提供	-0.08	1.25
2	学習の進め方によるコース別の学習の充実	0.11	1.36
3	学習用端末が提示する問題を反復する学習	0.09	1.00
4	特別支援教育による学習支援	0.24	1.19
5	不登校児童生徒への学習支援	0.08	1.23
6	外国人児童生徒への学習支援	0.17	1.09
7	放課後の学習教室	0.07	1.14
平 均		0.10	1.18

#### ④現状の満足度と今後の重要度の相関

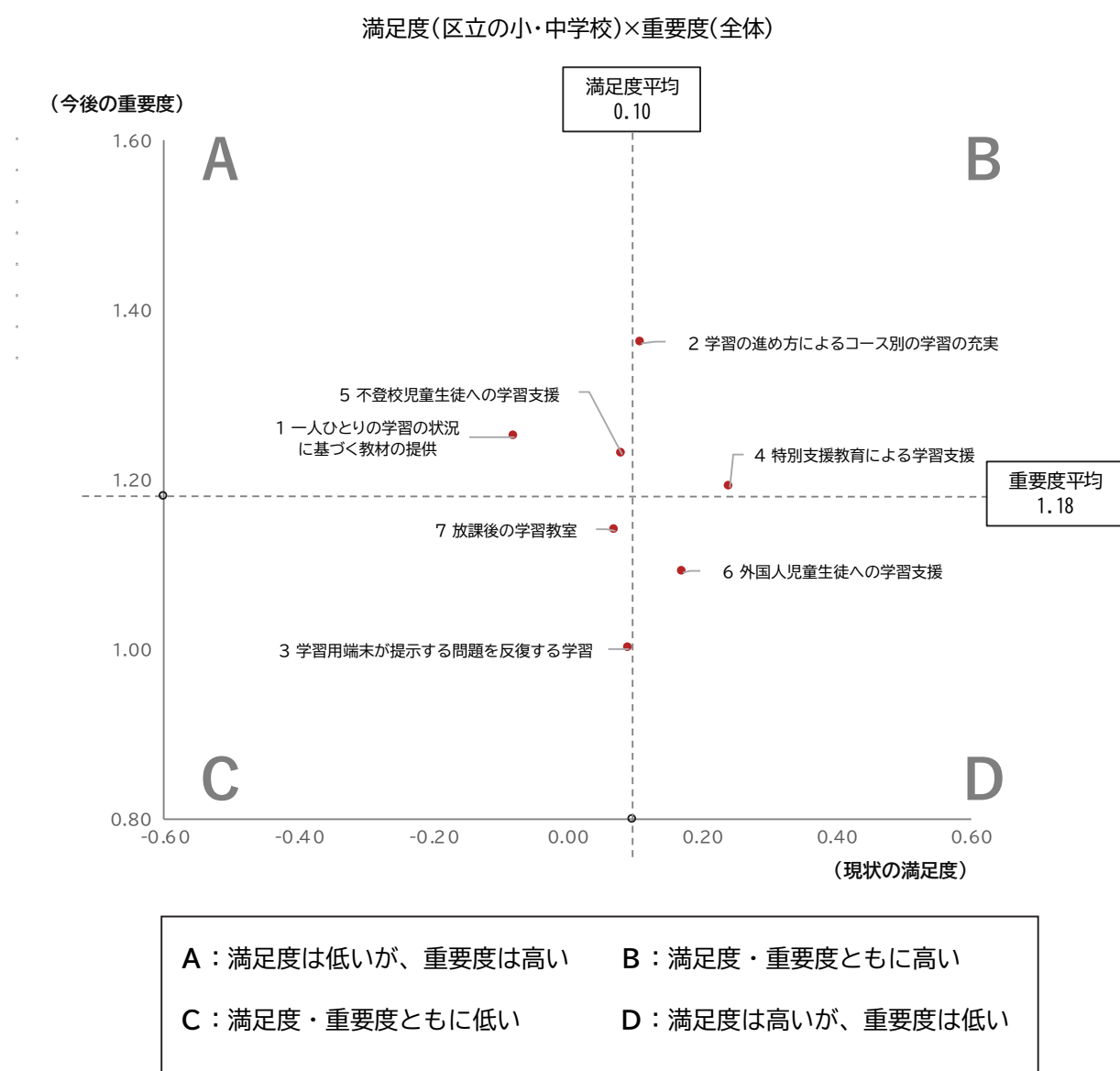
施策の満足度と重要度について、それぞれの平均値（満足度 0.10、重要度 1.18）を基準として、「A：満足度は低いが、重要度は高い」「B：満足度・重要度がともに高い」「C：満足度・重要度がともに低い」「D：満足度は高いが、重要度は低い」の4つの領域に分けています。

満足度は低いが、重要度は高いA領域には、「1 一人ひとりの学習の状況に基づく教材の提供」「5 不登校児童生徒への学習支援」が位置付けられます。

満足度・重要度がともに高いB領域には「2 学習の進め方によるコース別の学習の充実」「4 特別支援教育による学習支援」が位置付けられます。

満足度・重要度がともに低いC領域には「3 学習用端末が提示する問題を反復する学習」「7 放課後の学習教室」が位置付けられます。

満足度は高いが、重要度は低いD領域には「6 外国人児童生徒への学習支援」が位置づけられます。

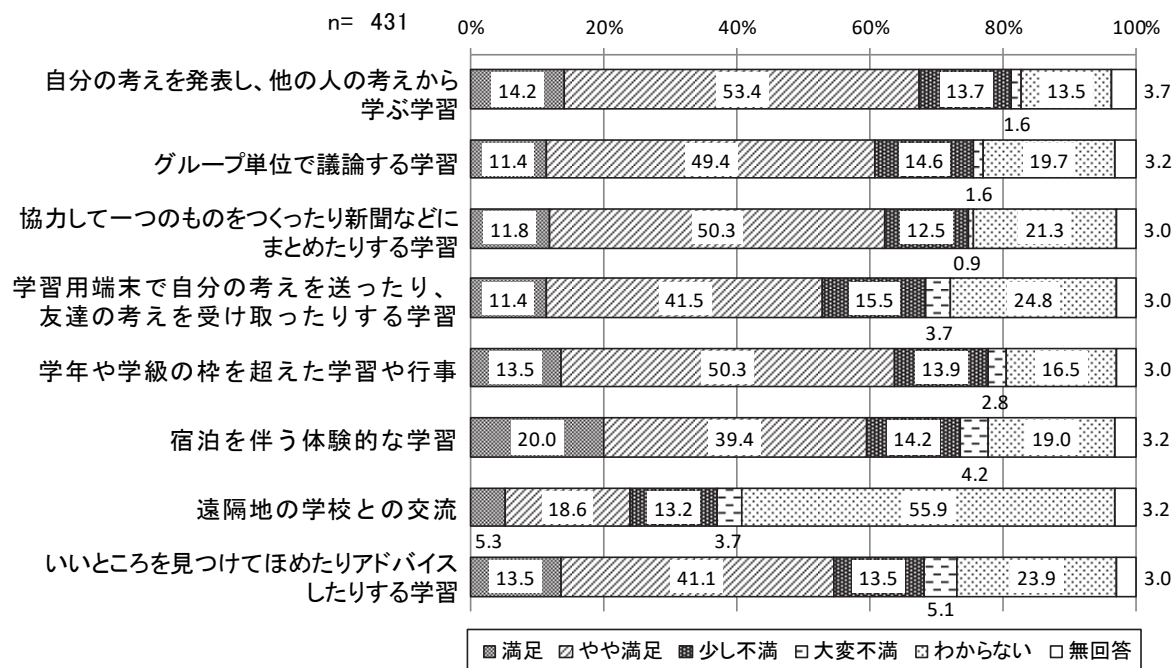


## （２）「協働的な学びの充実」の取り組みの現状の満足度と今後の重要度

### ①現状の満足度（区立の小・中学校）

『満足』（「満足」＋「やや満足」）という回答は、「自分の考えを発表し、他の人の考えから学ぶ学習」が67.6%と最も高く、次いで「学年や学級の枠を超えた学習や行事」が63.8%、「協力して一つのものをつくったり新聞などにまとめたりする学習」が62.1%となっています。

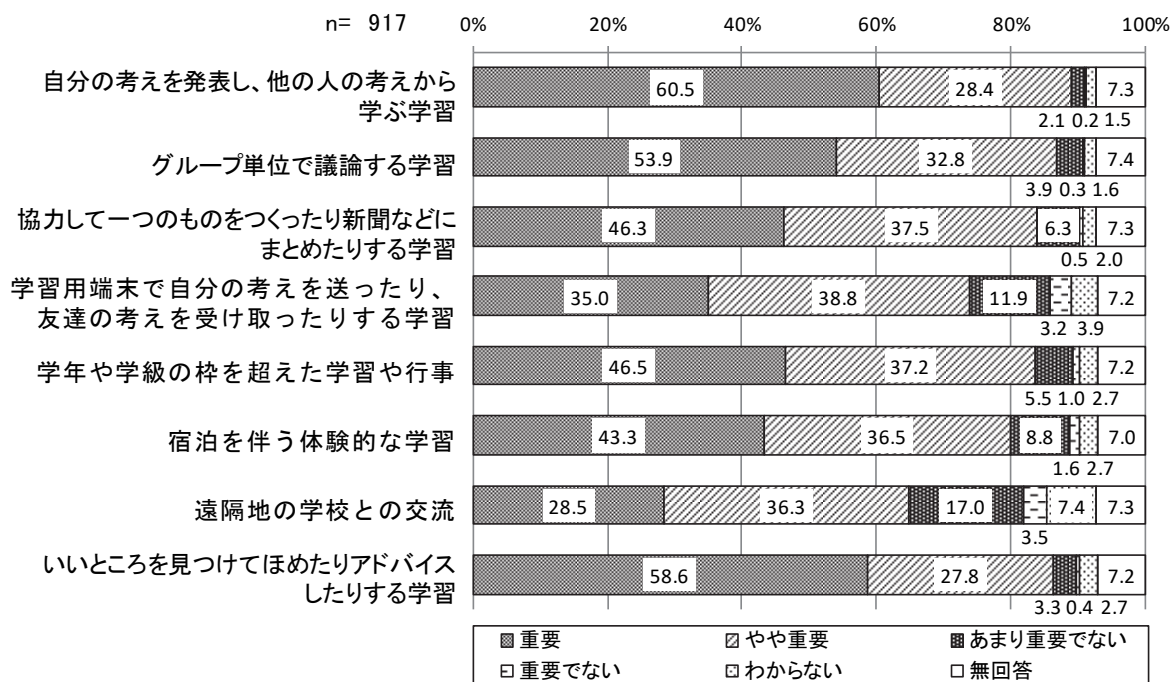
一方、『不満』（「少し不満」＋「大変不満」）という回答は、「学習用端末で自分の考えを送ったり、友達の考えを受け取ったりする学習」が19.2%と最も高く、次いで、「いいところを見つけてほめたりアドバイスしたりする学習」が18.6%、「宿泊を伴う体験的な学習」が18.4%となっています。



## ②今後の重要度（全体）

『重要』（「重要」＋「やや重要」）という回答は、「自分の考えを発表し、他の人の考えから学ぶ学習」が88.9%と最も高く、次いで「グループ単位で議論する学習」が86.7%、「いいところを見つけてほめたりアドバイスしたりする学習」が86.4%となっています。

一方、『重要でない』（「あまり重要でない」＋「重要でない」）という回答は、「遠隔地の学校との交流」が20.5%と最も高く、次いで、「学習用端末で自分の考えを送ったり、友達の考えを受け取ったりする学習」が15.1%となっています。



### ③現状の満足度及び今後の重要度の点数化

各回答者の項目ごとの満足度及び重要度を以下に示す方法で点数化したうえで、各項目において回答者全体の平均点を算出した結果が下図になります。

#### (点数化の方法)

##### 「現状の満足度」の評価点

「満足」 2点、「やや満足」 1点、「やや不満」－1点、「不満」－2点、「わからない」 0点

##### 「現状の満足度」の平均評価点

＝（「満足」と答えた人数×2点＋「やや満足」と答えた人数×1点＋「やや不満」と答えた人数×－1点＋「不満」と答えた人数×－2点＋「わからない」と答えた人数×0点）÷無回答を除く全回答者数

##### 「今後の重要度」の評価点

「重要」 2点、「やや重要」 1点、「あまり重要でない」－1点、「重要でない」－2点、「わからない」 0点

##### 「今後の重要度」の平均評価点

＝（「重要」と答えた人数×2点＋「やや重要」と答えた人数×1点＋「あまり重要でない」と答えた人数×－1点＋「重要でない」と答えた人数×－2点＋「わからない」と答えた人数×0点）÷無回答を除く全回答者数

		現状の満足度	今後の重要度
		区立の 小・中学校	全体
1	自分の考えを発表し、他の人の考えから学ぶ学習	0.67	1.58
2	グループ単位で議論する学習	0.56	1.47
3	協力して一つのものをつくったり新聞などにまとめたりする学習	0.61	1.32
4	学習用端末で自分の考えを送ったり、友達の考えを受け取ったりする学習	0.43	0.98
5	学年や学級の枠を超えた学習や行事	0.60	1.32
6	宿泊を伴う体験的な学習	0.59	1.19
7	遠隔地の学校との交流	0.09	0.75
8	いいところを見つけてほめたりアドバイスしたりする学習	0.46	1.52
平 均		0.50	1.27

#### ④現状の満足度と今後の重要度の相関

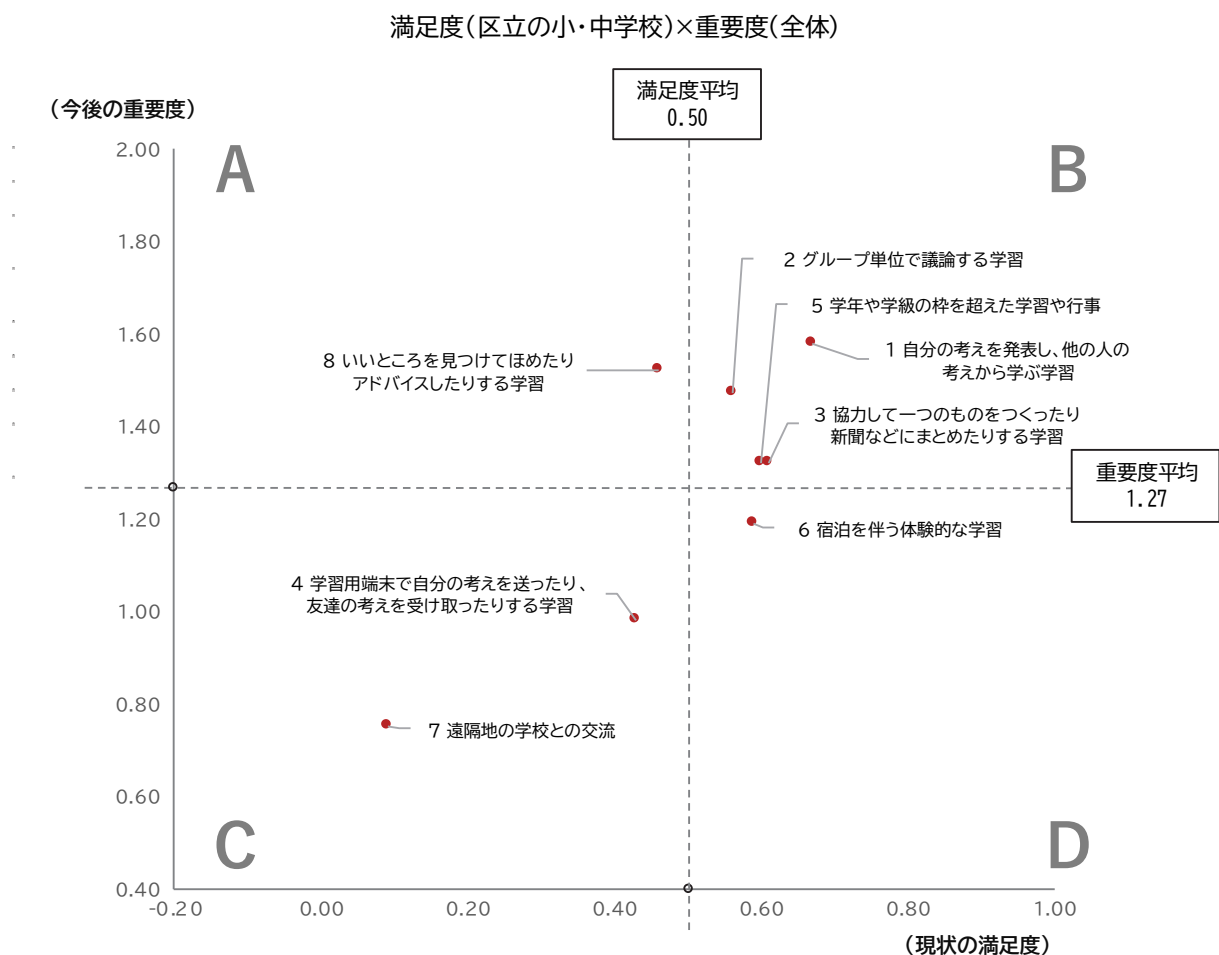
施策の満足度と重要度について、それぞれの平均値（満足度 0.50、重要度 1.27）を基準として、「A：満足度は低いが、重要度は高い」「B：満足度・重要度がともに高い」「C：満足度・重要度がともに低い」「D：満足度は高いが、重要度は低い」の4つの領域に分けています。

満足度は低いが、重要度は高いA領域には、「8 いいところを見つけてほめたりアドバイスしたりする学習」が位置付けられます。

満足度・重要度がともに高いB領域には「1 自分の考えを発表し、他の人の考えから学ぶ学習」「2 グループ単位で議論する学習」「3 協力して一つのものをつくったり新聞などにまとめたりする学習」「5 学年や学級の枠を超えた学習や行事」が位置付けられます。

満足度・重要度がともに低いC領域には「4 学習用端末で自分の考えを送ったり、友達の考えを受け取ったりする学習」「7 遠隔地の学校との交流」などが位置付けられます。

満足度は高いが、重要度は低いD領域には「6 宿泊を伴う体験的な学習」が位置づけられます。



A：満足度は低いが、重要度は高い

B：満足度・重要度ともに高い

C：満足度・重要度ともに低い

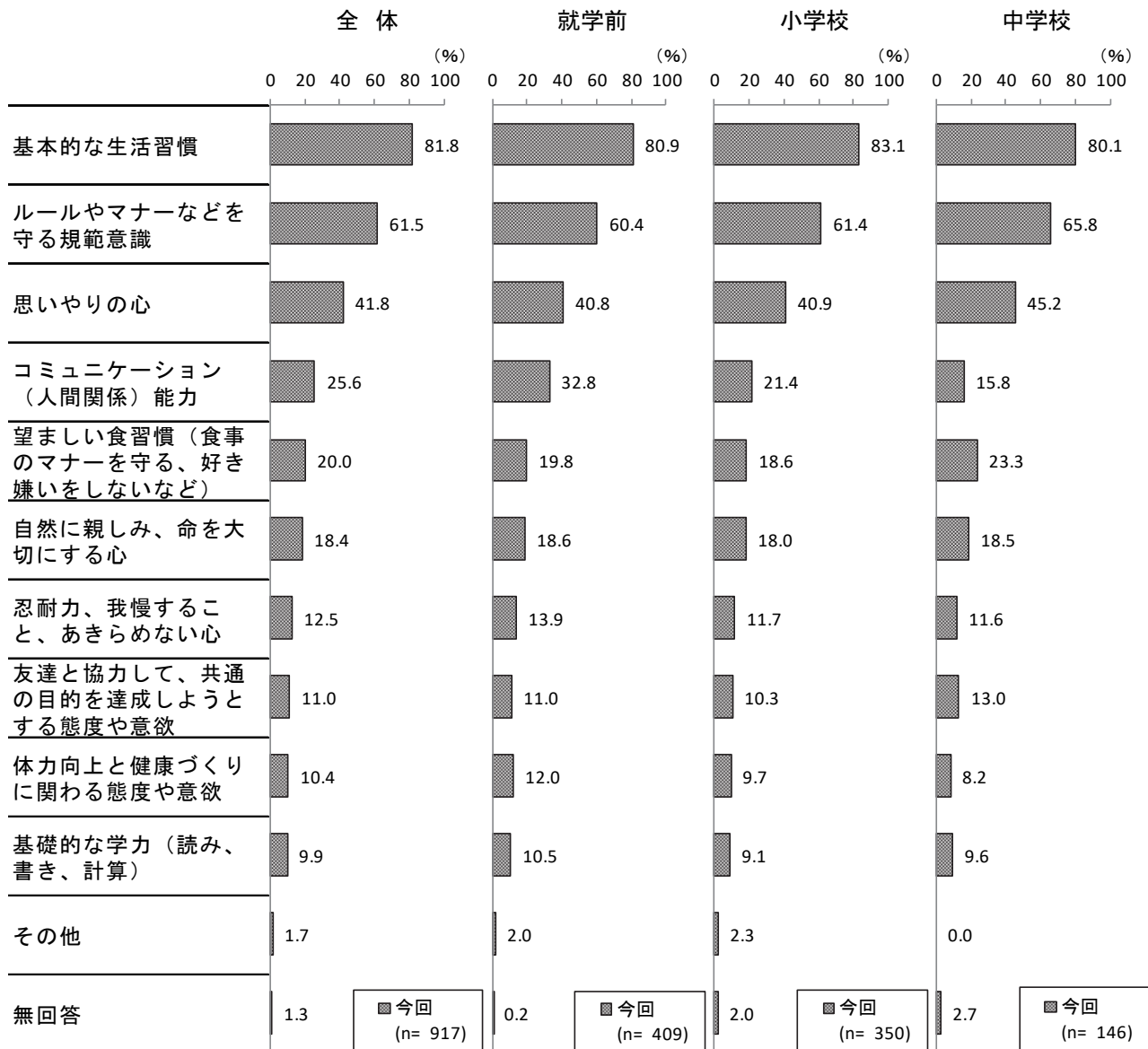
D：満足度は高いが、重要度は低い

## 5 就学前教育について

### (1) 家庭で子どもに身に付けさせるべきこと

全体では、「基本的な生活習慣」が81.8%と最も高く、次いで「ルールやマナーなどを守る規範意識」が61.5%、「思いやりの心」が41.8%となっています。

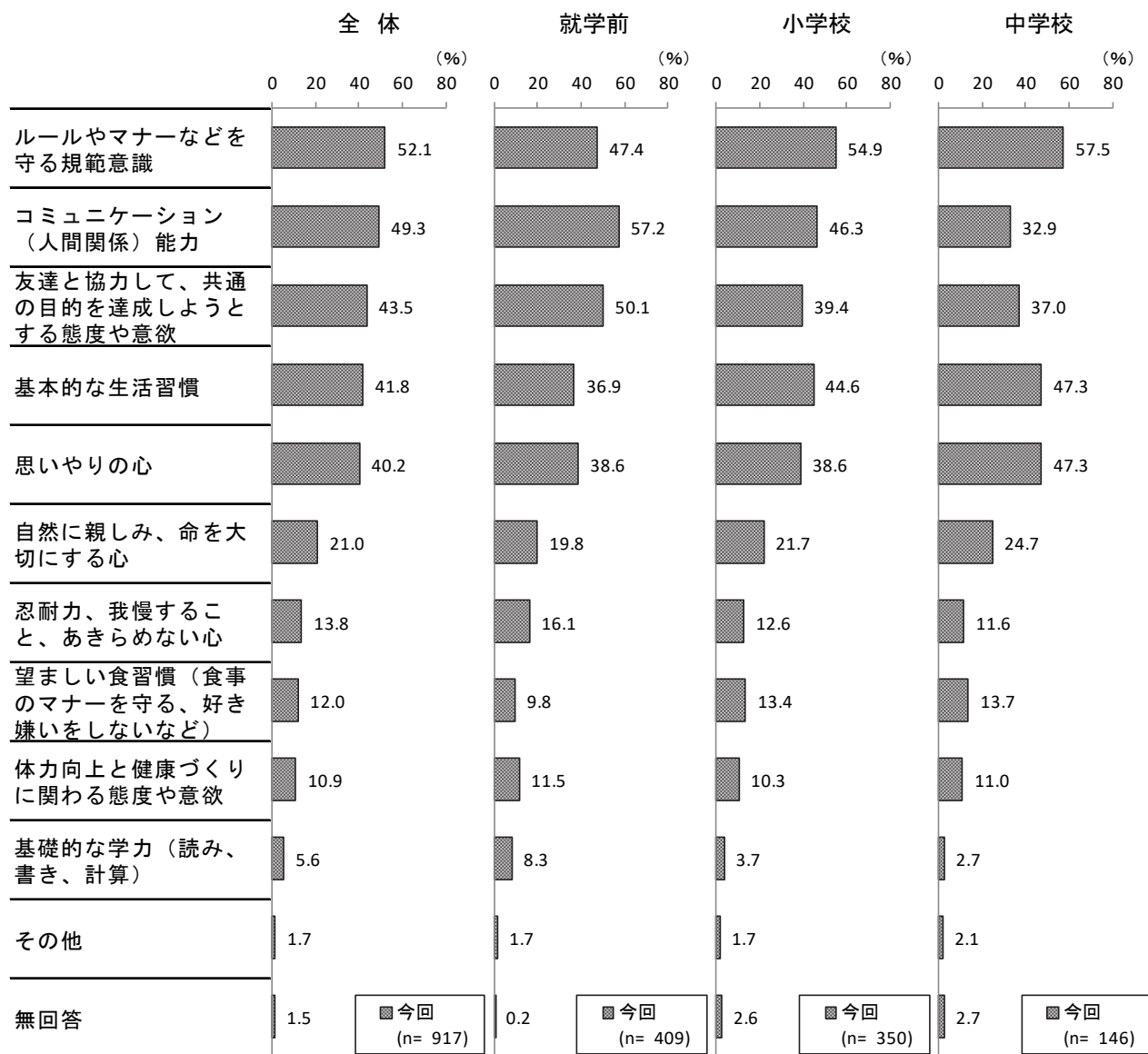
子どもの就学状況別に見ると、「コミュニケーション（人間関係）能力」は就学前が小学校、中学校より高くなっています。



## （２）幼稚園・保育園・こども園で子どもに身に付けさせるべきこと

全体では、「ルールやマナーなどを守る規範意識」が 52.1%と最も高く、次いで「コミュニケーション（人間関係）能力」が 49.3%、「友達と協力して、共通の目的を達成しようとする態度や意欲」が 43.5%となっています。

子どもの就学状況別に見ると、「コミュニケーション（人間関係）能力」と「友達と協力して、共通の目的を達成しようとする態度や意欲」は就学前が小学校、中学校より高くなっています。

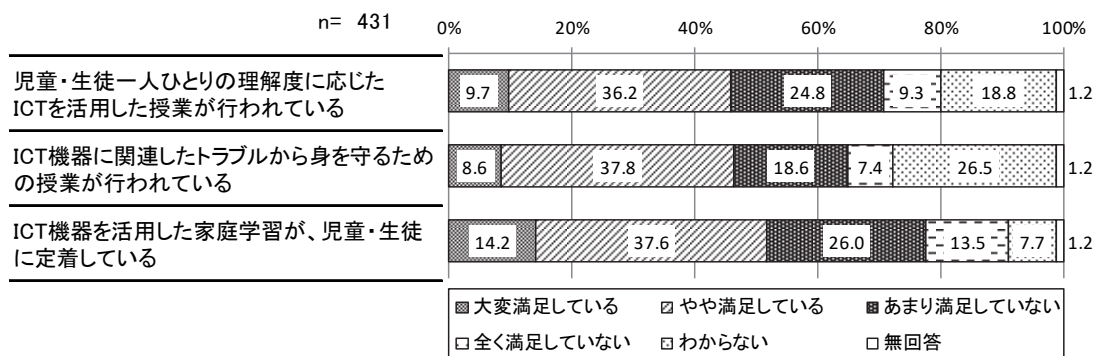


## 6 義務教育について

### (1) ICTを活用した授業及び家庭学習の満足度

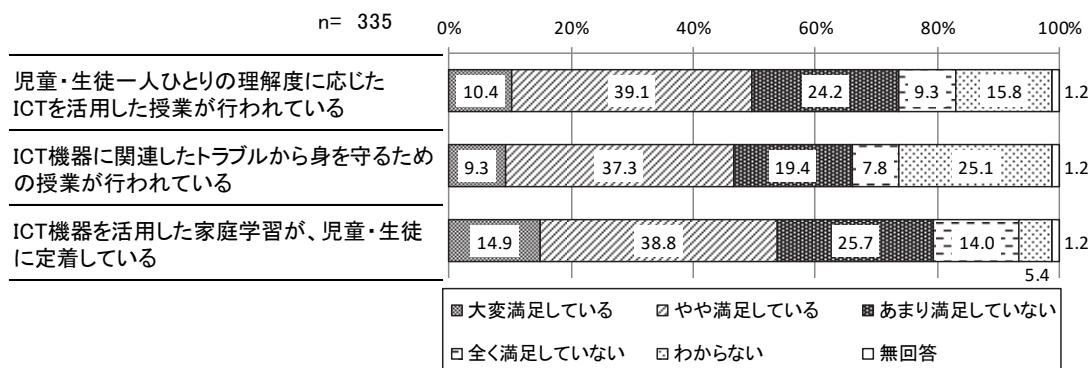
#### ①区立の小・中学校

『満足している』（「大変満足している」＋「やや満足している」）という回答は、「ICT 機器を活用した家庭学習が、児童・生徒に定着している」が 51.8%と最も高く、次いで「ICT 機器に関連したトラブルから身を守るための授業が行われている」が 46.4%、「児童・生徒一人ひとりの理解度に応じた ICT を活用した授業が行われている」が 45.9%となっています。



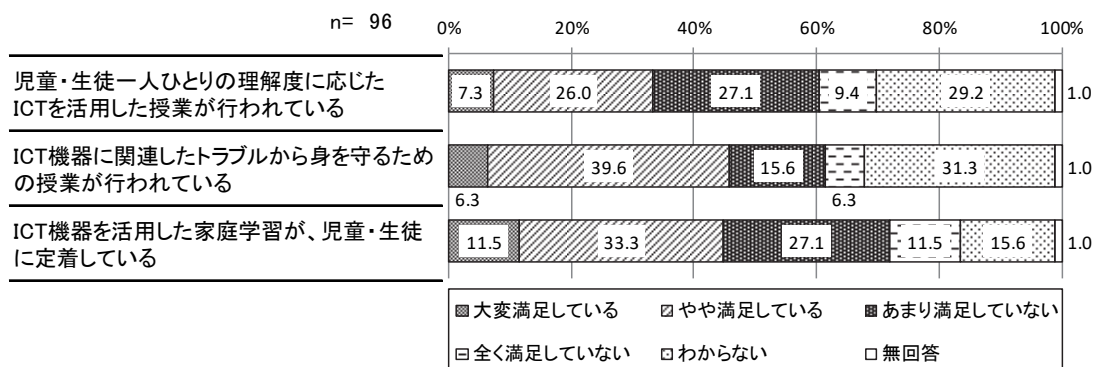
#### ②区立の小学校

『満足している』（「大変満足している」＋「やや満足している」）という回答は、「ICT 機器を活用した家庭学習が、児童・生徒に定着している」が 53.7%と最も高く、次いで「児童・生徒一人ひとりの理解度に応じた ICT を活用した授業が行われている」が 49.5%、「ICT 機器に関連したトラブルから身を守るための授業が行われている」が 46.6%となっています。



#### ③区立の中学校

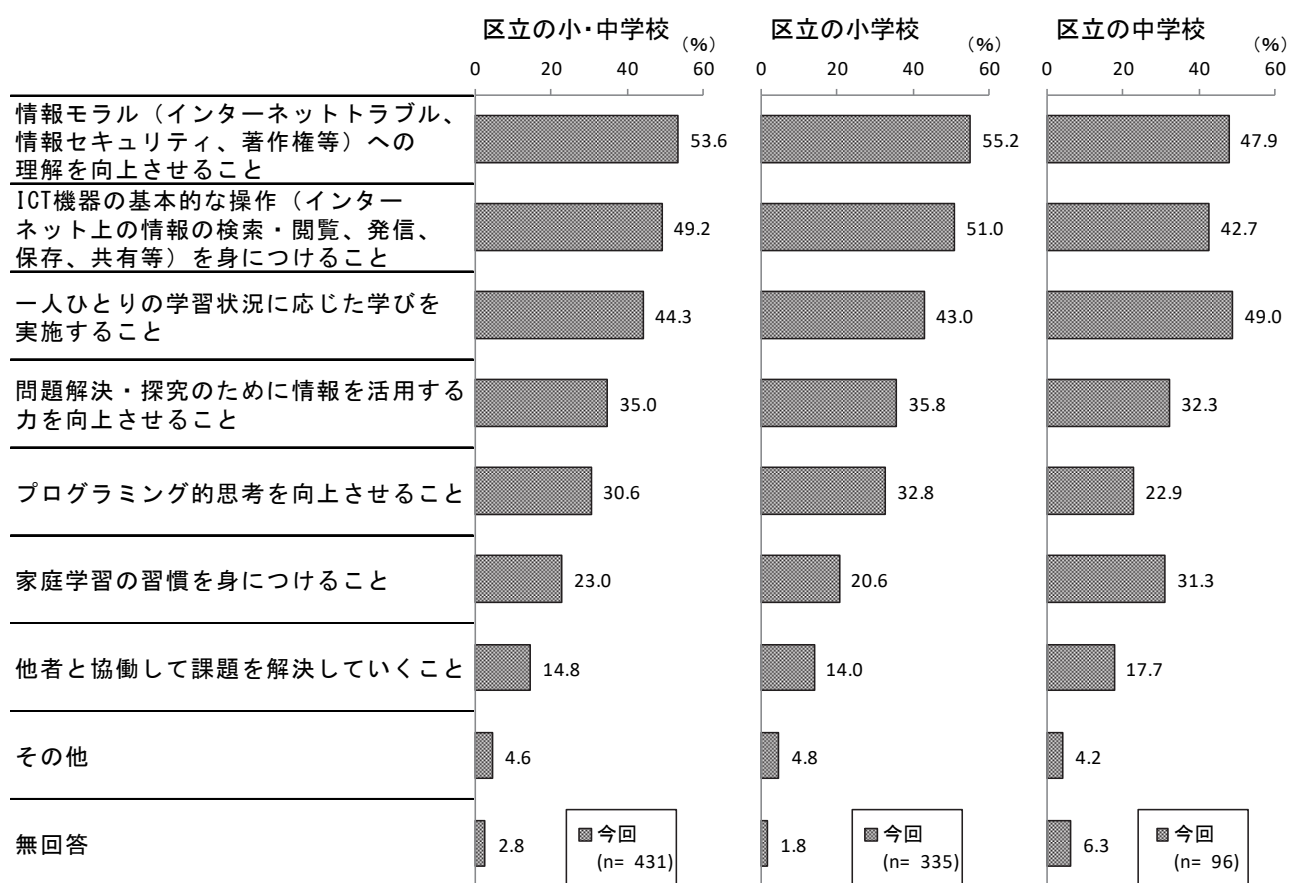
『満足している』（「大変満足している」＋「やや満足している」）という回答は、「ICT 機器に関連したトラブルから身を守るための授業が行われている」が 45.9%と最も高く、次いで「ICT 機器を活用した家庭学習が、児童・生徒に定着している」が 44.8%、「児童・生徒一人ひとりの理解度に応じた ICT を活用した授業が行われている」が 33.3%となっています。



## (2) ICTを活用した授業及び家庭学習に期待すること

区立の小・中学校では、「情報モラル（インターネットトラブル、情報セキュリティ、著作権等）への理解を向上させること」が53.6%と最も高く、次いで「ICT機器の基本的な操作（インターネット上の情報の検索・閲覧、発信、保存、共有等）を身につけること」が49.2%、「一人ひとりの学習状況に応じた学びを実施すること」が44.3%となっています。

子どもの就学状況別に見ると、「情報モラル（インターネットトラブル、情報セキュリティ、著作権等）への理解を向上させること」、「ICT機器の基本的な操作（インターネット上の情報の検索・閲覧、発信、保存、共有等）を身につけること」、「プログラミング的思考を向上させること」は区立の小学校が高くなっています。「一人ひとりの学習状況に応じた学びを実施すること」、「家庭学習の習慣を身につけること」は区立の中学校が高くなっています。

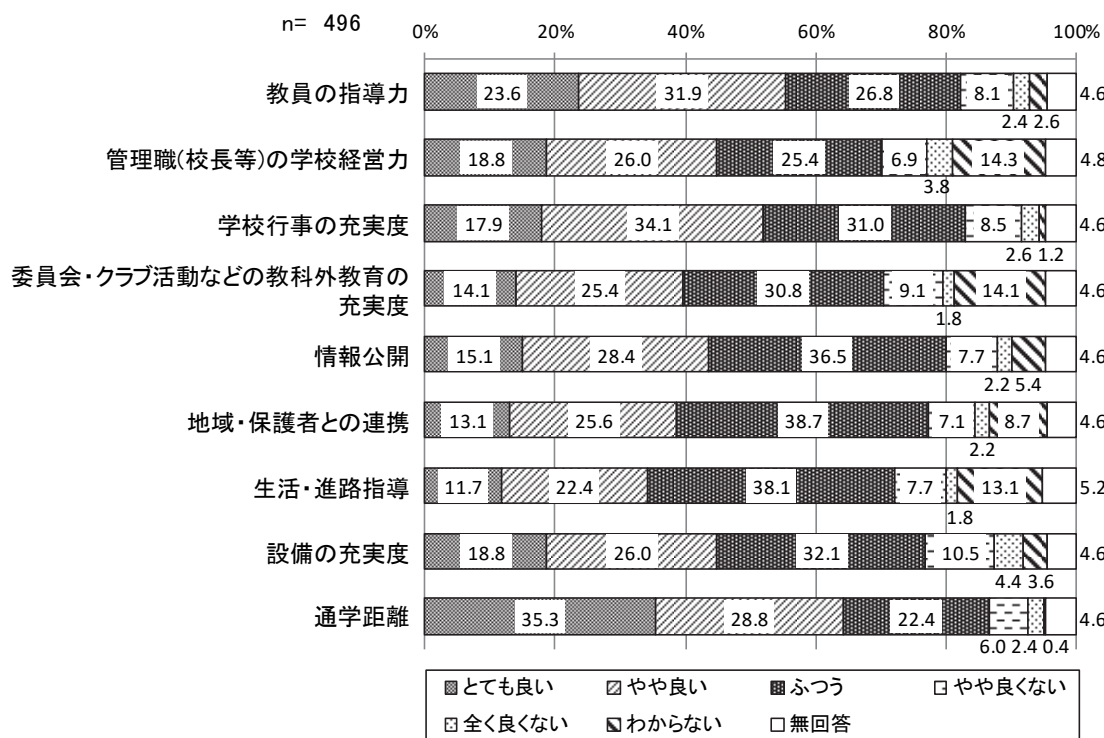


### (3) 学校の評価

#### ①小・中学校

『良い』（「とても良い」＋「やや良い」）という回答は、「通学距離」が64.1%と最も高く、次いで「教員の指導力」が55.5%、「学校行事の充実度」が52.0%となっています。

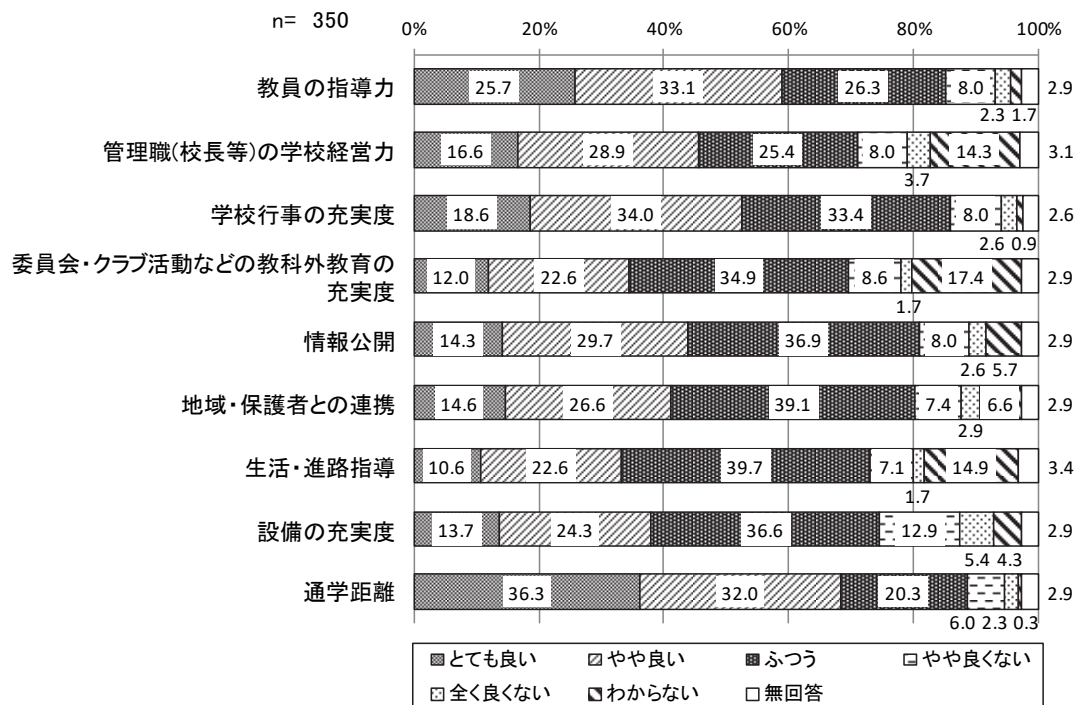
一方、『良くない』（「やや良くない」＋「全く良くない」）という回答は、「設備の充実度」が14.9%と最も高く、次いで「学校行事の充実度」が11.1%となっています。



## ②小学校

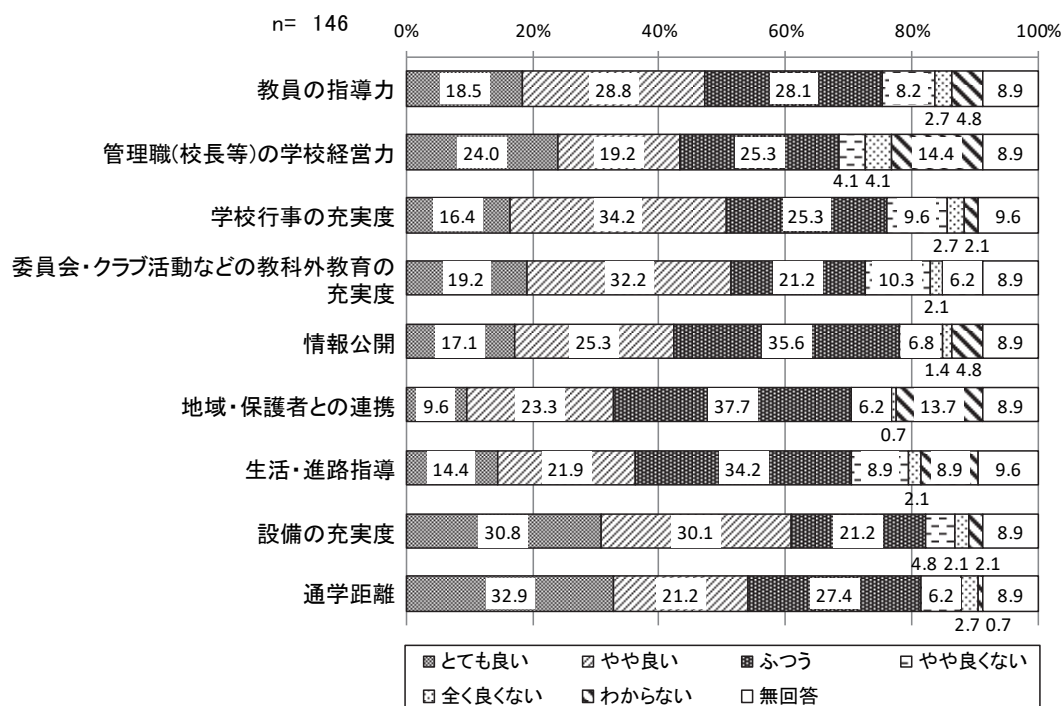
『良い』（「とても良い」＋「やや良い」）という回答は、「通学距離」が68.3%と最も高く、次いで「教員の指導力」が58.8%、「学校行事の充実度」が52.6%となっています。

一方、『良くない』（「やや良くない」＋「全く良くない」）という回答は、「設備の充実度」が18.3%と最も高く、次いで「管理職(校長等)の学校経営力」が11.7%となっています。



## ③中学校

『良い』（「とても良い」＋「やや良い」）という回答は、「設備の充実度」が60.9%と最も高く、次いで「通学距離」が54.1%、「委員会・クラブ活動などの教科外教育の充実度」が51.4%となっています。一方、『良くない』（「やや良くない」＋「全く良くない」）という回答は、「委員会・クラブ活動などの教科外教育の充実度」が12.4%と最も高く、次いで「学校行事の充実度」が12.3%となっています。

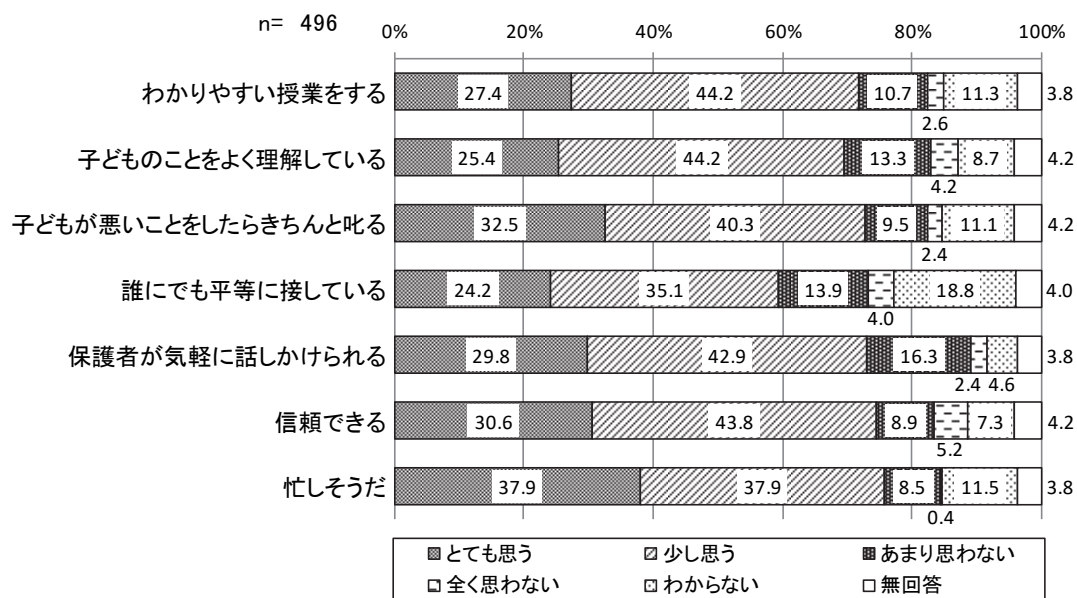


#### (4) 教員の評価

##### ①小・中学校

『思う』（「とても思う」＋「少し思う」）という回答は、「忙しそうだ」が75.8%と最も高く、次いで「信頼できる」が74.4%、「子どもが悪いことをしたらきちんと叱る」が72.8%となっています。

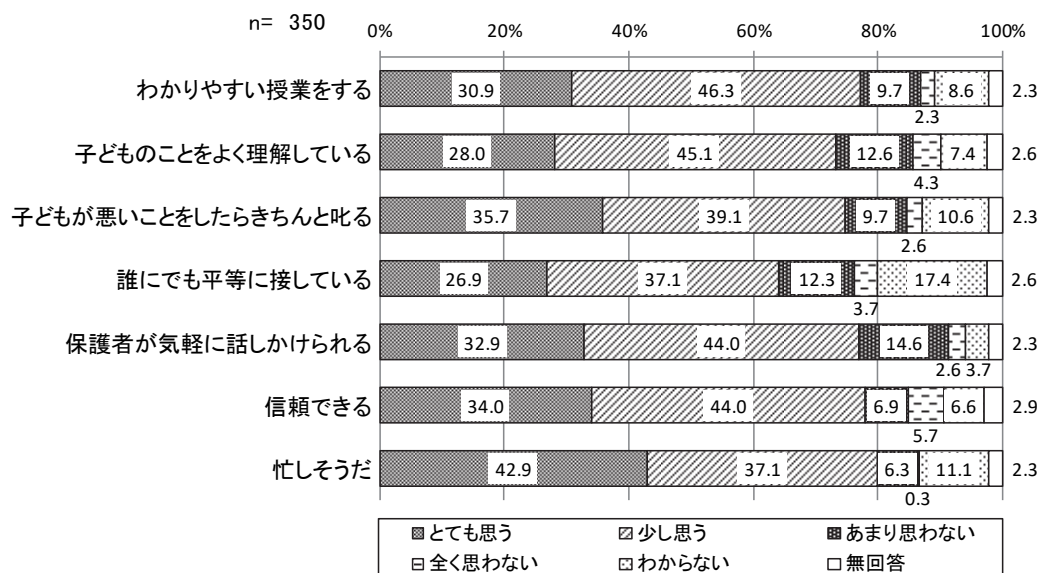
一方、『思わない』（「あまり思わない」＋「全く思わない」）という回答は、「保護者が気軽に話しかけられる」が18.7%と最も高く、次いで「誰にでも平等に接している」が17.9%となっています。



## ②小学校

『思う』（「とても思う」＋「少し思う」）という回答は、「忙しそうだ」が80.0%と最も高く、次いで「信頼できる」が78.0%、「わかりやすい授業をする」が77.2%となっています。

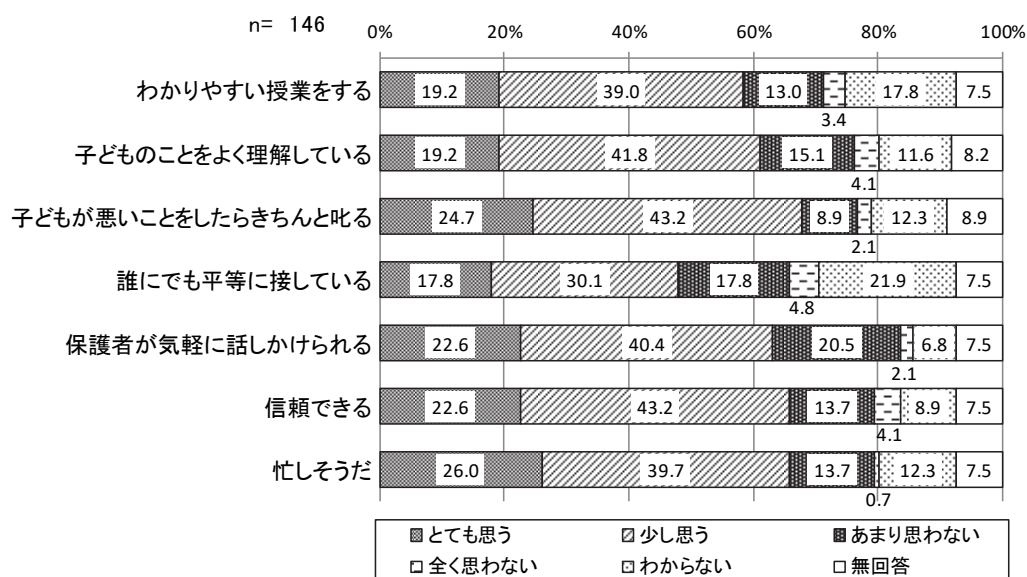
一方、『思わない』（「あまり思わない」＋「全く思わない」）という回答は、「保護者が気軽に話しかけられる」が17.2%と最も高く、次いで「子どものことをよく理解している」が16.9%となっています。



## ③中学校

『思う』（「とても思う」＋「少し思う」）という回答は、「子どもが悪いことをしたらきちんと叱る」が67.9%と最も高く、次いで「信頼できる」が65.8%、「忙しそうだ」が65.7%となっています。

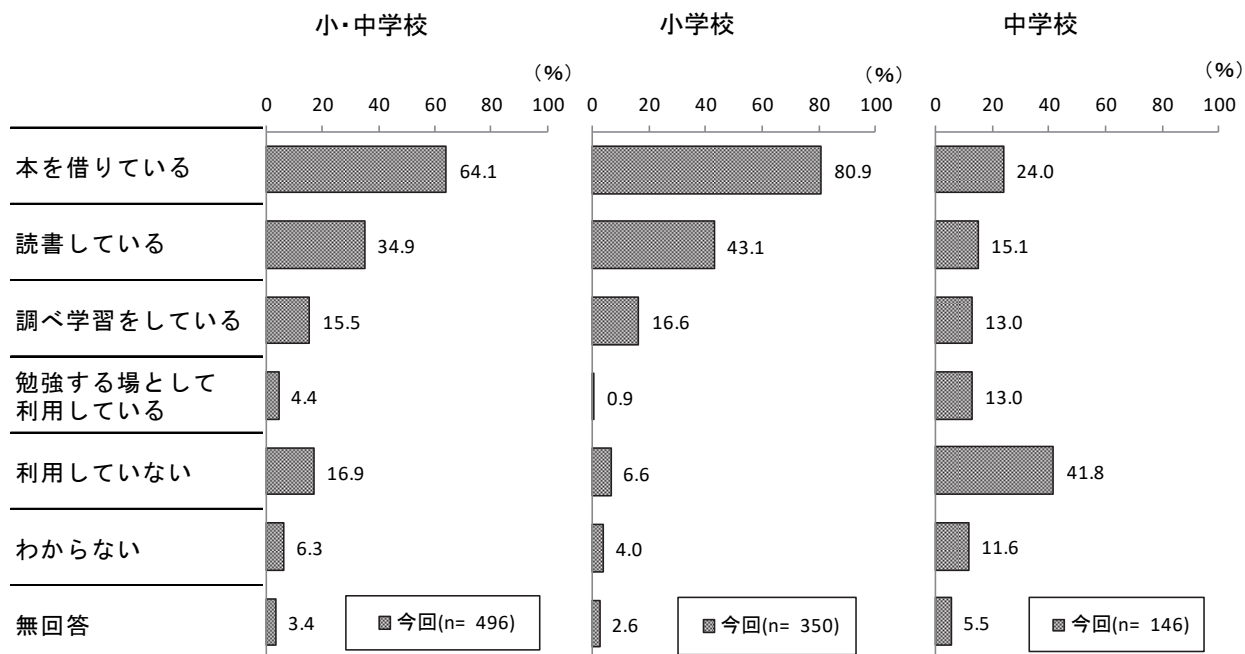
一方、『思わない』（「あまり思わない」＋「全く思わない」）という回答は、「誰にでも平等に接している」と「保護者が気軽に話しかけられる」が22.6%と最も高く、次いで「子どものことをよく理解している」が19.2%となっています。



## （５）子どもの学校図書館の利用内容

小・中学校では、「本を借りている」が 64.1%と最も高く、次いで「読書している」が 34.9%、「調べ学習をしている」が 15.5%となっています。一方、「利用していない」は 16.9%となっています。

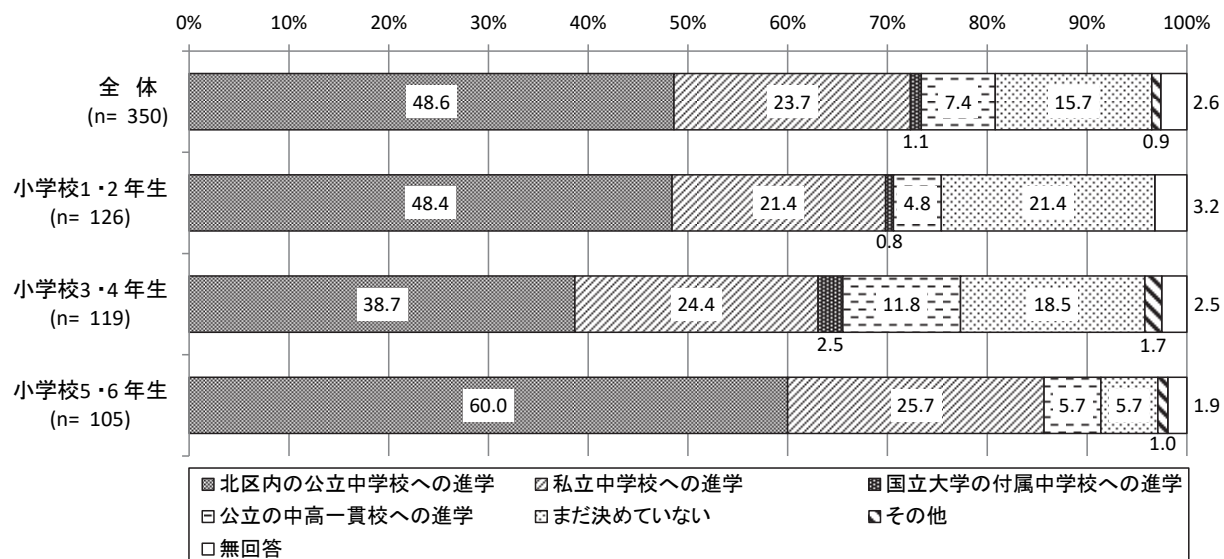
子どもの就学状況別に見ると、「本を借りている」、「読書している」は小学校が高く、中学校が低くなっています。「利用していない」は中学校で 41.8%と最も高くなっています。



## （６）小学校卒業後の進路

「北区内の公立中学校への進学」が 48.6%と最も高く、次いで「私立中学校への進学」が 23.7%、「まだ決めていない」が 15.7%となっています。

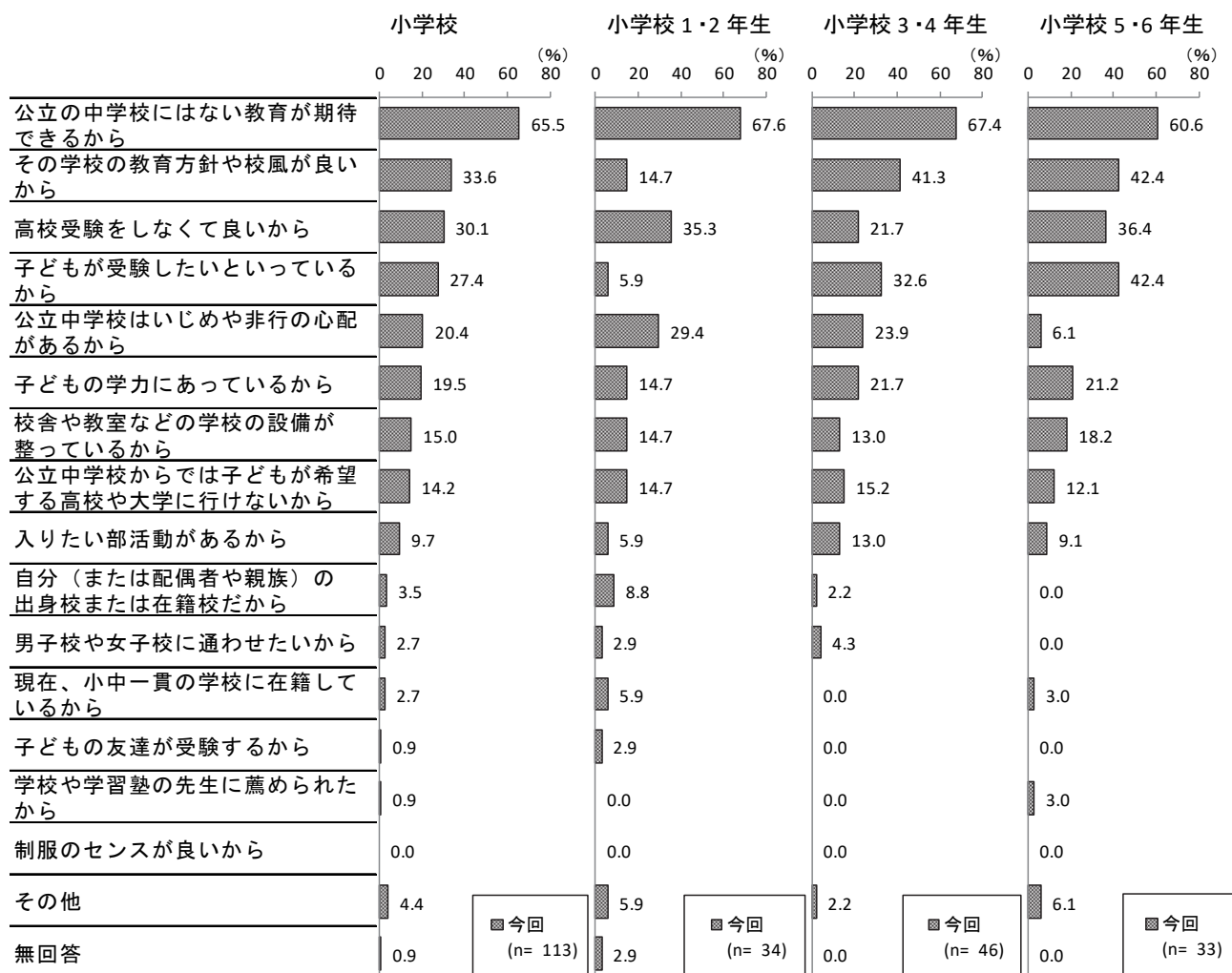
子どもの就学状況別に見ると、小学校 1・2 年生、小学校 5・6 年生に比べ小学校 3・4 年生では、「北区内の公立中学校への進学」が低く、「公立の中高一貫校への進学」と「国立大学の付属中学校への進学」が高くなっています。



## （７）北区の公立中学校以外への進学を考えている理由

「公立の中学校にはない教育が期待できるから」が 65.5%と最も高く、次いで「その学校の教育方針や校風が良いから」が 33.6%、「高校受験をしなくて良いから」が 30.1%となっています。

学年別にみると、小学校 1・2 年生では「公立中学校はいじめや非行の心配があるから」が他の学年と比べて高くなっています。小学校 5・6 年生では、「子どもが受験したいといっているから」が他の学年と比べて高くなっています。



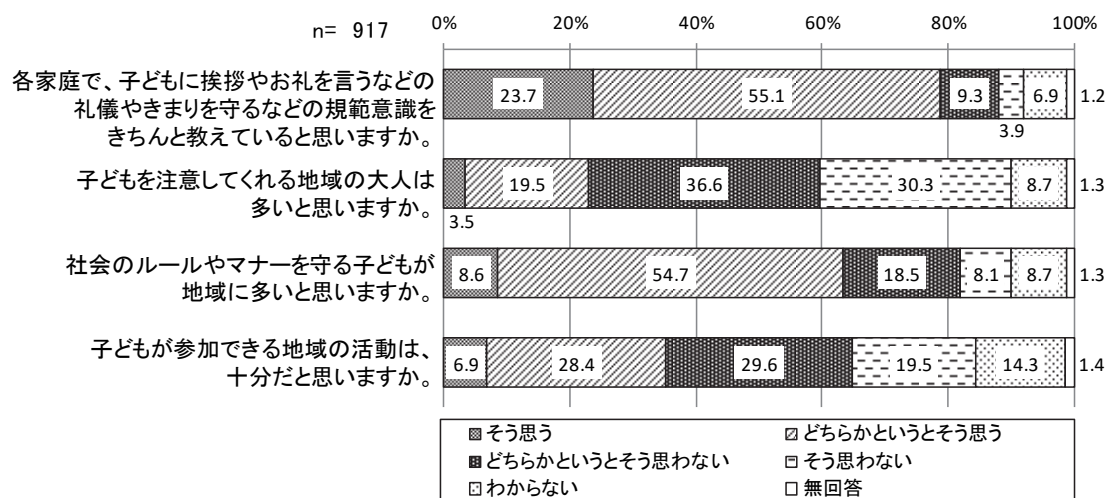
## 7 家庭・地域の教育力について

### (1) 居住地域における家庭や地域の教育力に対する考え

#### ①全体

『そう思う』(「そう思う」＋「どちらかというと思う」)という回答は、「各家庭で、子どもに挨拶やお礼を言うなどの礼儀やきまりを守るなどの規範意識をきちんと教えていると思いますか。」が78.8%と最も高く、次いで「社会のルールやマナーを守る子どもが地域に多いと思いますか。」が63.3%となっています。

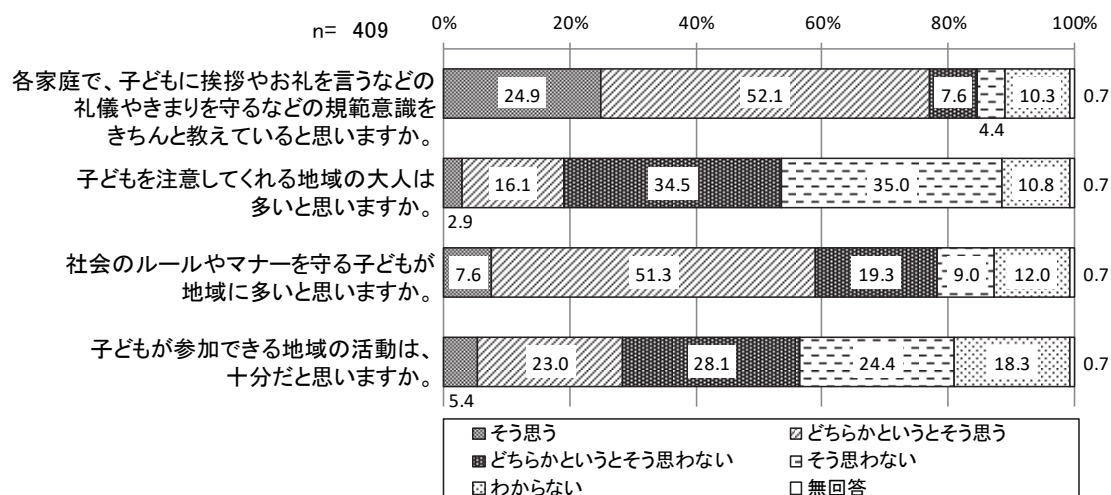
一方、『そう思わない』(「どちらかというと思わない」＋「そう思わない」)という回答は、「子どもを注意してくれる地域の大人は多いと思いますか。」が66.9%と最も高く、次いで「子どもが参加できる地域の活動は、十分だと思いますか。」が49.1%となっています。



#### ②就学前

『そう思う』(「そう思う」＋「どちらかというと思う」)という回答は、「各家庭で、子どもに挨拶やお礼を言うなどの礼儀やきまりを守るなどの規範意識をきちんと教えていると思いますか。」が77.0%と最も高く、次いで「社会のルールやマナーを守る子どもが地域に多いと思いますか。」が58.9%となっています。

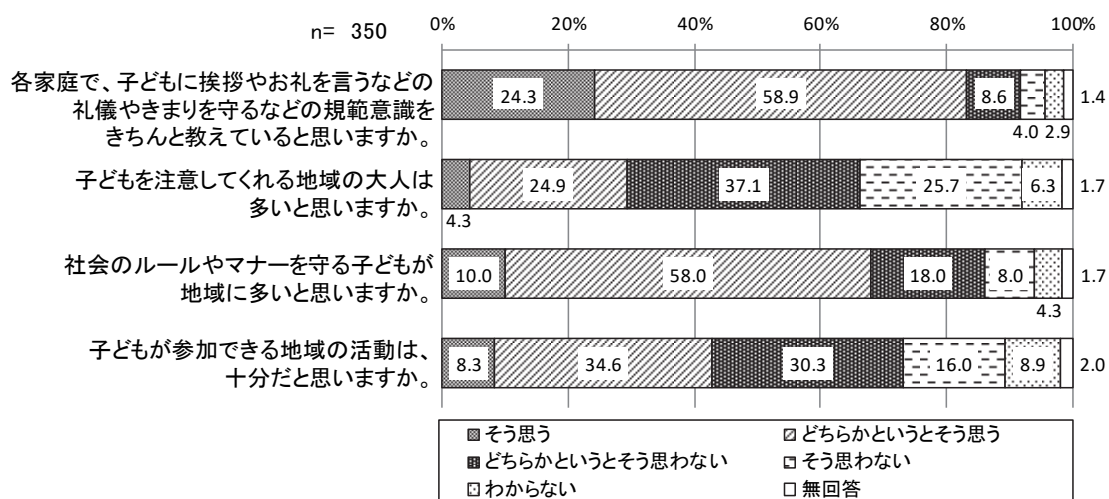
一方、『そう思わない』(「どちらかというと思わない」＋「そう思わない」)という回答は、「子どもを注意してくれる地域の大人は多いと思いますか。」が69.5%と最も高く、次いで「子どもが参加できる地域の活動は、十分だと思いますか。」が52.5%となっています。



### ③小学校

『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかというと思う」）という回答は、「各家庭で、子どもに挨拶やお礼を言うなどの礼儀やきまりを守るなどの規範意識をきちんと教えていると思いますか。」が83.2%と最も高く、次いで「社会のルールやマナーを守る子どもが地域に多いと思いますか。」が68.0%となっています。

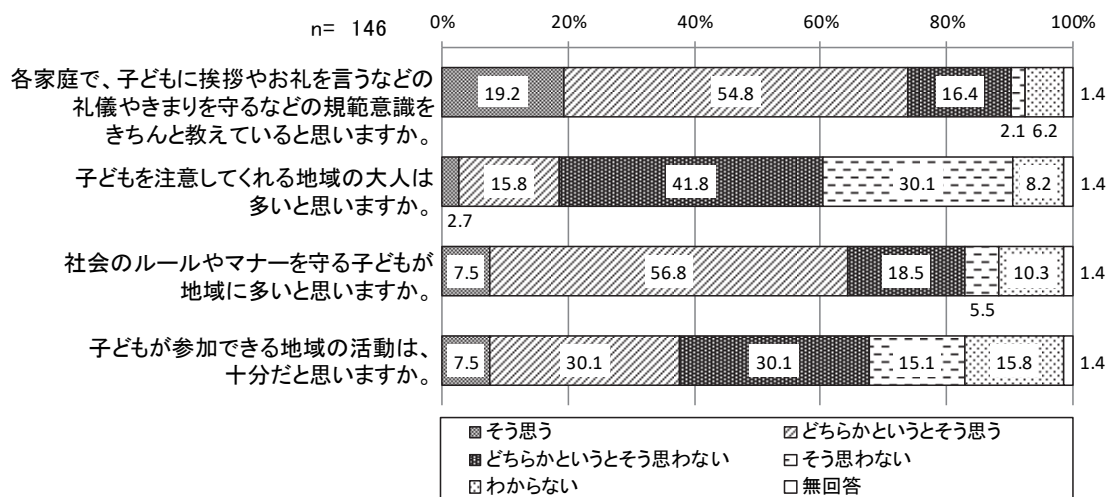
一方、『そう思わない』（「どちらかというと思わない」＋「そう思わない」）という回答は、「子どもを注意してくれる地域の大人は多いと思いますか。」が62.8%と最も高く、次いで「子どもが参加できる地域の活動は、十分だと思いますか。」が46.3%となっています。



### ④中学校

『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかというと思う」）という回答は、「各家庭で、子どもに挨拶やお礼を言うなどの礼儀やきまりを守るなどの規範意識をきちんと教えていると思いますか。」が74.0%と最も高く、次いで「社会のルールやマナーを守る子どもが地域に多いと思いますか。」が64.3%となっています。

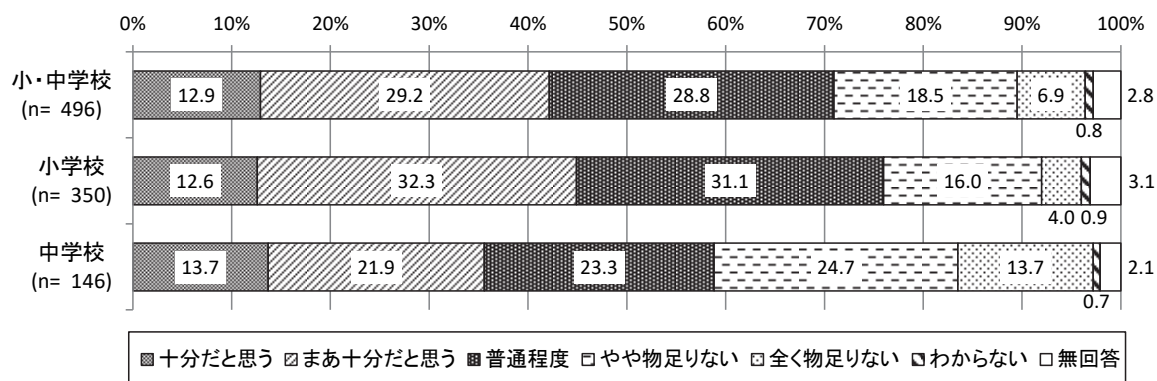
一方、『そう思わない』（「どちらかというと思わない」＋「そう思わない」）という回答は、「子どもを注意してくれる地域の大人は多いと思いますか。」が71.9%と最も高く、次いで「子どもが参加できる地域の活動は、十分だと思いますか。」が45.2%となっています。



## （２）自分の子どもの学力の程度

小・中学校では、「十分だと思う」が 12.9%、「まあ十分だと思う」が 29.2%で、合わせて 42.1%が『十分だと思う』と回答しています。

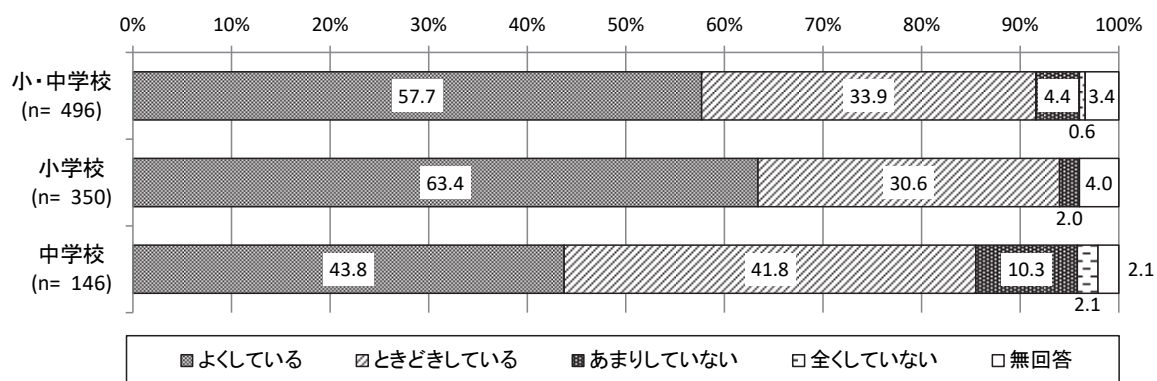
子どもの就学状況別に見ると、『十分だと思う』（「十分だと思う」＋「まあ十分だと思う」）は、小学校では 44.9%、中学校では 35.6%で、中学校になると低くなっています。



## （３）家庭での子どもとの関わり

小・中学校では、「よくしている」が 57.7%、「ときどきしている」が 33.9%で、合わせて 91.6%が『している』と回答しています。

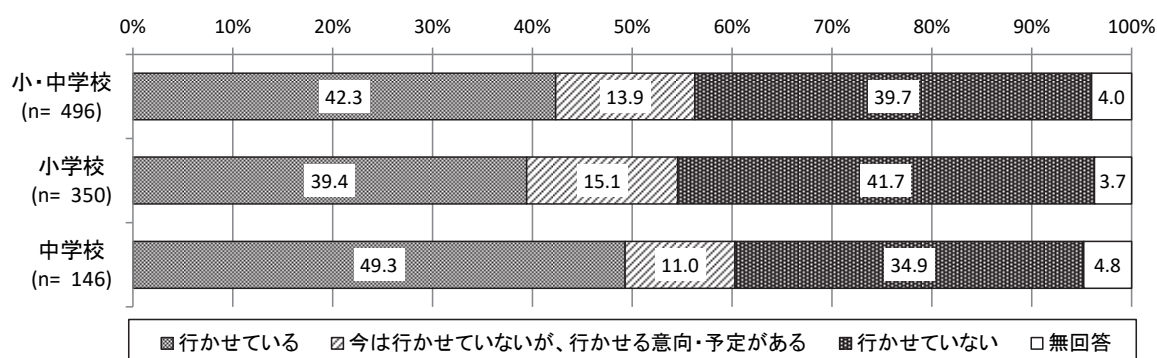
子どもの就学状況別に見ると、『している』（「よくしている」＋「ときどきしている」）は、小学校では 94.0%、中学校では 85.6%となっています。



## （４）子どもを学習塾に通わせることに対する考え

小・中学校では、「行かせている」が 42.3%、「今は行かせていないが、行かせる意向・予定がある」が 13.9%、「行かせていない」が 39.7%となっています。

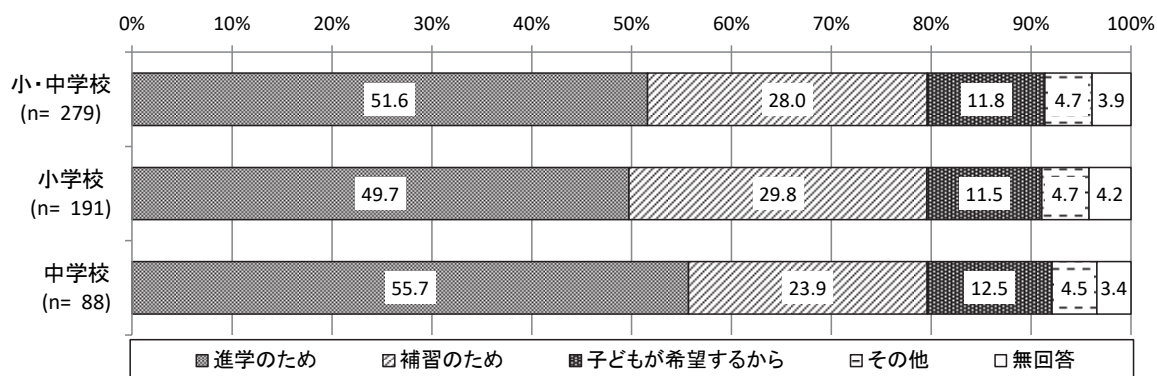
子どもの就学状況別に見ると、「行かせている」は中学校が小学校より高くなっています。



### ①子どもを学習塾に通わせている目的

小・中学校では、「進学のため」が51.6%と最も高く、次いで「補習のため」が28.0%、「子どもが希望するから」が11.8%となっています。

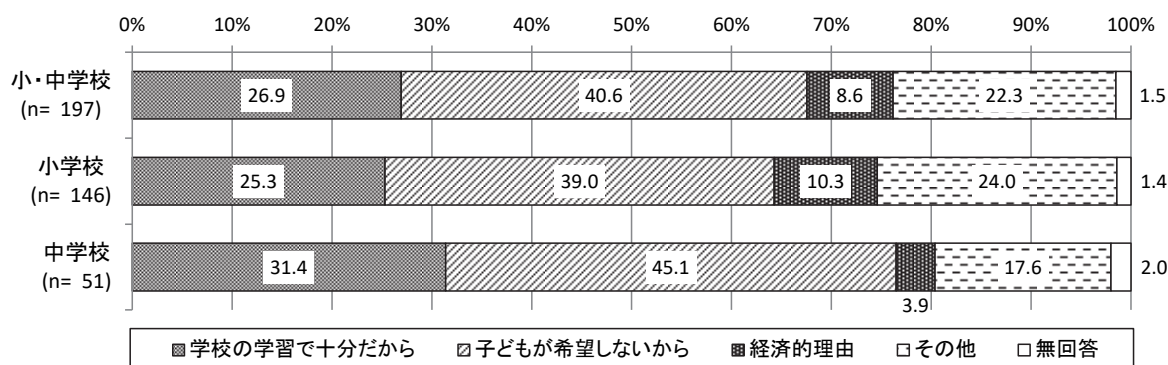
子どもの就学状況別に見ると、「進学のため」は中学校が小学校より高くなっています。



### ②子どもを学習塾に通わせない理由

小・中学校では、「子どもが希望しないから」が40.6%と最も高く、次いで「学校の学習で十分だから」が26.9%、「経済的理由」が8.6%となっています。

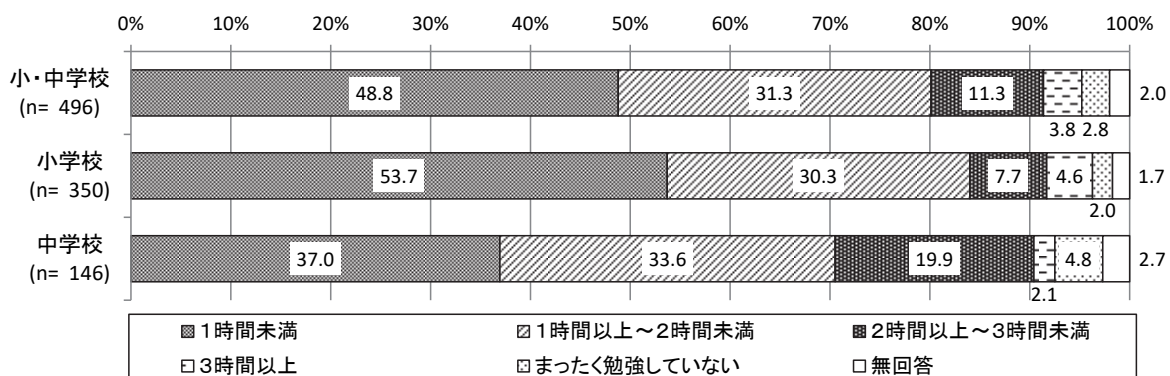
子どもの就学状況別に見ると、「子どもが希望しないから」、「学校の学習で十分だから」は中学校が小学校より高くなっています。



### (5) 学校の授業以外の1日の勉強時間

小・中学校では、「1日平均1時間未満」が48.8%と最も高く、次いで「1日平均1時間以上～2時間未満」が31.3%、「1日平均2時間以上～3時間未満」が11.3%となっています。

子どもの就学状況別に見ると、小学校に比べ中学校では、「1日平均2時間以上～3時間未満」の割合が高くなっています。



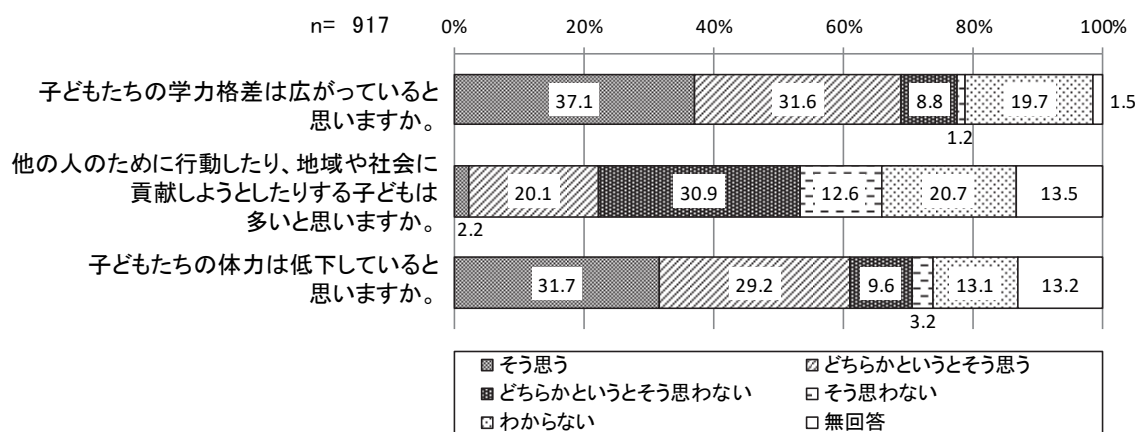
## 8 教育全般について

### (1) 教育全般に関する認識

#### ①全体

『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかというと思う」）という回答は、「子どもたちの学力格差は広がっていると思いますか。」が68.7%と最も高く、次いで「子どもたちの体力は低下していると思いますか。」が60.9%となっています。

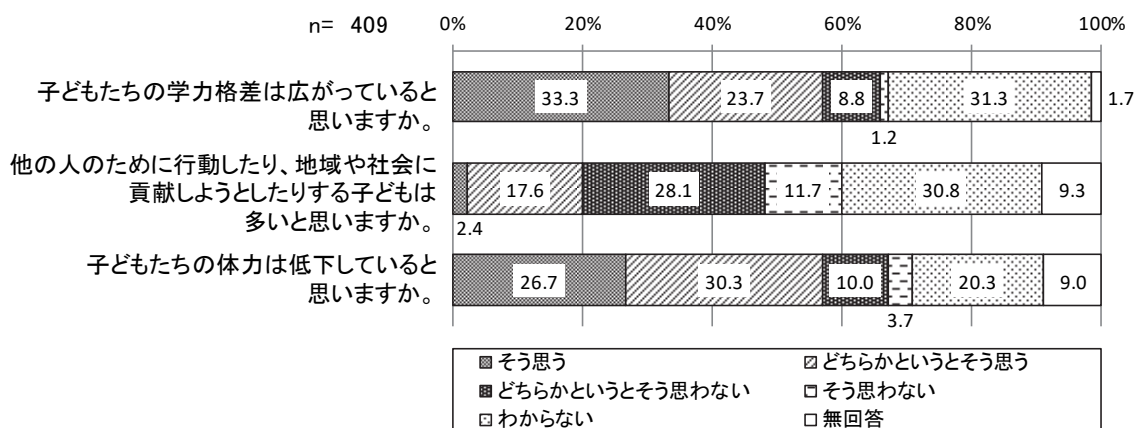
一方、『そう思わない』（「どちらかというと思わない」＋「そう思わない」）という回答は、「他の人のために行動したり、地域や社会に貢献しようとしたりする子どもは多いと思いますか。」が43.5%と最も高くなっています。



#### ②就学前

『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかというと思う」）という回答は、「子どもたちの学力格差は広がっていると思いますか。」と「子どもたちの体力は低下していると思いますか。」が57.0%と最も高くなっています。

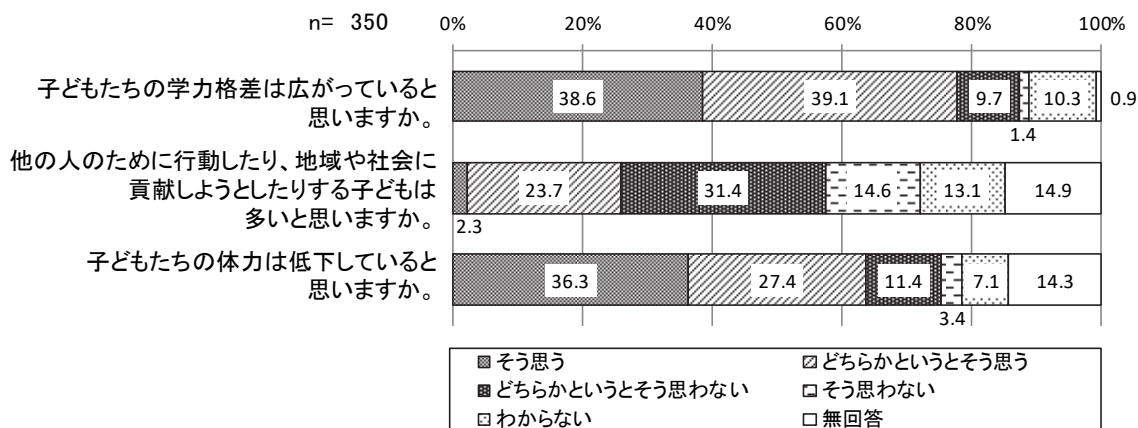
一方、『そう思わない』（「どちらかというと思わない」＋「そう思わない」）という回答は、「他の人のために行動したり、地域や社会に貢献しようとしたりする子どもは多いと思いますか。」が39.8%と最も高くなっています。



### ③小学校

『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかというと思う」）という回答は、「子どもたちの学力格差は広がっていると思いますか。」が77.7%と最も高く、次いで「子どもたちの体力は低下していると思いますか。」が63.7%となっています。

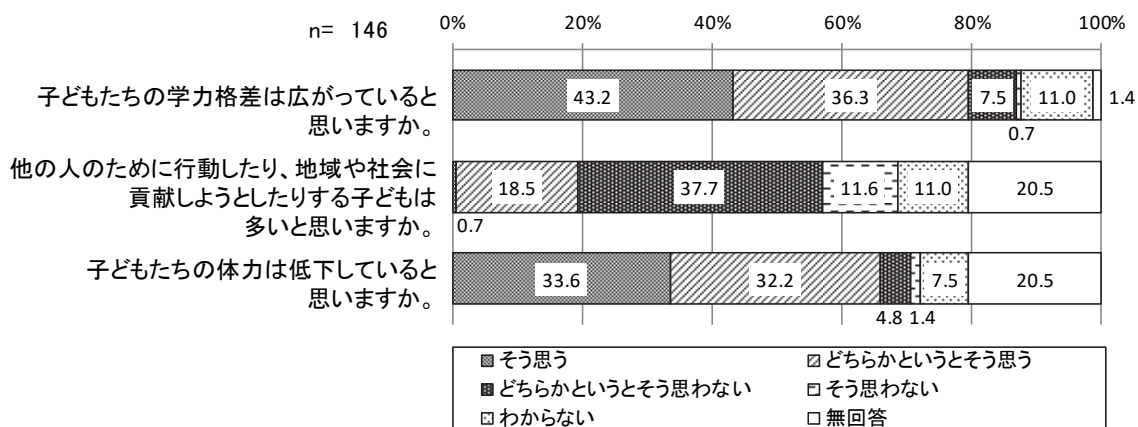
一方、『そう思わない』（「どちらかというと思わない」＋「そう思わない」）という回答は、「他の人のために行動したり、地域や社会に貢献しようとしたりする子どもは多いと思いますか。」が46.0%と最も高くなっています。



### ④中学校

『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかというと思う」）という回答は、「子どもたちの学力格差は広がっていると思いますか。」が79.5%と最も高く、次いで「子どもたちの体力は低下していると思いますか。」が65.8%となっています。

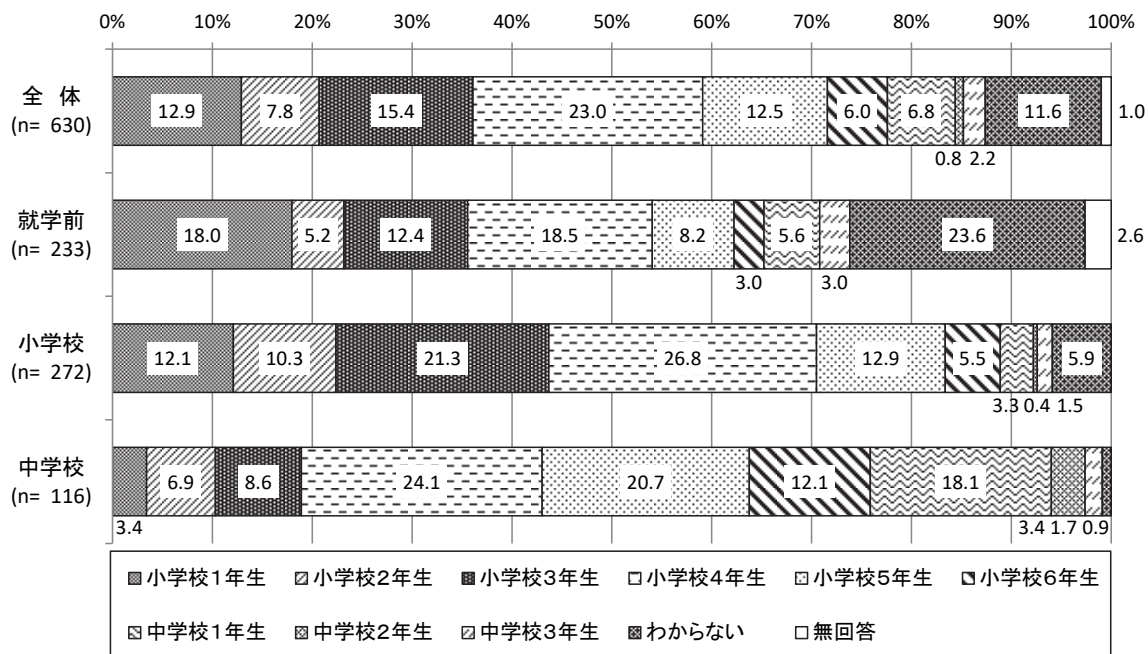
一方、『そう思わない』（「どちらかというと思わない」＋「そう思わない」）という回答は、「他の人のために行動したり、地域や社会に貢献しようとしたりする子どもは多いと思いますか。」が49.3%と最も高くなっています。



## （２）学力格差が特に広がっていると思う段階

全体では、「小学校４年生」が 23.0%と最も高く、次いで「小学校３年生」が 15.4%、「小学校５年生」が 12.5%となっています。

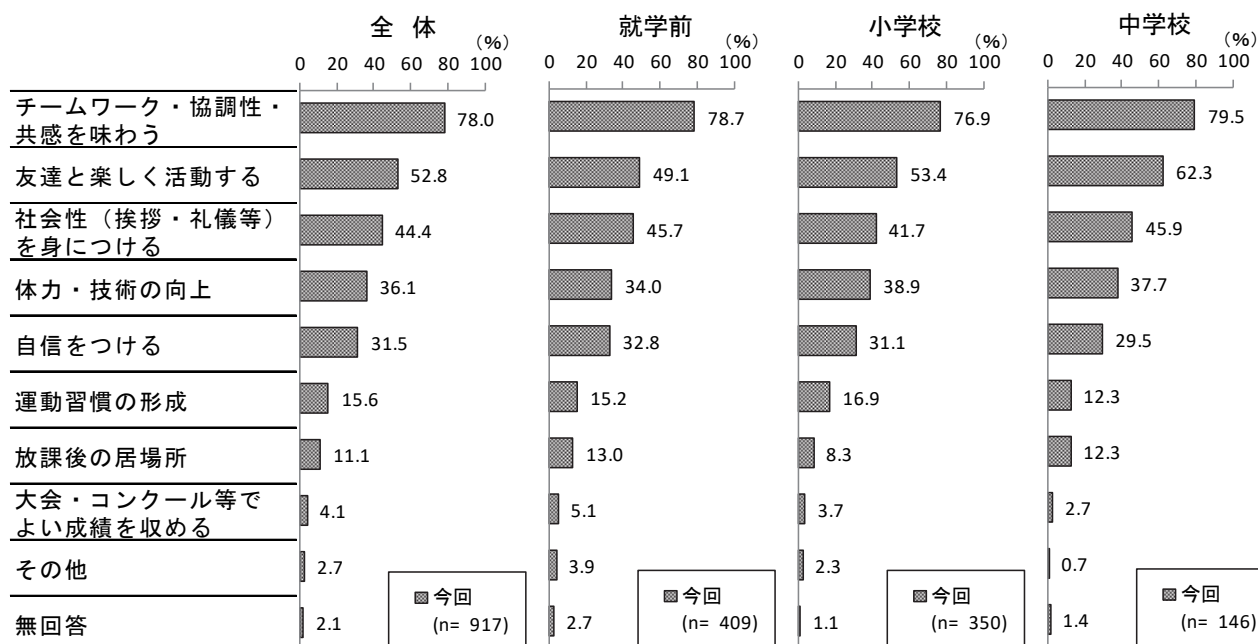
子どもの就学状況別に見ると、就学前では「小学校４年生」が 18.5%と最も高く、次いで「小学校１年生」が 18.0%となっており、また「わからない」が 23.6%となっています。小学校では「小学校４年生」が 26.8%と最も高く、次いで「小学校３年生」が 21.3%となっています。中学校では「小学校４年生」が 24.1%と最も高く、次いで「小学校５年生」が 20.7%となっています。



### （３）部活動に期待すること

全体では、「チームワーク・協調性・共感を味わう」が78.0%と最も高く、次いで「友達と楽しく活動する」が52.8%、「社会性（挨拶・礼儀等）を身につける」が44.4%となっています。

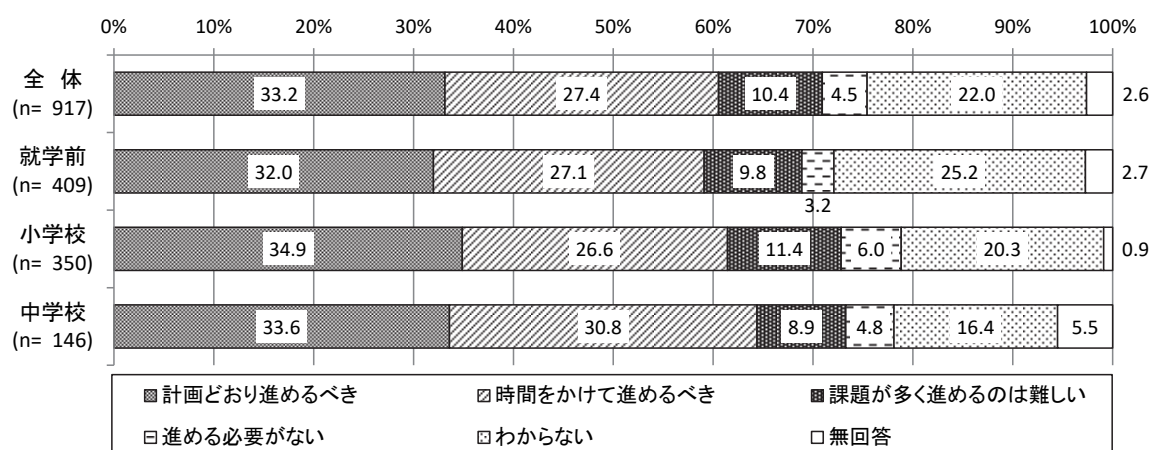
子どもの就学状況別に見ると、就学前、小学校に比べ中学校では「友達と楽しく活動する」の割合が高くなっています。



### （４）休日の運動部活動の段階的な地域移行に対する考え

全体では、「計画どおり進めるべき」が33.2%と最も高く、次いで「時間をかけて進めるべき」が27.4%となっています。一方、「課題が多く進めるのは難しい」は10.4%、「進める必要がない」が4.5%となっています。また、「わからない」は22.0%となっています。

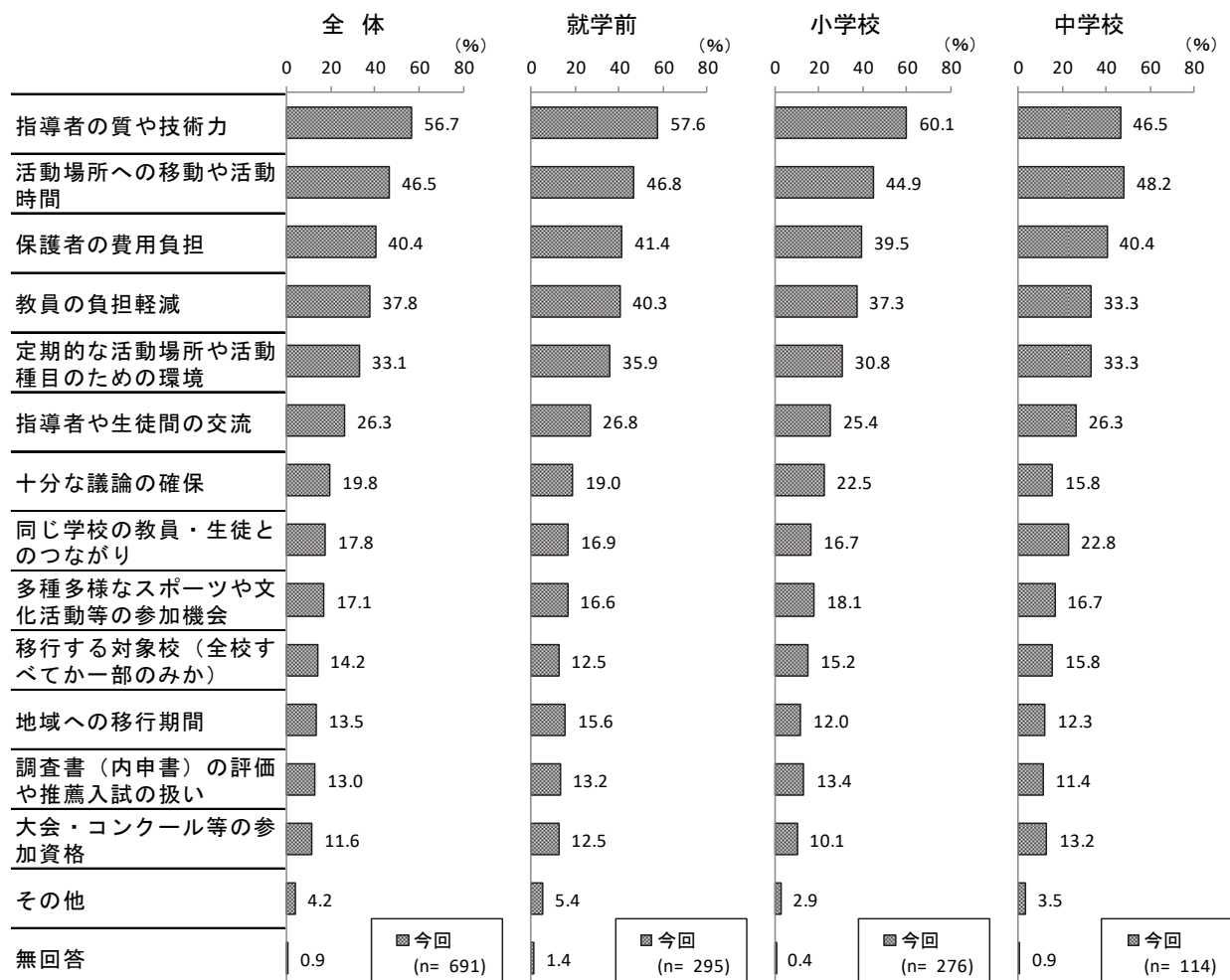
子どもの就学状況別に見ると、就学前、小学校に比べ中学校では「時間をかけて進めるべき」が30.8%とやや高く、「わからない」が16.4%と低くなっています。



## （５）部活動の地域移行に関する課題で気になること

全体では、「指導者の質や技術力」が 56.7%と最も高く、次いで「活動場所への移動や活動時間」が 46.5%、「保護者の費用負担」が 40.4%となっています。

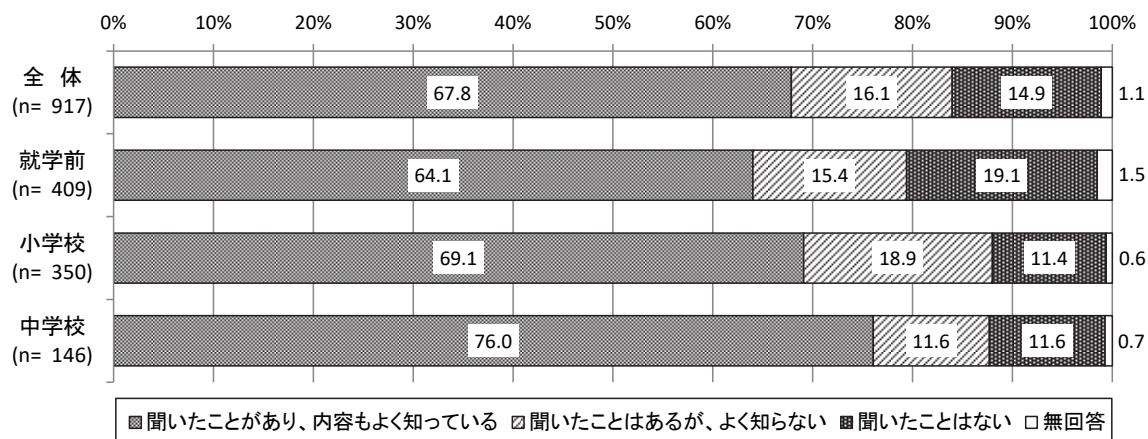
子どもの就学状況別に見ると、就学前、小学校に比べ中学校では「指導者の質や技術力」の割合が低く、「同じ学校の教員・生徒とのつながり」が高くなっています。



## (6)「ヤングケアラー」という言葉の認知度

全体では、「聞いたことがあり、内容もよく知っている」が67.8%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が16.1%、「聞いたことはない」が14.9%となっています。

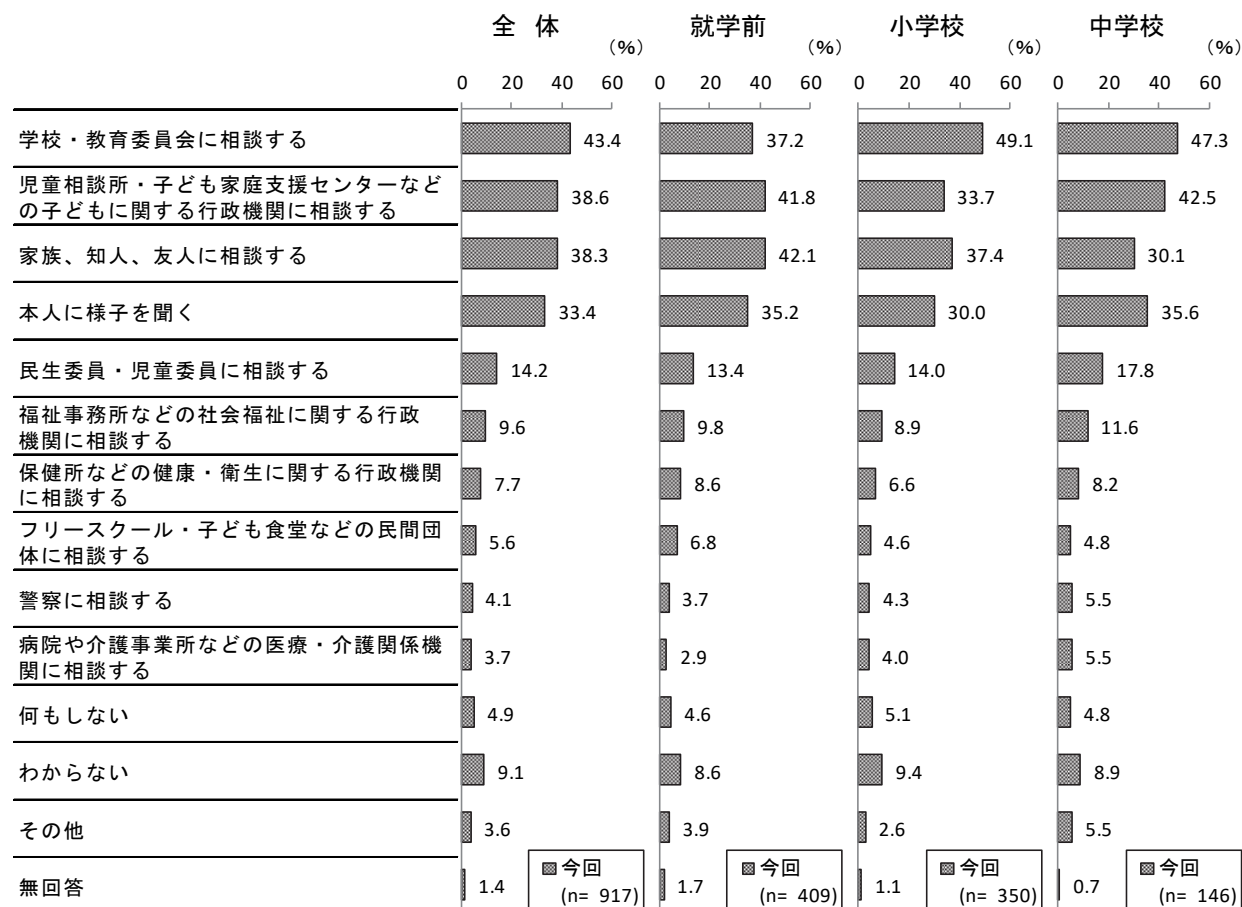
子どもの就学状況別に見ると、「聞いたことがあり、内容もよく知っている」は、就学前では64.1%、小学校では69.1%、中学校では76.0%となっています。



## (7)「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合の対応

全体では、「学校・教育委員会に相談する」が43.4%と最も高く、次いで「児童相談所・子ども家庭支援センターなどの子どもに関する行政機関に相談する」が38.6%、「家族、知人、友人に相談する」が38.3%となっています。

子どもの就学状況別に見ると、就学前では「家族、知人、友人に相談する」が最も高く、小学校、中学校では「学校・教育委員会に相談する」がそれぞれ最も高くなっています。



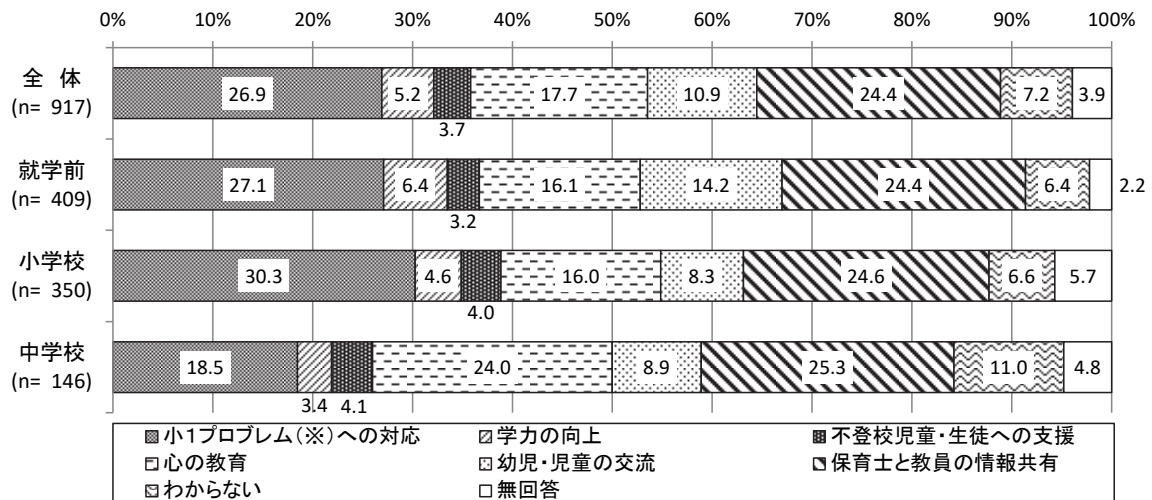
## 9 北区の教育行政について

### (1)「学校ファミリー」で実施している教育施策に対する考え

#### ①保幼小連携で重点的に取り組むべき活動

全体では、「小1プロブレムへの対応」が26.9%と最も高く、次いで「保育士と教員の情報共有」が24.4%、「心の教育」が17.7%となっています。

子どもの就学状況別に見ると、就学前、小学校に比べ中学校では「心の教育」が高くなっています。

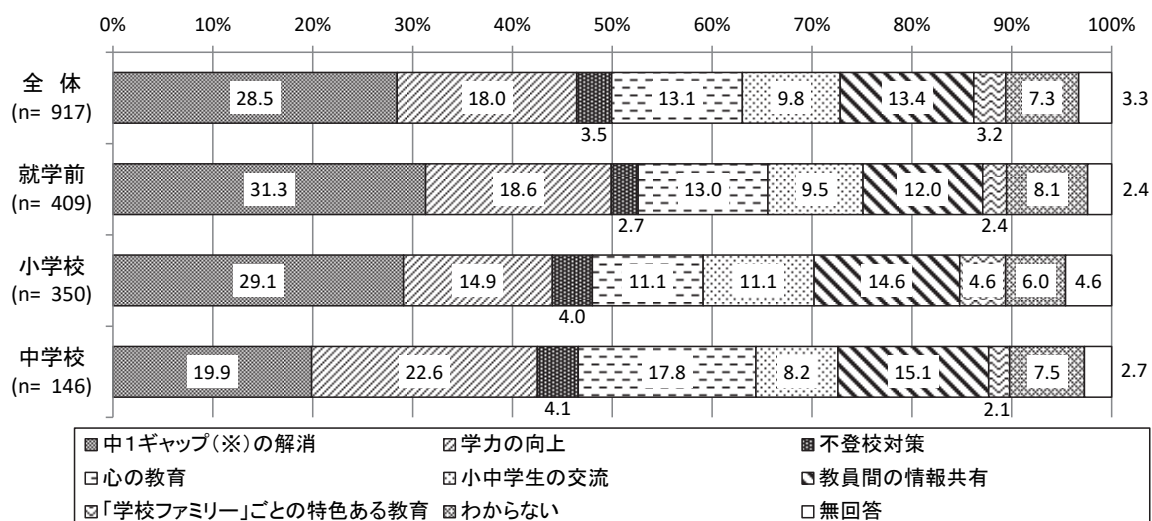


※ 小1プロブレム：小学校1年生の学級において、入学後の落ち着かない状態がいつまでも解消されず、教師の話をきかない、授業中に座ってられないなど、授業規律が成立しない状態へと拡大し、こうした状態が数か月に渡って継続する状態。

#### ②小中一貫教育で重点的に取り組むべき活動

全体では、「中1ギャップの解消」が28.5%と最も高く、次いで「学力の向上」が18.0%、「教員間の情報共有」が13.4%となっています。

子どもの就学状況別に見ると、就学前、小学校に比べ中学校では「学力の向上」がやや高くなっています。

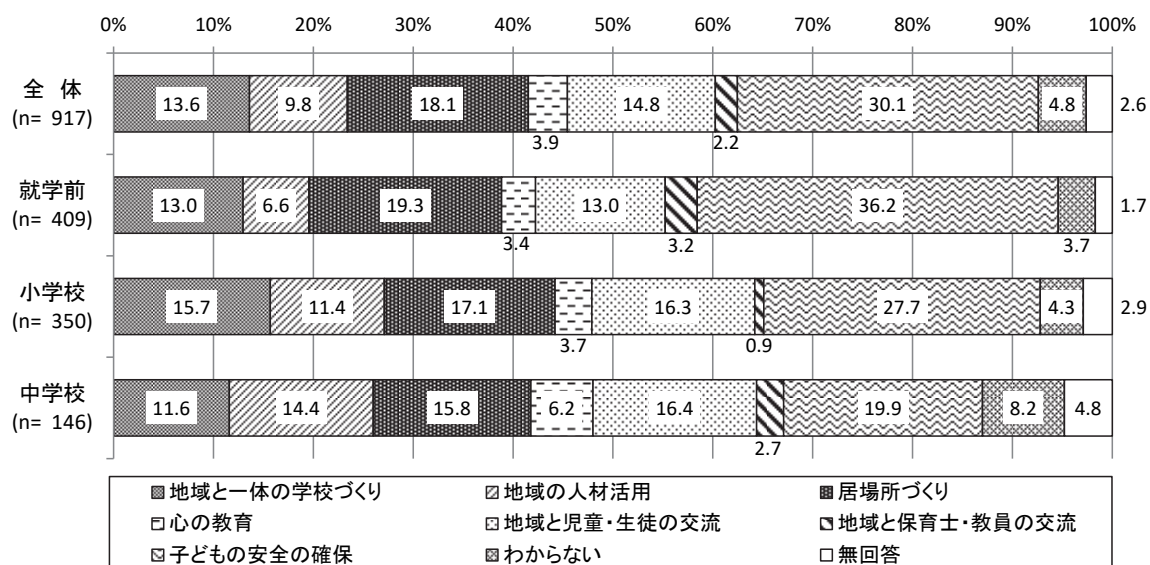


※ 中1ギャップ：中学1年生になった途端、学習内容や生活リズムの変化になじめずに不登校となったり、いじめが急増したりする現象。

## （２）地域と学校との連携を進める上で重点的に取り組むべき活動

全体では、「子どもの安全の確保」が 30.1%と最も高く、次いで「居場所づくり」が 18.1%、「地域と児童・生徒の交流」が 14.8%となっています。

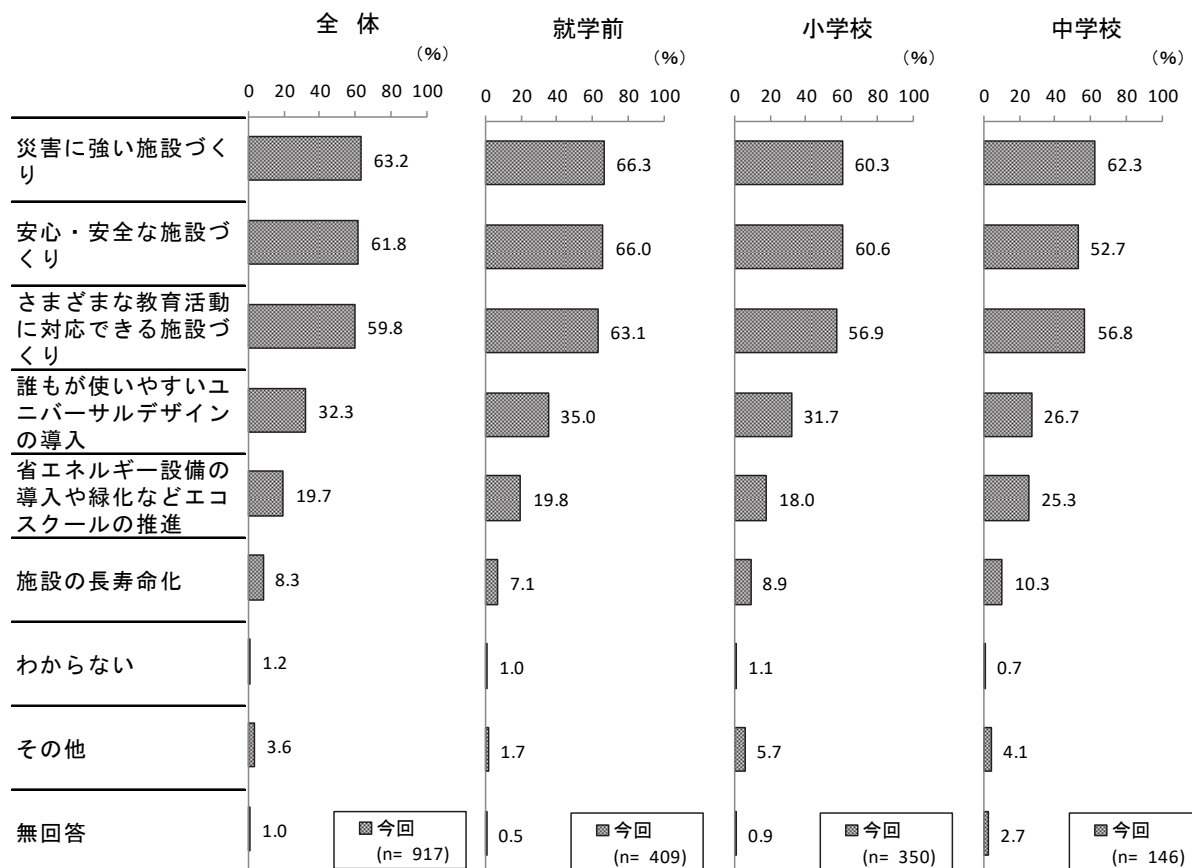
子どもの就学状況別に見ると、「子どもの安全の確保」は就学前で特に高くなっています。



## （３）学校施設の整備で優先的に行うべきこと

全体では、「災害に強い施設づくり」が 63.2%と最も高く、次いで「安心・安全な施設づくり」が 61.8%、「さまざまな教育活動に対応できる施設づくり」が 59.8%となっています。

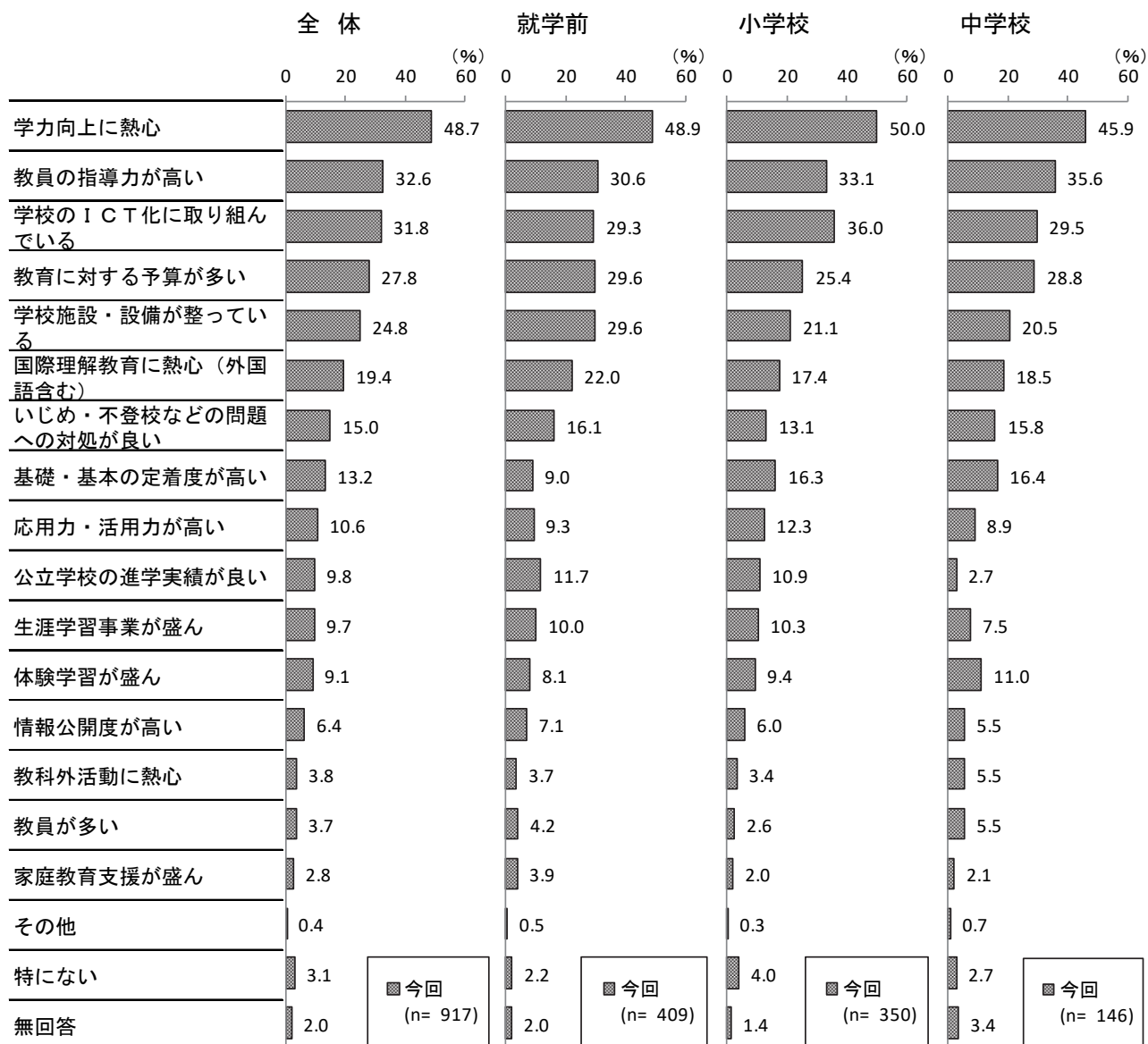
子どもの就学状況別に見ると、就学前、小学校に比べ中学校では「省エネルギー設備の導入や緑化などエコスクールの推進」の割合が高くなっています。



#### (4)「教育先進都市」のイメージ

全体では、「学力向上に熱心」が 48.7%と最も高く、次いで「教員の指導力が高い」が 32.6%、「学校のＩＣＴ化に取り組んでいる」が 31.8%となっています。

子どもの就学状況別に見ると、小学校では「学校のＩＣＴ化に取り組んでいる」の割合がやや高くなっています。

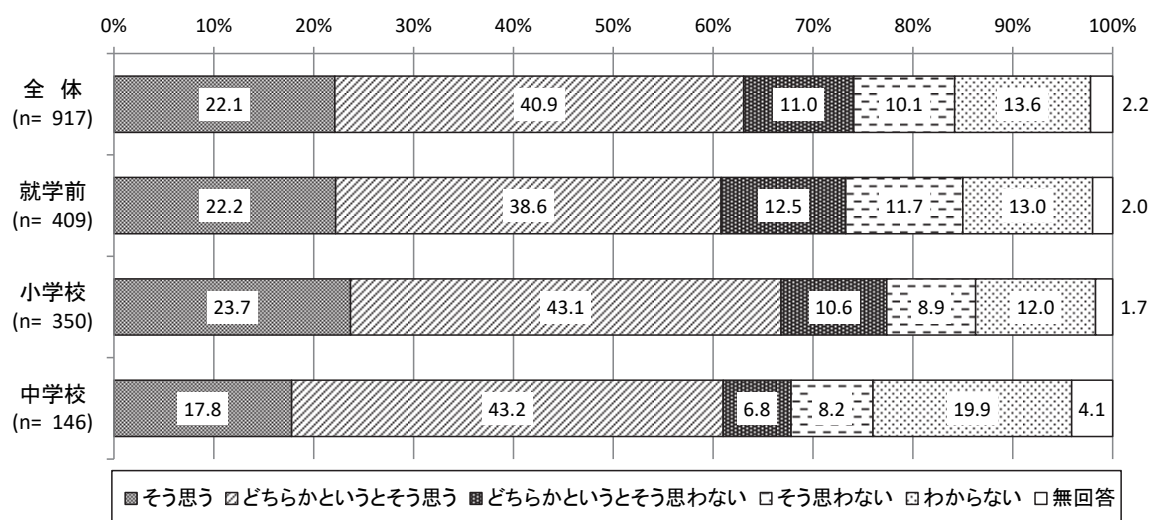


## 10 生涯学習について

### (1) 自分ができることを地域や学校で活かしたいか

全体では、「そう思う」が22.1%、「どちらかというと思う」が40.9%で、合わせて63.0%が『そう思う』と回答しています。一方、「どちらかというと思わない」が11.0%、「そう思わない」が10.1%で、合わせて21.1%が『そう思わない』と回答しています。

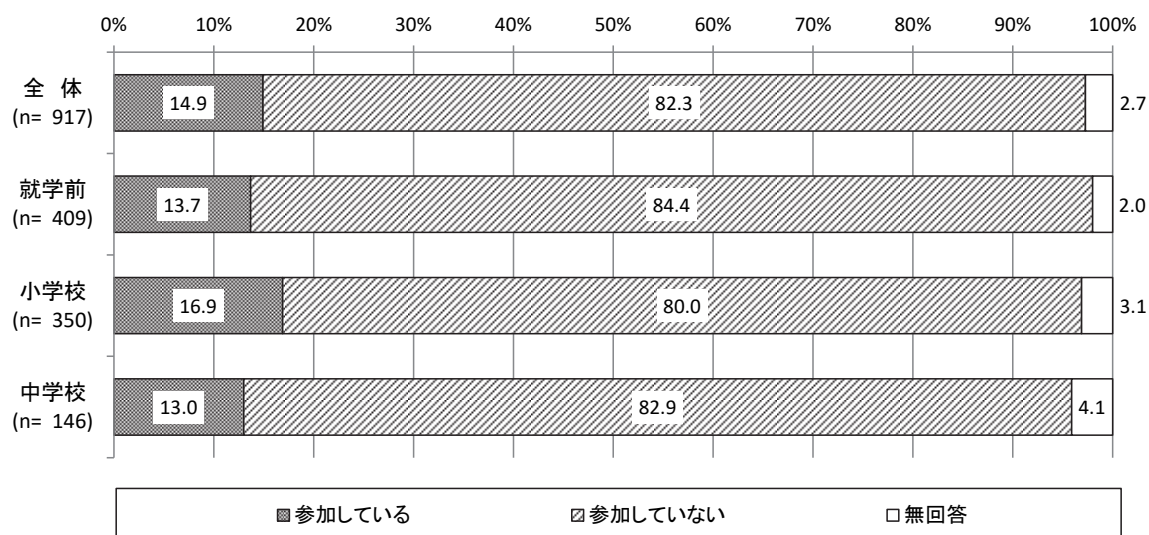
子どもの就学状況別に見ると、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかというと思う」）は、就学前では60.8%、小学校では66.8%、中学校では61.0%となっています。



### (2) 生涯学習活動への参加状況

全体では、「参加している」が14.9%、「参加していない」が82.3%となっています。

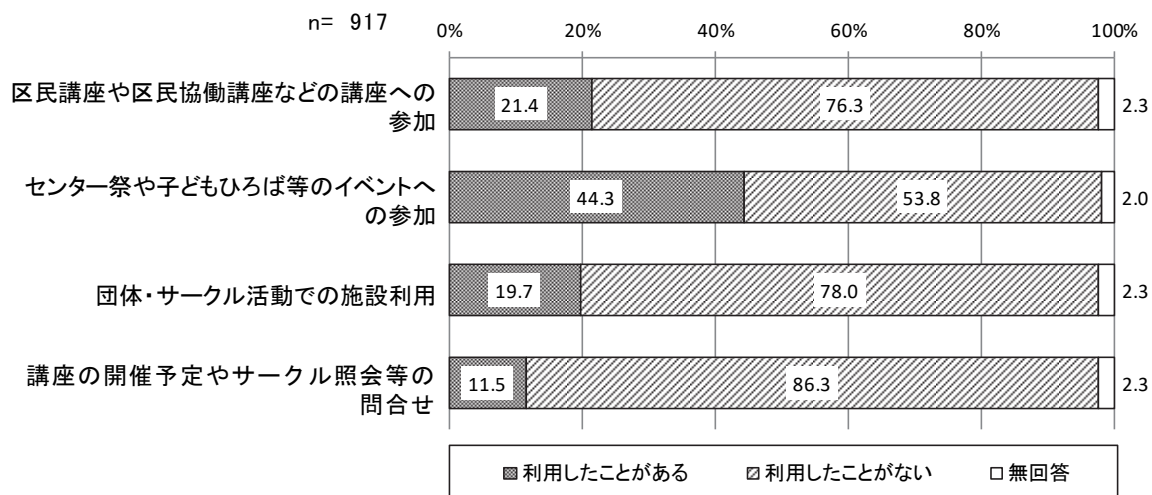
子どもの就学状況別に見ると、就学前、小学校、中学校とも「参加している」は2割未満となっています。



### （３）文化センターの利用度及び利用満足度

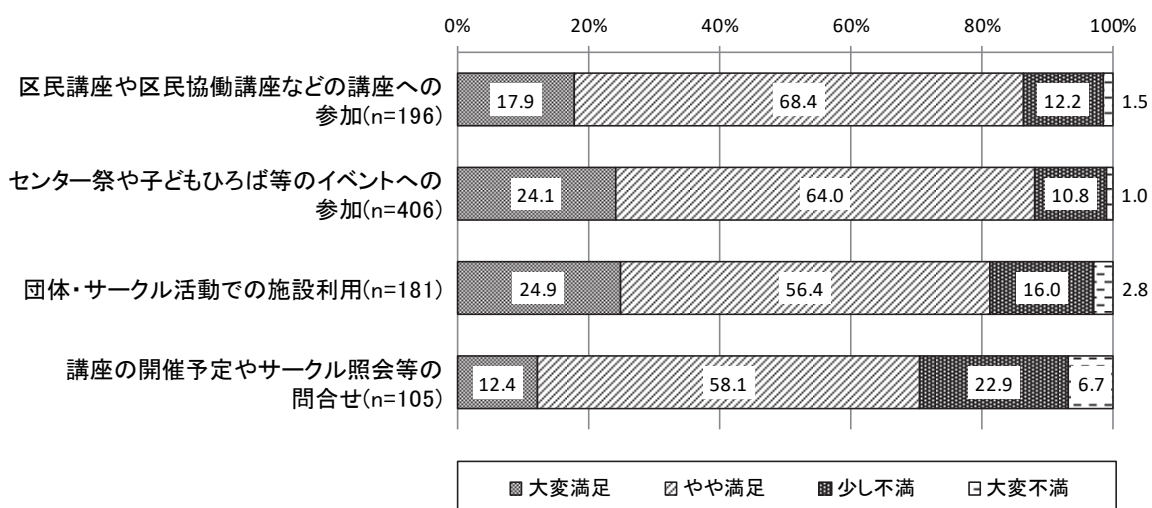
#### ①利用度（全体）

「利用したことがある」は「センター祭や子どもひろば等のイベントへの参加」が44.3%と最も高く、次いで「区民講座や区民協働講座などの講座への参加」が21.4%となっています。一方、「利用したことがない」は「講座の開催予定やサークル照会等の問合せ」が86.3%と最も高く、次いで、「団体・サークル活動での施設利用」が78.0%となっています。



#### ②満足度（全体）

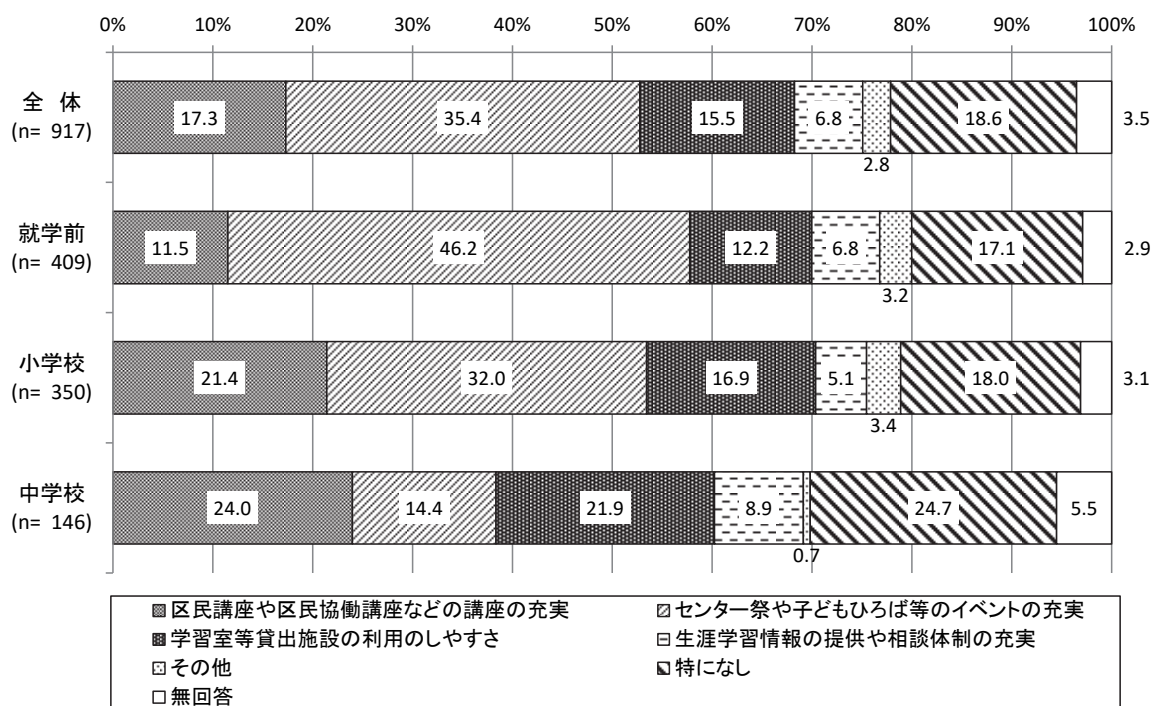
「利用したことがある」方で『満足』（「大変満足」＋「やや満足」）という回答は、「センター祭や子どもひろば等のイベントへの参加」が88.1%と最も高く、次いで「区民講座や区民協働講座などの講座への参加」が86.3%となっています。一方、『不満』（「少し不満」＋「大変不満」）という回答は、「講座の開催予定やサークル照会等の問合せ」が29.6%と最も高く、次いで、「団体・サークル活動での施設利用」が18.8%となっています。



#### （４）今後、文化センターに期待すること

全体では、「センター祭や子どもひろば等のイベントの充実」が 35.4%と最も高く、次いで「区民講座や区民協働講座などの講座の充実」が 17.3%、「学習室等貸出施設の利用のしやすさ」が 15.5%となっています。

子どもの就学状況別に見ると、「区民講座や区民協働講座などの講座の充実」と「学習室等貸出施設の利用のしやすさ」は就学先が上がるにつれて高くなっています。一方、「センター祭や子どもひろば等のイベントの充実」は就学先が上がるにつれて低くなっています。

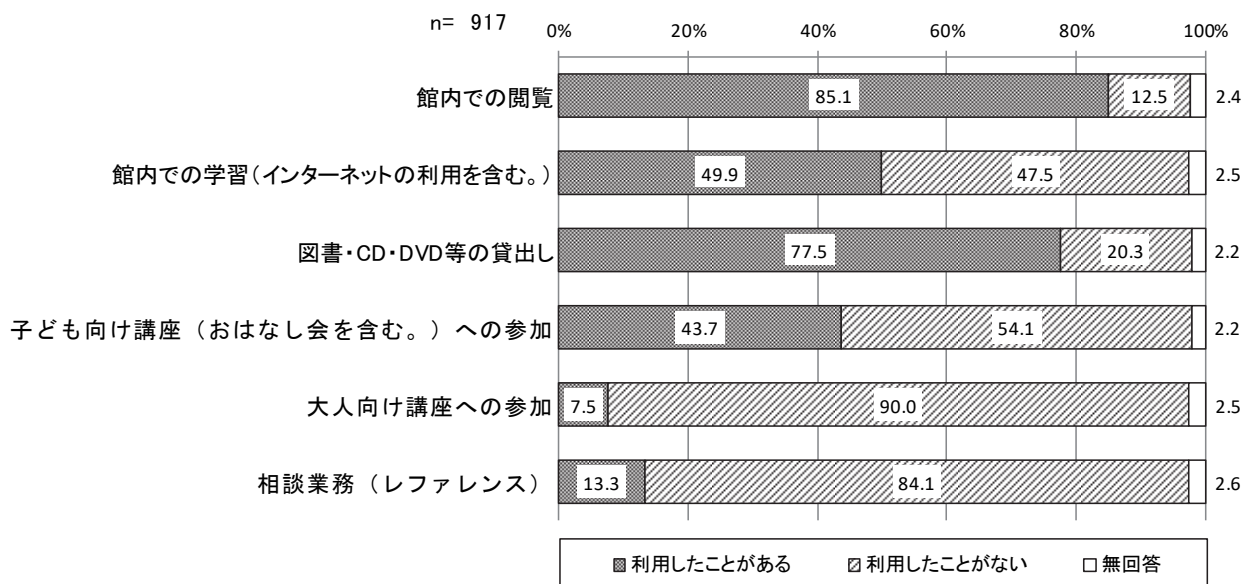


## （５）区立図書館の利用度及び利用満足度

### ①利用度（全体）

「利用したことがある」は「館内での閲覧」が85.1%と最も高く、次いで「図書・CD・DVD等の貸出し」が77.5%となっています。

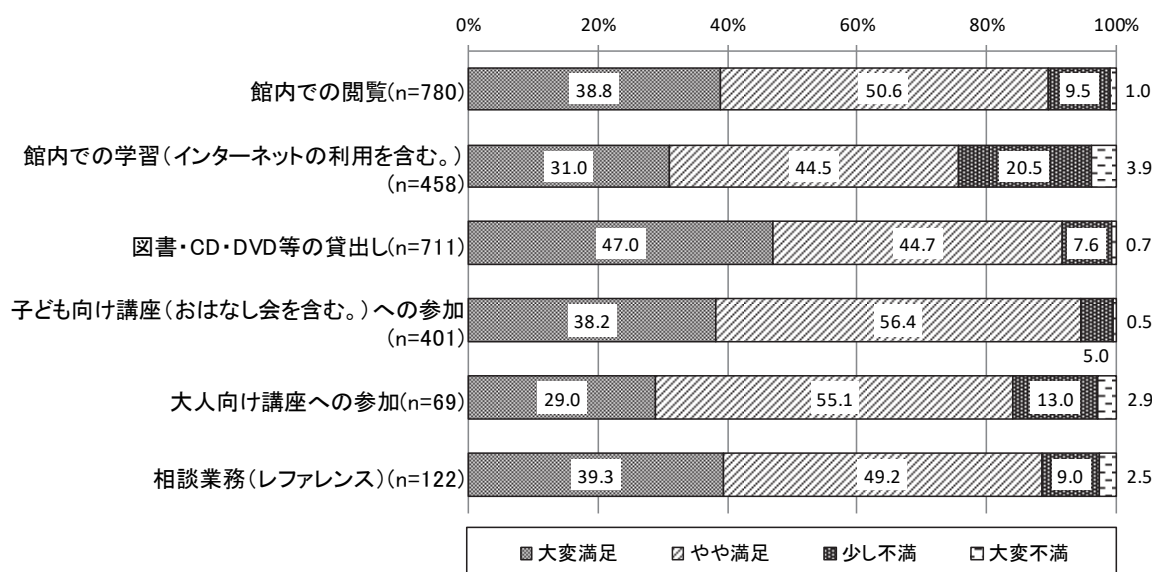
一方、「利用したことがない」は「大人向け講座への参加」が90.0%と最も高く、次いで、「相談業務（レファレンス）」が84.1%となっています。



### ②満足度（全体）

「利用したことがある」方で『満足』（「大変満足」＋「やや満足」）という回答は、「子ども向け講座（おはなし会を含む。）への参加」が94.6%と最も高く、次いで「図書・CD・DVD等の貸出し」が91.7%となっています。

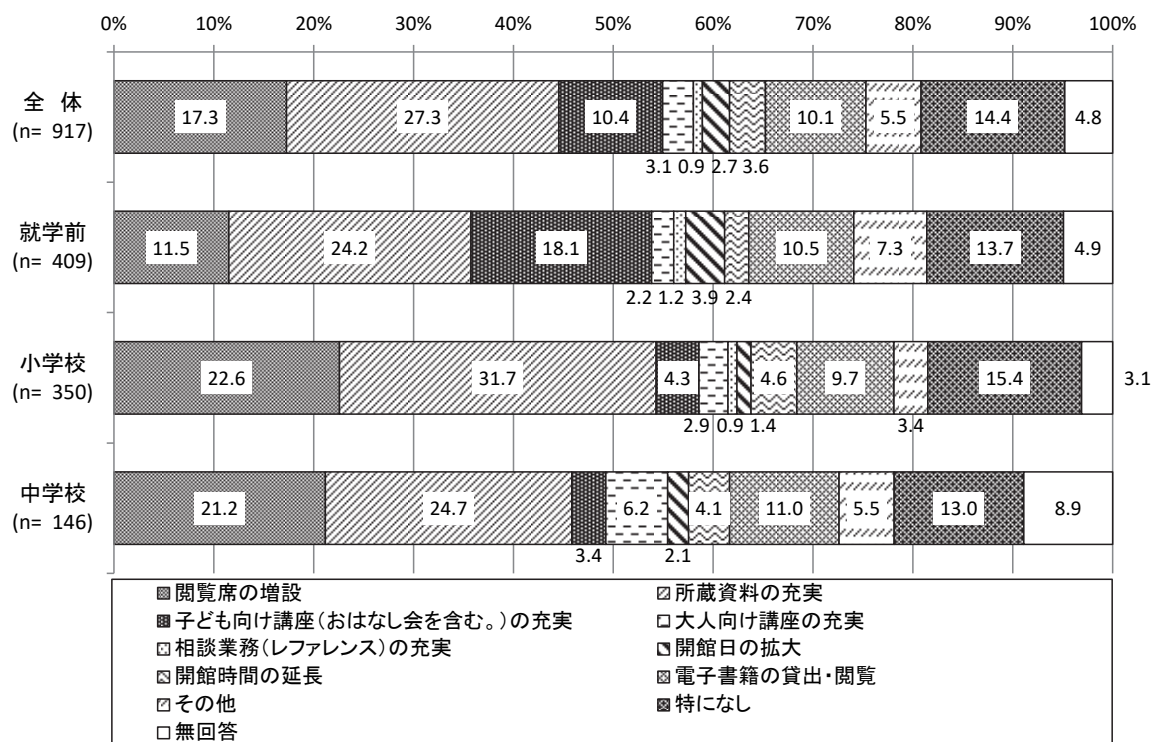
一方、『不満』（「少し不満」＋「大変不満」）という回答は、「館内での学習（インターネットの利用を含む。）」が24.4%と最も高く、次いで、「大人向け講座への参加」が15.9%となっています。



## （６）今後、区立図書館に期待すること

全体では、「所蔵資料の充実」が 27.3%と最も高く、次いで「閲覧席の増設」が 17.3%、「子ども向け講座（おはなし会を含む。）の充実」が 10.4%となっています。

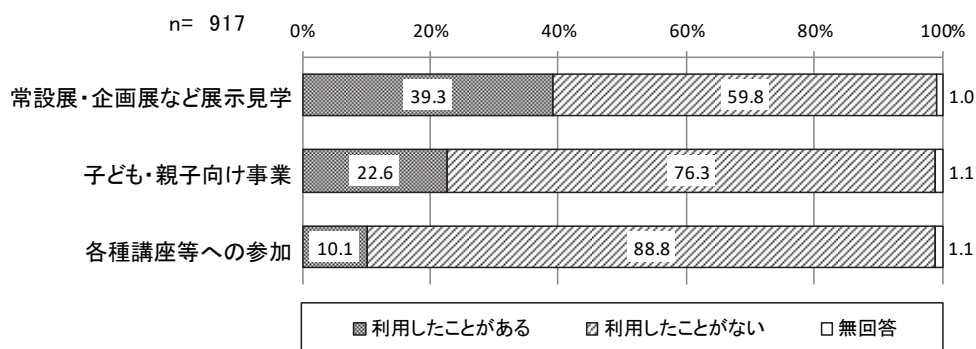
子どもの就学状況別に見ると、小学校、中学校では「閲覧席の増設」の割合が高く、就学前では「子ども向け講座（おはなし会を含む。）の充実」の割合が高くなっています。



## （７）飛鳥山博物館の利用度及び利用満足度

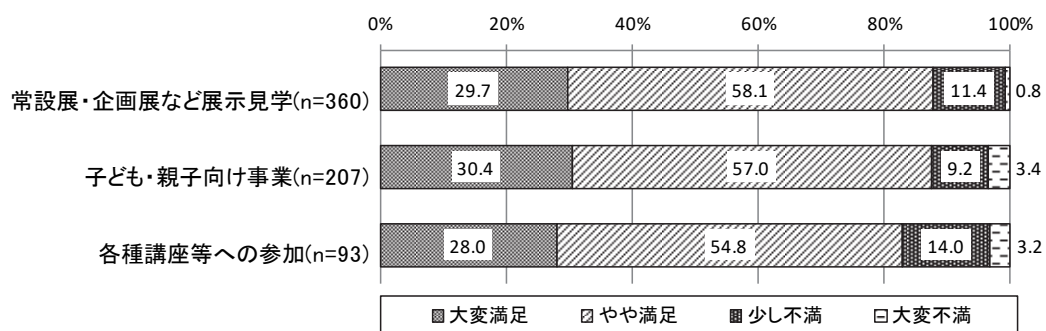
### ①利用度（全体）

「利用したことがある」は「常設展・企画展など展示見学」が 39.3%と最も高く、次いで、「子ども・親子向け事業」が 22.6%、「各種講座等への参加」が 10.1%となっています。



### ②満足度（全体）

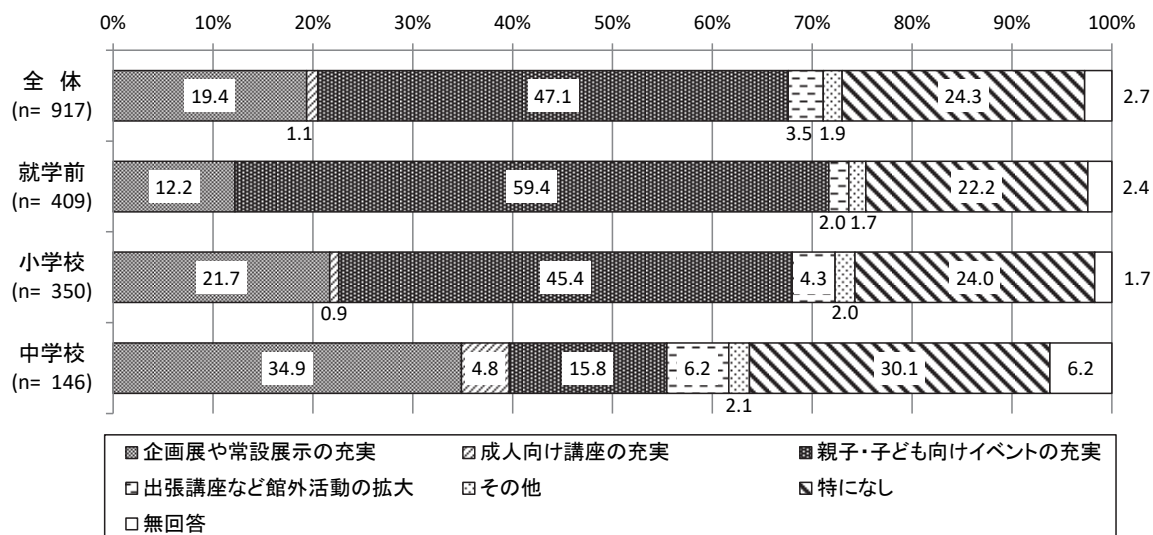
「利用したことがある」方で『満足』（「大変満足」＋「やや満足」）という回答は、「常設展・企画展など展示見学」が 87.8%と最も高く、次いで「子ども・親子向け事業」が 87.4%、「各種講座等への参加」が 82.8%となっています。



## （８）今後、飛鳥山博物館に期待すること

全体では、「親子・子ども向けイベントの充実」が 47.1%と最も高く、次いで「企画展や常設展示の充実」が 19.4%となっています。

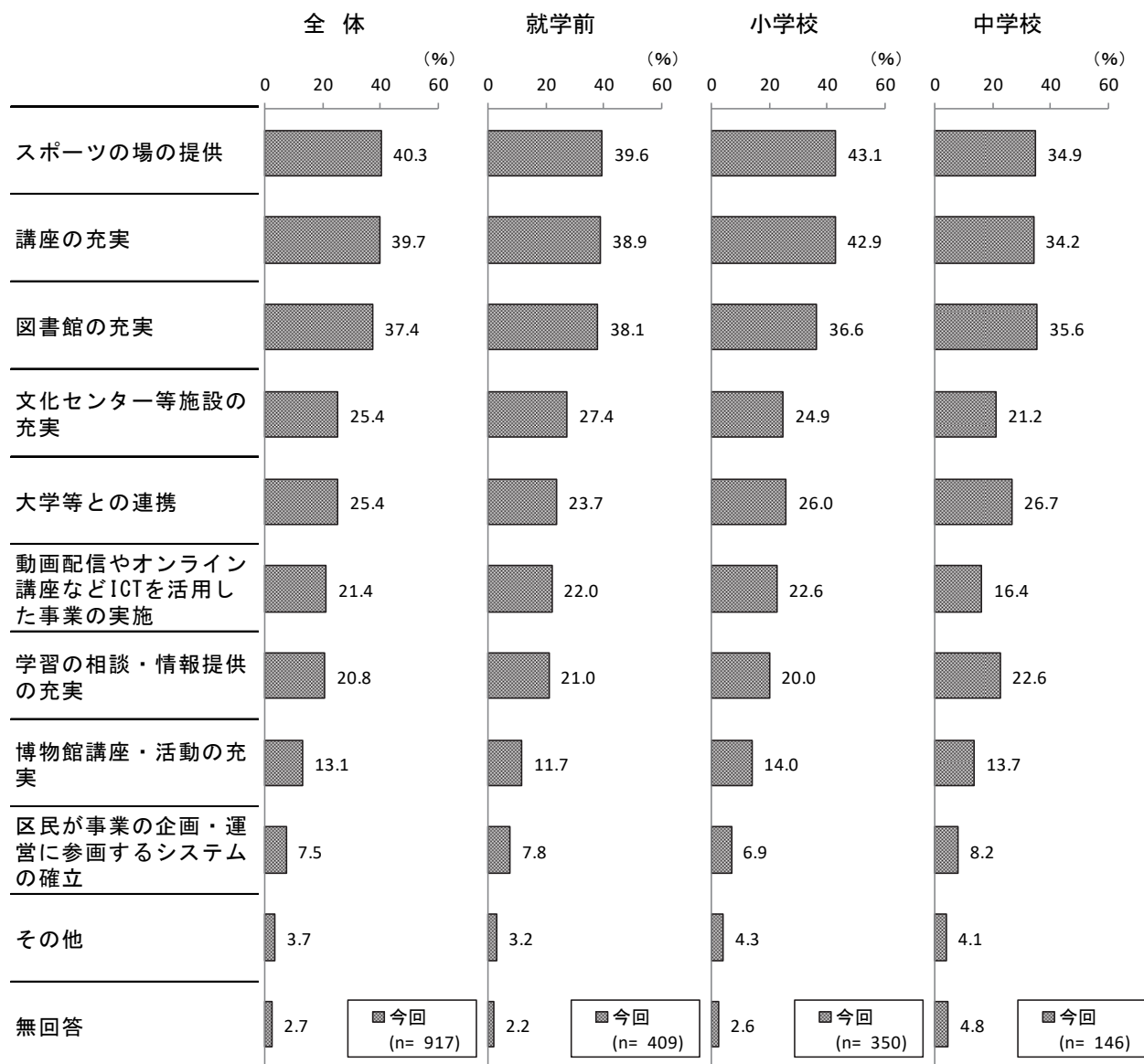
子どもの就学状況別に見ると、「企画展や常設展示の充実」は就学先が上がるにつれて高くなっています。一方、「親子・子ども向けイベントの充実」は就学先が上がるにつれて低くなっています。



### (9) 生涯学習のために力を入れて欲しいこと

全体では、「スポーツの場の提供」が 40.3%と最も高く、次いで「講座の充実」が 39.7%、「図書館の充実」が 37.4%となっています。

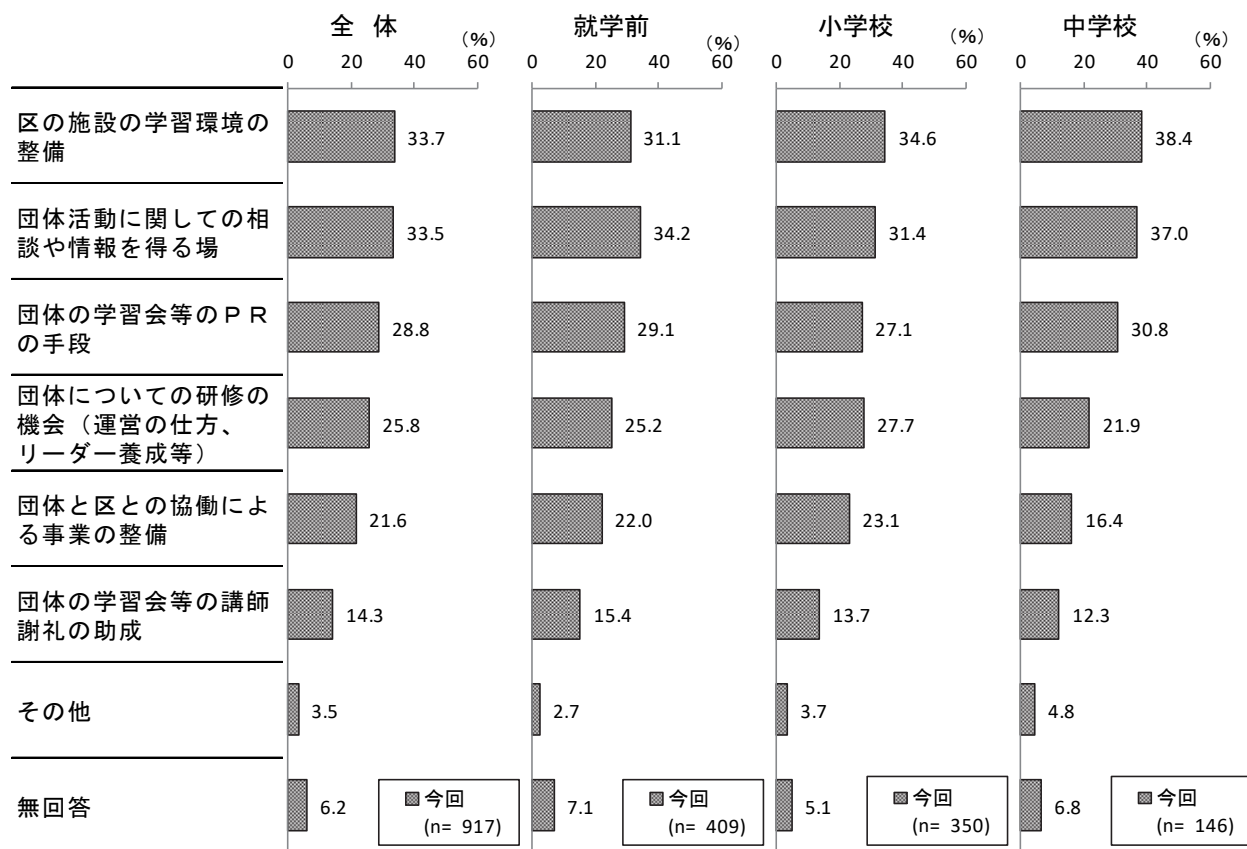
子どもの就学状況別に見ると、就学前、小学校と比べ中学校では「スポーツの場の提供」、「講座の充実」の割合が低くなっています。



## (10) グループや団体の自主的な活動を盛んにするために必要な区の支援

全体では、「区の施設の学習環境の整備」が 33.7%と最も高く、次いで「団体活動に関する相談や情報を得る場」が 33.5%、「団体の学習会等のPRの手段」が 28.8%となっています。

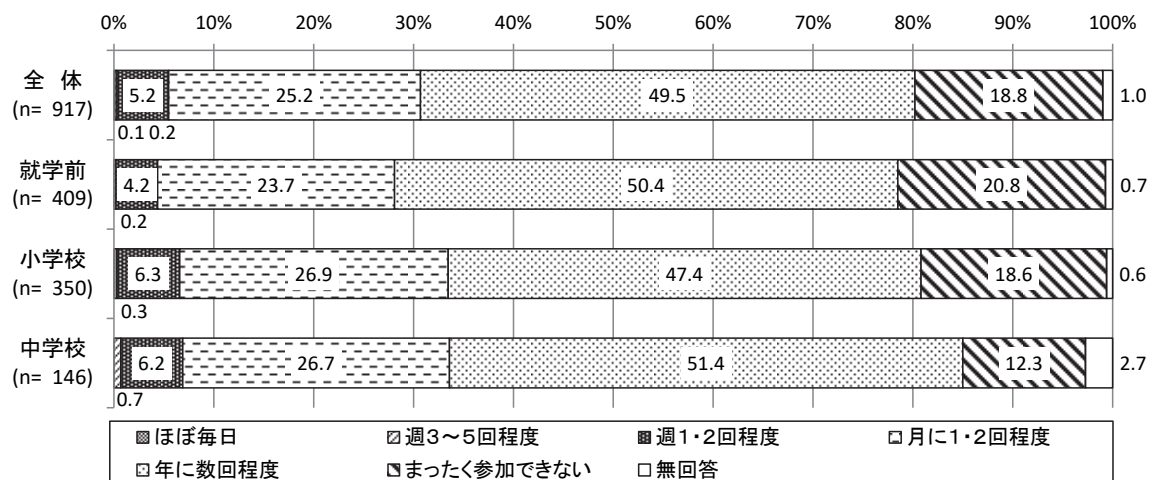
子どもの就学状況別に見ると、「区の施設の学習環境の整備」は就学先が上がるにつれて高くなっています。



## (11) ボランティア活動に参加できる頻度

全体では、「年に数回程度」が 49.5%と最も高く、次いで「月に1・2回程度」が 25.2%となっています。一方、「まったく参加できない」は 18.8%となっています。

子どもの就学状況別に見ると、就学前、小学校、中学校とも「年に数回程度」が5割前後を占めています。



## 11 自由意見について

有効回収数 917 票中 331 票に記述がありました（1 票の中に複数の分野にまたがる回答もあるため、各項目の回答件数の和は 331 件より多くなっています。）。

項 目	件数
<b>（１）教育内容に関すること</b>	<b>134</b>
① 学力	15
② 英語教育	13
③ 心の教育	6
④ いじめ・不登校	10
⑤ 健康・体力	7
⑥ 就学前教育・保育	24
⑦ 個に応じた教育	12
⑧ 特別支援教育	11
⑨ 安全教育	7
⑩ ＩＣＴ教育	14
⑪ 教育の質の向上	15
<b>（２）学校づくり・教育環境に関すること</b>	<b>183</b>
① 教職員	49
② 特色ある学校づくり、学校運営	33
③ 二学期制	10
④ 学区域、学校の適正規模	16
⑤ 学校施設・設置等の環境	17
⑥ 放課後子どもプラン（学童クラブ含む）	8
⑦ 部活動について	7
⑧ 成績評価について	8
⑨ きたコンについて	24
⑩ コロナ禍での行事・イベントの制限	11
<b>（３）家庭・地域の教育に関すること</b>	<b>58</b>
① 家庭との連携	13
② 地域との連携	4
③ 放課後等の子どもの活動	8
④ 安全・安心な地域環境	23
⑤ 保護者の負担軽減	10
<b>（４）生涯学習活動に関すること</b>	<b>36</b>
① 生涯学習活動	3
② 子ども向けの講座・イベント等	10
③ 生涯学習関連施設・設備	23
<b>（５）教育行政に関すること</b>	<b>67</b>
① 情報発信、共有について	17
② 教育費などへの支援の充実	15
③ その他教育行政について	35
<b>（６）アンケートについて</b>	<b>27</b>
<b>（７）その他</b>	<b>26</b>
<b>合 計</b>	<b>531</b>



「北区教育ビジョン 2024」策定に係る  
アンケート調査報告書 概要版

刊行物登録番号 4-1-101

発行年月 令和5年2月

発行 北区教育委員会事務局教育振興部教育政策課  
〒114-8546 北区滝野川2丁目52番10号  
電話 03-3908-9279

調査協力 株式会社 マーケティング・リサーチ・サービス





